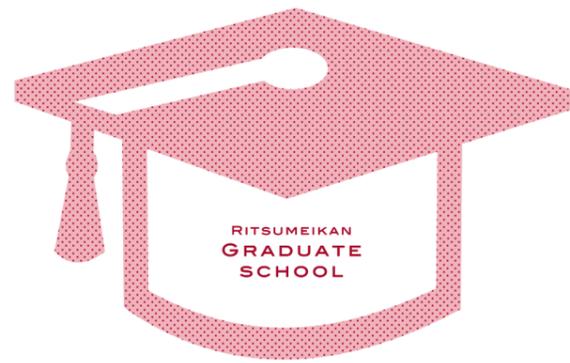


# 立命館大学

## 大学院案内 2019



### 立命館大学 大学院

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1  
大学院課 衣笠キャンパス 至徳館4F  
Tel:075-465-8195

立命館大学 大学院 入試情報サイト

詳しい情報はホームページをご覧ください。 <http://www.ritsumei.ac.jp/gr/>

本案内に掲載されている内容については、変更または中止となる場合があります。



2018.04



## 立命館憲章

立命館は、西園寺公望を学祖とし、1900年、中川小十郎によって京都法政学校として創設された。「立命」の名は、『孟子』の「尽心章句」に由来し、立命館は「学問を通じて、自らの人生を切り拓く修養の場」を意味する。

立命館は、建学の精神を「自由と清新」とし、第2次世界大戦後、戦争の痛苦の体験を踏まえて、教学理念を「平和と民主主義」とした。

立命館は、時代と社会に真摯に向き合い、自主性を貫き、幾多の困難を乗り越えながら、広く内外の協力と支援を得て私立総合学園への道を歩んできた。

立命館は、アジア太平洋地域に位置する日本の学園として、歴史を誠実に見つめ、国際相互理解を通じた多文化共生の学園を確立する。

立命館は、教育・研究および文化・スポーツ活動を通じて信頼と連帯を育み、地域に根ざし、国際社会に開かれた学園づくりを進める。

立命館は、学園運営にあたって、私立の学園であることの特性を活かし、自主、民主、公正、公開、非暴力の原則を貫き、教職員と学生の参加、校友と父母の協力のもとに、社会連携を強め、学園の発展に努める。

立命館は、人類の未来を切り拓くために、学問研究の自由にに基づき普遍的な価値の創造と人類の諸課題の解明に邁進する。その教育にあたっては、建学の精神と教学理念に基づき、「未来を信じ、未来に生きる」の精神をもって、確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、正義と倫理をもった地球市民として活躍できる人間の育成に努める。

立命館は、この憲章の本旨を踏まえ、教育・研究機関として世界と日本の平和的・民主的・持続的発展に貢献する。

2006年7月21日 学校法人 立命館

## Contents

立命館大学大学院 研究科の概要	02	スポーツ健康科学研究科	33
Topic1 特色あるキャンパス、研究施設	03	理工学研究科	35
Topic2 キャリアパス形成支援	05	情報理工学研究科	37
Topic3 学費・奨学金	08	生命科学研究科	39
Topic4 立命館の研究力	11	薬学研究科	41
Student's Voice	13	経営学研究科	43
Professor's Voice	15	政策科学研究科	45
法学研究科	17	テクノロジー・マネジメント研究科	47
社会学研究科	19	経営管理研究科[ビジネススクール]	49
国際関係研究科	21	人間科学研究科	51
文学研究科	23	法科大学院[法務研究科]	53
映像研究科	25	教職研究科[教職大学院]	55
言語教育情報研究科	27	各キャンパスへのアクセス	57
先端総合学術研究科	29	立命館大学大学院に関する情報の入手方法	58
経済学研究科	31		

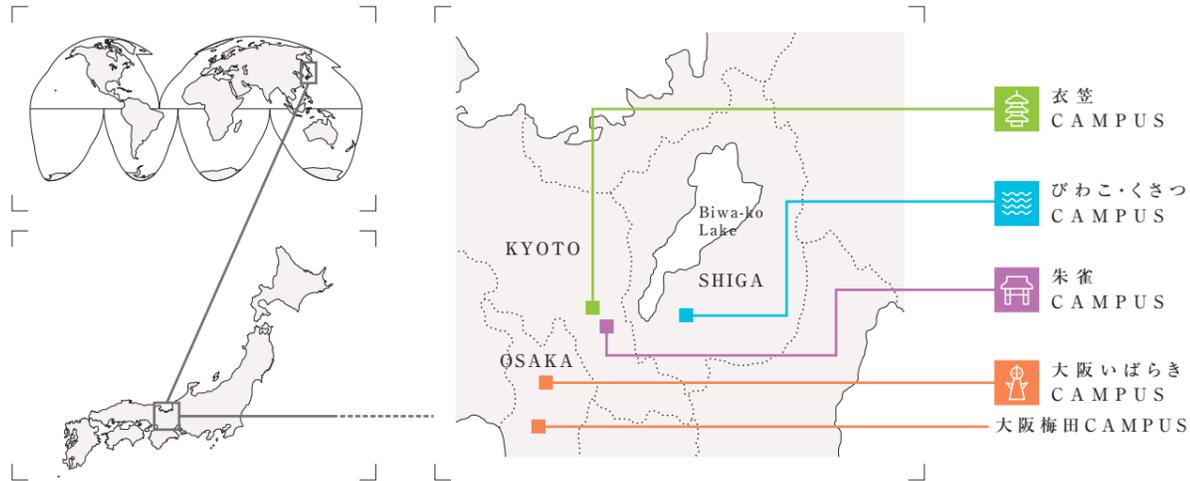
## 立命館大学大学院 研究科の概要

	課程	専攻	学位	入学定員
衣笠 CAMPUS	法学研究科 Graduate School of Law			
	博士課程前期課程	法学専攻	修士(法学)	60名
	博士課程後期課程	法学専攻	博士(法学)	10名
	社会学研究科 Graduate School of Sociology			
	博士課程前期課程	応用社会学専攻	修士(社会学)	60名
	博士課程後期課程	応用社会学専攻	博士(社会学)	15名
	国際関係研究科 Graduate School of International Relations			
	博士課程前期課程	国際関係学専攻	修士(国際関係学)	60名
	博士課程後期課程	国際関係学専攻	博士(国際関係学)	10名
	文学研究科 Graduate School of Letters			
	博士課程前期課程	人文学専攻	修士(文学)	70名
		行動文化情報学専攻	修士(文学)	35名
	博士課程後期課程	人文学専攻	博士(文学)	20名
		行動文化情報学専攻	博士(文学)	15名
	修士課程	映像専攻	修士(映像)	10名
寺	言語教育情報研究科 Graduate School of Language Education and Information Science			
	修士課程	言語教育情報専攻	修士(言語教育情報学)	60名
	先端総合学術研究科 Graduate School of Core Ethics and Frontier Sciences			
	一貫制博士課程	先端総合学術専攻	博士(学術)	30名
びわこくさつ CAMPUS	経済学研究科 Graduate School of Economics			
	博士課程前期課程	経済学専攻	修士(経済学)	50名
	博士課程後期課程	経済学専攻	博士(経済学)	5名
	スポーツ健康科学研究科 Graduate School of Sport and Health Science			
	博士課程前期課程	スポーツ健康科学専攻	修士(スポーツ健康科学)	25名
	博士課程後期課程	スポーツ健康科学専攻	博士(スポーツ健康科学)	8名
	理工学研究科 Graduate School of Science and Engineering			
	博士課程前期課程	基礎理工学専攻	修士(理学)修士(工学)	50名
		電子システム専攻	修士(工学)	140名
		機械システム専攻	修士(工学)	140名
		環境都市専攻	修士(工学)	120名
	博士課程後期課程	基礎理工学専攻	博士(理学)博士(工学)	6名
電子システム専攻		博士(工学)	8名	
	機械システム専攻	博士(工学)	11名	
	環境都市専攻	博士(工学)	15名	
	情報理工学研究科 Graduate School of Information Science and Engineering			
	博士課程前期課程	情報理工学専攻	修士(工学)	200名
	博士課程後期課程	情報理工学専攻	博士(工学)	15名
	生命科学研究科 Graduate School of Life Sciences			
	博士課程前期課程	生命科学専攻	修士(理学)修士(工学)	150名
	博士課程後期課程	生命科学専攻	博士(理学)博士(工学)	15名
	博士課程	薬学専攻	博士(薬学)	3名
大阪いばらき CAMPUS	経営学研究科 Graduate School of Business Administration			
	博士課程前期課程	企業経営専攻	修士(経営学)	60名
	博士課程後期課程	企業経営専攻	博士(経営学)	15名
	政策科学研究科 Graduate School of Policy Science			
	博士課程前期課程	政策科学専攻	修士(政策科学)	40名
	博士課程後期課程	政策科学専攻	博士(政策科学)	15名
	テクノロジー・マネジメント研究科 Graduate School of Technology Management			
	博士課程前期課程	テクノロジー・マネジメント専攻	修士(技術経営)	70名
	博士課程後期課程	テクノロジー・マネジメント専攻	博士(技術経営)	5名
	専門職学位課程	経営管理専攻	経営修士(専門職)	80名
人	人間科学研究科 Graduate School of Human Science			
	博士課程前期課程	人間科学専攻	修士(人間科学)修士(心理学)	65名
	博士課程後期課程	人間科学専攻	博士(人間科学)博士(心理学)	20名
朱雀 CAMPUS	法科大学院[法務研究科] School of Law			
	専門職学位課程	法曹養成専攻	法務博士(専門職)	70名
	専門職学位課程	実践教育専攻	教職修士(専門職)	35名

・言語教育情報、テクノロジー・マネジメント、経営管理、および薬学の各研究科は、夜間にも講義を行っています。詳細は各研究科のHPをご覧ください。各研究科事務室までお問合せください。

## 地域に根ざし、世界と協働する 教育・研究を支える4つのキャンパス

21世紀の社会が求めるグローバル人材育成のためには、新しい教育プログラム、研究環境の充実が必要となります。国際社会で広く活躍できる人材をこれまで以上に育てていくための新たな環境づくりの一つとして、2015年4月に「大阪いばらきキャンパス」を開設しました。京都、滋賀、大阪というそれぞれに特色あるエリアにキャンパスを設置することで、キャンパス間で相互連携を図り、広く知識と情報の共有を可能にしていきます。また、近年では新しい教育・研究施設の建設も進み、これまで以上に教育・研究の環境充実と高度化を進めています。

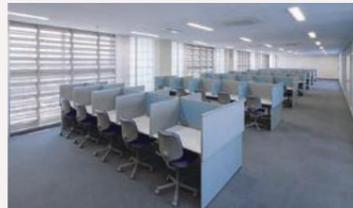


### ■大学院生の学修・研究環境

立命館大学では、大学院生の多様な研究スタイルに対応できる環境の整備を進めています。

#### 個人で学修・研究を集中して行える 「研究スペース」

静寂性に配慮したクローズな空間として大学院共同研究室を整備。パーティションで仕切られたキャレラデスクで論文執筆や発表資料などを落ち着いて進めることができます。



大学院共同研究室 (OIC)

#### 研究成果を発信して 研究科を越えた交流を促進する 「コミュニケーションスペース」

オープンな形式でのセミナーやプレゼンテーション、ポスターセッションを開催するなど、研究科を越えてコミュニケーションが図れるスペース。キッチンやカウンターも完備し、一息つけるラウンジとしての空間もあります。



究論館パフォーマンススペース (衣笠)

#### グループでの作業やミーティングで活用できる 「打ち合わせスペース」

共同研究などでグループ作業を行う際や簡単なミーティングをすることができるスペースを整備。パソコンやプリンターもあります。



究論館打ち合わせスペース (衣笠)



リサーチ・commons (OIC)

### ■キャンパス紹介



#### 京都／衣笠 CAMPUS

古都・京都の歴史と文化が息づく、  
多様な人文社系研究科が集まるキャンパス

古くから日本の中心として、長く厚みのある歴史をもち、多くの文化遺産に囲まれた地、京都。その中でも、古都の名利に囲まれた閑静なエリアに位置し、日本の伝統や文化に触れながら先端の研究を世界へ発信する、伝統と創生のキャンパス。

- 法学研究科 ● 社会学研究科 ● 国際関係研究科 ● 文学研究科 ● 映像研究科
- 言語教育情報研究科 ● 先端総合学術研究科



#### 滋賀／びわこ・くさつ CAMPUS

豊かな自然を活かし、国際水準の教育・  
研究環境を備えたキャンパス

私立大学最大級の理系教育・研究施設を備えるびわこ・くさつキャンパス (BKC) は、琵琶湖を含む大自然や、企業の研究施設が近くに位置する立地を活かした研究活動を実施しています。世界標準の教育研究、知見、技術を創出し、世界・地域へ発信するイノベティブ・キャンパス。

- 経済学研究科 ● スポーツ健康科学研究科 ● 理工学研究科
- 情報理工学研究科 ● 生命科学研究科 ● 薬学研究科



#### 大阪／大阪いばらき CAMPUS

商都・大阪で教育・研究のフィールドを  
アジアへと広げるキャンパス

大阪いばらきキャンパス (OIC) は、「アジアのゲートウェイ」として国際的な学びの拠点として位置づけています。また、「商都・大阪」という地域性を活かして、地域・社会と連携した教育・研究を進化させている最新のキャンパス。

- 経営学研究科 ● 政策科学研究科 ● テクノロジー・マネジメント研究科
- 経営管理研究科 [ビジネススクール] ● 人間科学研究科

#### ■サテライトキャンパス 大阪梅田 CAMPUS

大阪・梅田駅前に位置する、アクセス至便のキャンパス

社会的ネットワークの強化や就職支援に加え、学び・研究の拠点として大学院の授業を展開。多目的に利用できる最新設備を備えています。

- 言語教育情報研究科
- テクノロジー・マネジメント研究科
- 経営管理研究科 [ビジネススクール]



#### 京都／朱雀 CAMPUS

京都の歴史・文化と、都市の利便性・  
充実の研究設備をあわせもつキャンパス

専門職大学院を抱え、多様な研究スタイルに応える充実した研究設備や自習環境を備えています。古都・京都の中心部に位置し、京都の歴史・文化に触れながら、都市型キャンパスの利便性をあわせもつキャンパス。

- 法科大学院 (法務研究科)
- 教職大学院 (教職研究科)

#### CHECK IT Beyond Borders Plaza (BBP) [2018年4月開設]

衣笠キャンパス、びわこ・くさつキャンパス、大阪いばらきキャンパスで、語学学習や国際交流を目的とした新たな学習スペースとして開設されました。BBPでは外国語学習教材の提供、留学相談の実施、国内学生と留学生の交流イベントなど、様々な支援や企画が展開されます。国際交流の拠点としてぜひ活用してください。



# 大学院生のキャリアパス形成支援について

立命館大学大学院では、大学院修了後に多様な分野で活躍できる人材を育成するための支援制度を用意しています。自らの専門分野の研究を進めながら、これらの支援制度を活用することで、大学院修了後の目標とするキャリアの実現を目指します。

## ■ 大学院キャリアパス支援プログラム(課外)

目標とするキャリアを実現するためには、大学院での専門分野の研究を追求し、その過程で習得した知識や能力を多様な分野で活用できることが大切です。このプログラムでは、英語のライティングスキルやプレゼンテーション力のような汎用的スキルや、キャリアパス形成に必要な基礎知識を学ぶためのセミナーを開講します。本学院生であれば、どなたでも無料で参加できます。

### 開催セミナー(2018年度に実施予定のセミナーです)

#### 修士・博士課程前期課程の過ごし方、進路就職などについて知りたい

セミナー名	概要
基礎力測定テスト	文系の大学院生を対象に、自己分析テストおよび分析結果に基づいた個別面談を実施します。
大学院新入生向けセミナー	新入生を対象に入学直後の4月に開催されるセミナーです。先輩との懇親会、ポスター発表等を通じて、大学院での過ごし方、研究の進め方を学びます。
大学院生のための成功する就活!セミナー	修士・博士課程前期課程1回生が入学から半年経過後に、大学院での学びの振り返りを行い、修士論文作成、就職活動、キャリア形成を見据え大学院での学びに関して新たな知見や気づきの獲得を目指します。

#### コミュニケーション力、プレゼンテーション力、ポスター発表などのスキルを身につけたい

セミナー名	概要
コミュニケーションスキルアップセミナー	学会での他大学院生や先輩大学院生との交流や企業関係者との交流など、さまざまな場面で求められるコミュニケーションツールとしてのマナーを学びます。
プレゼンテーションデザインセミナー	自分の研究内容や考えを相手に分かりやすく伝えるためのプレゼンテーション技術を習得するためのセミナーです。
ポスターデザインセミナー	学会報告のポスターセッションやパネル展示等で参加者の関心を引くデザイン方法を学ぶセミナーです。

#### 研究の進め方、学振<sup>※1</sup>の申請、研究資金の獲得方法などについて知りたい

セミナー名	概要
学振申請・書き方セミナー	学振への申請に際して、申請書作成のポイント等について学ぶセミナーです。
「研究者の基礎知識」に関するセミナー(研究とキャリア)	「研究」とは何か、「研究者」とは何か、「学会」とは何か、という研究者としての基礎的なテーマについて学ぶセミナーです。
博士人材リーダー養成プログラム	産業界で活躍できる博士人材を育成するためのプログラムです。分野横断のグループワークを通し、人材育成のみならず、企業の課題解決にも取り組めます。
研究会活動支援セミナー	研究会を企画し、円滑に運営するための方法や、研究会の運営に必要な能力について理解を深めるセミナーです。
研究倫理共通セミナー 研究倫理プレセミナー	研究を進めるにあたって知っておかなければならない行動規範、成果発表の方法などの研究倫理の基本的な内容について学び、研究倫理の基礎知識の習得を目指します。

#### 大学教員を目指したい

セミナー名	概要
PFF(大学教員準備セミナー)	大学で授業を行うにあたり必要となる基礎的なスキルを習得するプログラムです。教育開発推進機構の実践的FDプログラムと連携して実施します。

#### 英語での学会発表、論文作成力などを身につけたい

セミナー名	概要
学術基礎英語	英語で論文執筆・学会発表を行うにあたって必要とされる学術英語運用能力の獲得を目指します。(実施言語:日本語)
アカデミックライティングプログラム	英語での論文作成に必要な文章構成や文法・引用方法に関する知識・技能を習得するセミナーです。(実施言語:英語)
英語論文個別指導	英語論文やレポート等について、文法や語彙の弱点、構成方法に関して個別指導を受け助言が得られます。(実施言語:日・英)

#### 日本語を学修したい(留学生対象)

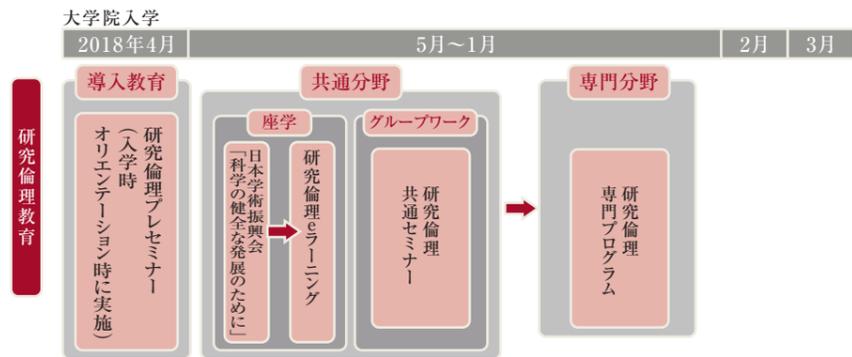
セミナー名	概要
日本語学習支援プログラム	日本語での論文執筆に必要な基礎能力の習得およびディスカッションや日本での就職活動にいかせる日本語コミュニケーション力のレベルアップを目指します。

※開催セミナーのテーマ・内容は年度により変更する場合があります。  
※1 日本学術振興会特別研究員

## ■ 研究倫理教育

大学院生が学問的良心に基づき自由に研究活動を行うためには、研究を進めるにあたって知っておかなければならない行動規範、成果の発表方法などの研究倫理を心得ておく必要があります。また、意図しない部分で倫理的な問題を起きないようにするためには、研究倫理の基礎知識を学ぶだけでなく、研究倫理は大学院生が主体的に考えるべき問題であるということ認識することが大切です。本学では下表の通り、全大学院生を対象とした研究倫理教育を実施しています。

### 【2018年度 実施内容(予定)】



グループワークの様子①



グループワークの様子②



グループ発表の様子③

### CHECK IT

#### アクティブライフ「超創人材」育成プログラム 5年一貫制プログラム

※2019年4月開設予定

#### 産業界と連携 多様な専門性を発揮し、社会を変革する人材を育成

2019年4月より、博士課程前期・後期課程に対応した5年一貫制プログラム「アクティブライフ」超創人材育成プログラムを開設予定。このプログラムを通して、社会で専門性を発揮し、未知の課題に挑戦しながら、新たな価値を生み出す博士人材を育成します。履修生は「ICTを含むアクティブライフ」に関する科目「社会と連携したマネジメント科目」等を受講。企業・行政・医療機関・研究機関等で活躍する「超創人材<sup>※2</sup>」の育成を目指します。

- 1 あらゆる人類が個々の人生の質を向上させ、健康で活動的な生活を営むこと
- 2 予測できない社会の中で、未知の課題に挑戦し、新たな価値を創造できる人材

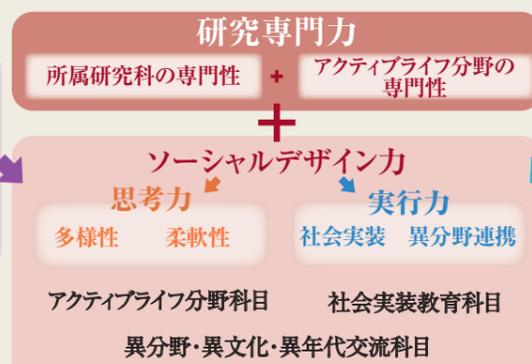
右の所属研究科の学修に加えて、本プログラム科目を受講(博士課程前期課程の合格者を対象に受講者を選考予定)

受講可能研究科	情報理工	スポーツ健康科学	理工	生命科学	薬
テクノロジー・マネジメント	人間科学	先端総合学術	文	経済	経営



### グローバルから学ぶ

- 共同研究(海外等) 海外組織(大連理工大学・企業等)と連携し、共同研究を実施
- 立命館アジア太平洋大学(APU)実習 留学生と研究に関する交流を実施
- 国際学会発表 英語論文の作成と発表を経験



### 産業界から学ぶ

- 企業メンター 企業からのアドバイスを研究へ活用
- 企業インターンシップ 企業の課題解決に長期関わり組む実習
- アントレプレナー実習 他研究分野の受講生と企業(仮想)を運営し、事業開発等に挑戦
- 企業等コンソーシアム 産学官地で教育・研究を促進する連携コンソーシアムを発足。加盟組織等と連携し、研究力向上やキャリア形成につなげます。【連携先】オムロンヘルスケア 大成建設 東洋紡 博報堂 クレディセゾン 等

本プログラムのみ対象(予定)

- 経済的支援(奨励金・研究活動) 研究活動に専念するため、生活費相当額の経済的支援や研究渡航費等を補助。詳細は立命館大学大学院HPへ



プログラムの修了を学位記に記載

### ■ 想定される修了後の人材像 国内外の企業、行政、医療機関、研究機関等で活躍するイノベーション人材を輩出します。

イントレプレナー人材	企業内の資源を活用し、新規事業を開発・組織のミッションを理解し、機器・設備・制度を創出
アントレプレナー人材	新たな価値を創造:あらゆる分野・文化を融合し、課題を解決するプロセスを社会に提案
グローバル/地域人材	グローバルや地域の発展を先導・国際・地域社会の情勢を把握し、課題の解決に挑戦

# 大学院生の進路・就職について

大学院修了後のキャリアは、大学教員をはじめとする研究者だけでなく、民間企業への就職など様々な業界へと広がっています。大学教員やアカデミックキャリアを目指す方には、大学院キャリアパス推進室を中心に年間を通じて数多くのセミナーを開催し、研究活動を行うための奨学金・支援制度を取り揃えています。また、民間企業をはじめ公務員など就職を目指す方には、キャリアセンターと連携し各種サポートを行っています。

## 大学内での就職サポート体制

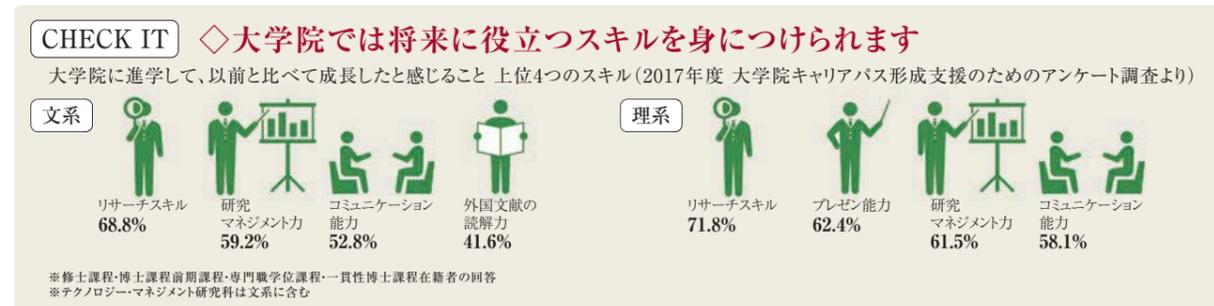
### ■大学院キャリアパス推進室

大学院修了後に社会の様々な分野で活躍するために必要な情報提供、知識の習得・能力向上のための様々な支援を行っています。大学院生ならではの就職活動のポイントや自己PR方法、修了生との懇談会などを実施しています。



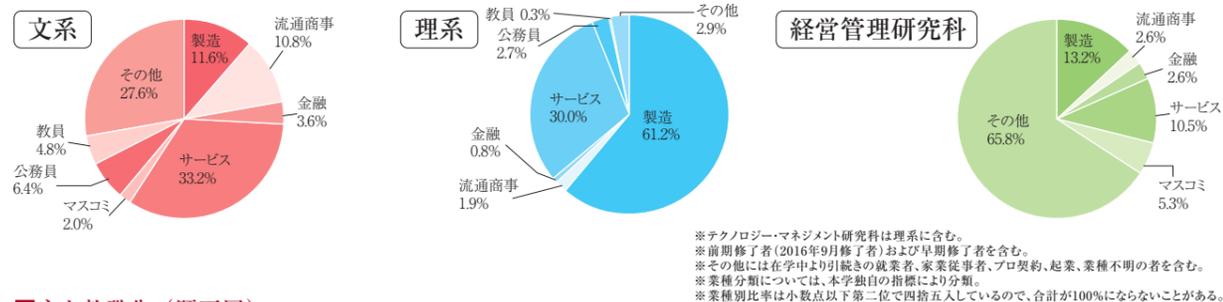
### ■キャリアセンター

進路・就職ガイダンス、セミナー、ワークショップなどを年に複数回実施しています。また、2017年度は文系の大学院新入生向けに、社会で求められる汎用的な能力・態度等を測定するテスト「基礎力測定テスト(PROG)」を無料で実施しました。テスト実施後には結果解説会を行い、結果の返却およびフィードバック、希望者には個別キャリア面談を実施するなど丁寧なサポートを行っています。



## 就職に関する情報

### ■大学院修了者 業種別進路決定状況 (2016年度 修士課程・博士課程前期課程・専門職学位課程修了者実績)



### ■主な就職先(順不同)

文系:三菱UFJ国際投信(株)、日本タタ・コンサルタンシー・サービス株式会社、富士通(株)、倉敷化工(株)、(株)ベネッセコーポレーション、外務省専門職員、独立行政法人日本貿易振興機構、ヤマハ発動機(株)、日本アイ・ビー・エム、一般社団法人共同通信社 等

理系:日立製作所、富士通、三菱電機、ソニー、インテック、ソフトバンク、楽天 等

文理融合(テクノロジー・マネジメント研究科):アース製薬(株)、豊田通商(株)、日本電気(株)、NTTデータ(株)、(株)資生堂 等

### ■大学院生就職決定率 98.2%(2016年度 修士・博士課程前期課程修了者実績)

文系	全体		理系	全体		テクノロジー・マネジメント研究科(文理融合)	全体	
	男子	95.4%		男子	99.7%		男子	92.3%
	女子	94.5%		女子	99.6%		女子	90.9%
		96.1%		100.0%		100.0%		100.0%

## column

修了生の声



濱崎 千恵さん  
国際関係研究科前期課程  
2009年度修了

### 自分が選択したことを正解にしていく力がキャリアにも活かしている

現在、商社において新事業の市場開拓に取り組んでいます。市場開拓では、正解が分からない中で物事を選択し、選択したことを正解にしていく必要があります。大学院在学中は、研究を進める中で課題に直面した時には、先生方に指導を受けつつ、手探りで仮説の修正などをおこない、修士論文を仕上げることができました。この経験から、誰かに設定されたゴールに合わせるのではなく、試行錯誤を重ねて前に進むことを学びました。また、1つのテーマをじっくり研究し、様々な角度から検証する中で、人と違う視点を持ち、意見する力も身につきました。これらの力は今の仕事に活かしていますし、就職活動でも強い武器となり、希望の進路を実現することができました。皆さんも大学院進学を決めたら、ぜひ自分の選んだ道を正解にできるよう頑張ってください。

# 学費・奨学金について (2018年度入学者適用)

## ■入学金

区分	名称	金額
入学、転入学	入学金	300,000

(単位円)  
※1 以下に該当する本学園出身者からは、入学金を徴収しません。  
(1) 本大学または立命館アジア太平洋大学の学部を卒業した者が、本大学院に入学する場合  
(2) 本大学または立命館アジア太平洋大学の学部から引き続き本大学院に入学する場合  
(3) 本大学または立命館アジア太平洋大学の大学院を修了した者または博士課程に標準修業年限以上在学中、博士論文以外の修了要件を満たし退学した者が、本大学院に入学する場合  
※2 入学金は入学年度のみ納入していただきます。

## ■2018年度入学者に適用する大学院授業料

(4月入学) 春学期授業料：4月1日から9月25日の授業料  
秋学期授業料：9月26日から3月31日の授業料

(9月入学) 秋学期授業料：9月26日から3月31日の授業料  
春学期授業料：4月1日から9月25日の授業料

※9月入学者が入学手続時に納入する授業料は、1年次秋学期授業料のみとなります。

### 1) 修士課程・区分制博士課程

(1) 修士課程・博士課程前期課程 (単位円)

所属	名称	1年次			2年次		
		春学期	秋学期	(年次計)	春学期	秋学期	(年次計)
法学研究科、経営学研究科、社会学研究科、政策科学研究科	授業料	375,000	375,000	750,000	375,000	375,000	750,000
経済学研究科(MPEDコースを除く)	授業料	375,000	375,000	750,000	375,000	375,000	750,000
	MPEDコース	450,000	450,000	900,000	450,000	450,000	900,000
文学研究科 人文学専攻	授業料	375,000	375,000	750,000	375,000	375,000	750,000
文学研究科 行動文化情報学専攻	授業料	385,600	385,600	771,200	385,600	385,600	771,200
国際関係研究科(GCPを除く)	授業料	375,000	375,000	750,000	375,000	375,000	750,000
	GCP	450,000	450,000	900,000	450,000	450,000	900,000
スポーツ健康科学研究科 人間科学研究科	授業料	425,000	425,000	850,000	425,000	425,000	850,000
言語教育情報研究科	授業料	400,000	400,000	800,000	400,000	400,000	800,000
理工学研究科(数理科学コースを除く)	授業料	575,000	575,000	1,150,000	575,000	575,000	1,150,000
	数理科学コース	537,500	537,500	1,075,000	537,500	537,500	1,075,000
情報理工学研究科、生命科学研究科	授業料	568,600	568,600	1,137,200	568,600	568,600	1,137,200
テクノロジー・マネジメント研究科	授業料	583,000	583,000	1,166,000	583,000	583,000	1,166,000
映像研究科	授業料	602,400	602,400	1,204,800	602,400	602,400	1,204,800

※年次に問わず、在学期間が標準修業年限を超えた者の授業料は上記の2分の1となります。

### (2) 博士課程後期課程

(単位円)

所属	名称	1年次			2年次			3年次		
		春学期	秋学期	(年次計)	春学期	秋学期	(年次計)	春学期	秋学期	(年次計)
全研究科	授業料	250,000	250,000	500,000	250,000	250,000	500,000	250,000	250,000	500,000

※年次に問わず、在学期間が標準修業年限を超えた者の授業料は上記の2分の1となります。ただし、標準修業年限を超えた者で各研究科の修了要件のうち博士論文以外の要件を満たした者の授業料は学期につき100,000円となります。

### 2) 一貫制博士課程

(単位円)

所属	名称	1年次			2年次			3年次			4年次			5年次		
		春学期	秋学期	(年次計)												
先端総合学術研究科	授業料	400,000	400,000	800,000	400,000	400,000	800,000	250,000	250,000	500,000	250,000	250,000	500,000	250,000	250,000	500,000

※年次に問わず、在学期間が標準修業年限を超えた者の授業料は上記の2分の1となります。ただし、標準修業年限を超えた者で修了要件のうち博士論文以外の要件を満たした者の授業料は学期につき100,000円となります。

### 3) 4年制博士課程

(単位円)

所属	名称	1年次			2年次			3年次			4年次		
		春学期	秋学期	(年次計)									
薬学研究科	授業料	250,000	250,000	500,000	250,000	250,000	500,000	250,000	250,000	500,000	250,000	250,000	500,000

※年次に問わず、在学期間が標準修業年限を超えた者の授業料は上記の2分の1となります。ただし、標準修業年限を超えた者で修了要件のうち博士論文以外の要件を満たした者の授業料は学期につき100,000円となります。

### 4) 専門職学位課程

(単位円)

所属	名称	1年次			2年次			3年次		
		春学期	秋学期	(年次計)	春学期	秋学期	(年次計)	春学期	秋学期	(年次計)
法務研究科※1	授業料	653,700	653,700	1,307,400	653,700	653,700	1,307,400	653,700	653,700	1,307,400

所属	名称	1年次			2年次		
		春学期	秋学期	(年次計)	春学期	秋学期	(年次計)
経営管理研究科※2	固定授業料	71,700	71,700	143,400	71,700	71,700	143,400
	(単位授業料)	48,000(1単位につき)					

所属	名称	1年次			2年次		
		春学期	秋学期	(年次計)	春学期	秋学期	(年次計)
教職研究科※3	授業料	450,000	450,000	900,000	450,000	450,000	900,000

注意：社会的な情勢の急激な変化等、やむを得ない状況への対処として授業料の変更を行うことがあります。  
・学費とあわせて、諸会費を入学年度に納入をお願いをしています。詳細については、入学試験要項を参照してください。

## ■ 奨学金・支援制度の概要

※下記は本学独自の奨学金・支援制度であり、返還義務のない給付型の奨学金・支援制度です。  
 ※専門職学位課程(教職研究科除く)は研究科独自の奨学金制度があります。詳細は入試要項をご確認ください。  
 ※内容は2018年度の概要であり、2019年度に内容が変更となる場合もありますので、詳細については、本学ホームページ、各制度の募集要項等を参照してください。

### 対象:修士課程、博士課程前期課程、一貫制博士課程(1・2年次)、教職研究科

名称	趣旨	金額	実績
1年次対象成績優秀者奨学金	入学試験の成績が優秀な者の入学を奨励することを目的として1年次入学者に給付(研究科が指定する入試方式のみ)	10~50万円(研究科毎に異なる)	272名(2017年度入学者)
2年次対象成績優秀者奨学金	1年次の成績が優秀な者の、さらなる学修・研究活動を奨励することを目的として2年次(第3・第4 Semester)在学者に給付	10~50万円(研究科毎に異なる)	2017年度入学者より適用
学会奨学金 1)国内学会参加奨励 2)国内学会発表奨励 3)国外学会発表奨励	学会への参加および学会での研究成果の発表を奨励し、大学院生の研究活動を支援する※1	国内学会参加奨励(一律1万円) 国内学会発表奨励(一律3万円) 国外学会発表奨励(一律10万円)※2	延べ595名(2016年度)
研究実践活動補助金	研究科の人材育成目的および学位授与、教育課程編成・実施、入学者受け入れの方針にもとづき研究科が実施する国内外の研究実践活動参加者を奨励※1	国内研究実践(1.5~3万円) 国外研究実践(2~20万円)	157名(2016年度)

※1 教職研究科は対象外 ※2 国費留学生は、各金額を上限に実費精算になります。詳しくは入学試験要項をご確認ください。

### 対象:博士課程後期課程、一貫制博士課程(3年次以上)、4年制博士課程

名称	趣旨	金額	実績
研究奨励奨学金	優秀な研究業績を有する者のさらなる研究活動を奨励することを目的として給付 S給付は、日本学術振興会特別研究員採用者・面接選考対象者 A・B給付は、各研究科の教育研究上の目的に照らして優れた研究業績を有する者またはあげることが期待できる者	S給付(授業料相当額) A給付(授業料相当額) B給付(授業料の1/2相当額)	146名(2016年度) 在学者の24.2%
学会奨学金 1)国内学会発表奨励 2)国外学会発表奨励	学会での研究成果の発表を奨励し、大学院生の研究活動を支援する	国内学会発表奨励(一律3万円) 国外学会発表奨励(一律10万円)※3	延べ214名(2016年度)
国際的研究活動促進研究費	本学大学院生の国際的な研究活動を促進・支援	研究助成金(10~30万円) および海外渡航に要する交通費	46名(2016年度)
国内研究活動促進研究費	本学大学院生の国内での研究活動を促進・支援	研究活動期間に応じて給付 5万円~10万円	1名(2017年度)
インターンシップ奨学金	企業等でのインターンシップ参加を経済的に支援することにより、インターンシップを通じたキャリア形成を支援(給与が支払われるものは対象外)	インターンシップ日数に応じて給付 10万円~20万円	1名(2016年度)
国外共同研究奨学金	所属研究科の人材育成目的および学位授与、教育課程編成・実施、入学者受け入れの方針にもとづき研究科が実施する国外の共同研究の参加者を奨励	共同研究を行う地域・日数に応じて給付 (20~80万円)	2017年度新設
博士論文出版助成制度	博士論文の研究成果の公開を助成促進することを目的とし、本学大学院博士課程後期課程にて博士学位を授与された方々が、当該博士學位論文を出版する際、その経費の一部を補助	1件あたり100万円上限※4	2017年度新設

※3 日本学術振興会の特別研究員に採用された方と国費留学生は、各金額を上限に実費精算になります。詳しくは入学試験要項をご確認ください。 ※4 人文社系の研究科のみ

### 対象:全課程

名称	趣旨	金額	実績
大学院留学協定等にもとづく留学プログラムに対する奨学金	協定等にもとづく留学プログラム等により派遣する本学大学院生の学修・研究活動を奨励	派遣期間中に派遣先に納付する学費または本学に納付する奨学金を除く学費の1/2相当額 (所属研究科の奨学金を除く学費の1/2相当額が上限)	14プログラム(2017年度)
大学院学生研究会活動支援制度	複数の研究科の大学院生による自主的な研究会活動の促進	1)経費支援 1研究会あたり年額10万円を上限として、研究会の企画等に関わる費用および講師の招聘に関わる費用を支給 2)施設支援 学内で研究会活動を行う際に教室を貸与	21団体(2017年度)
英語論文投稿支援制度	英語論文による研究成果の国際的な発信を促進することを目的に、校正費と投稿費について補助	英語論文校正費(上限3万円) 英語論文投稿費(上限5万円)	2017年度新設
ベーススキル向上支援補助制度	社会で実践的な力を発揮するために必要となる基本的な素養(ベーススキル)の確実な修得を奨励することを目的として、その向上を図るために立命館言語習得センター主催の所定の講座を受講する大学院生に対して、受講料の一部を補助する。	上限2万円	37名(2016年度実績)

### 対象:外国人留学生

奨学金種別	減免率	減免期間	対象者
外国人留学生授業料減免(院生I種)	授業料の100%	標準修業年限	在留資格が「留学」かつ私費外国人留学生であること。対象者は入学試験にて決定
外国人留学生授業料減免(院生II種)	授業料の20%	1年間	在留資格が「留学」かつ私費外国人留学生である場合は全員対象。各自で申請が必要

### TA(ティーチング・アシスタント)

名称	趣旨	対象	金額	実績
TA(ティーチング・アシスタント)	TAとは本学の授業や教学活動について教員をサポートする大学院生。本学の教育の質向上および大学院生自身のキャリア形成の一助とすることを目的とする。	本学大学院在籍者	3,000円 1授業時間(90分)	1,324名(2016年度)

## CHECK IT 授業料改定について

### — 2017年度入学者より、授業料を減額しました — (博士課程前期課程、修士課程、一貫制博士課程1・2年次)

立命館学園では、大学院改革の推進に向けて施策の具体化を行っています。大学院の位置づけは、研究の高度化や教育・研究の循環のために非常に重要であります。大学院生の経済的負担を軽減して、大学院の更なる発展に取り組むために、授業料の減額を決定しました。

◇理系研究科一例 理工学研究科(数理学科コース除く)の場合。入学金・諸会費除く。減額される金額は研究科によって異なります。



## CHECK IT 奨学金・支援制度の利用例

### 博士課程前期課程1回生

#### ■「1年次対象成績優秀者奨学金」を受給した場合

入学試験成績上位者に支給される「1年次対象成績優秀者奨学金」(20万円給付の場合)を受給した場合、授業料は55万円となります。あわせて各種支援制度を利用することで、さらに経済的負担は軽減されます。

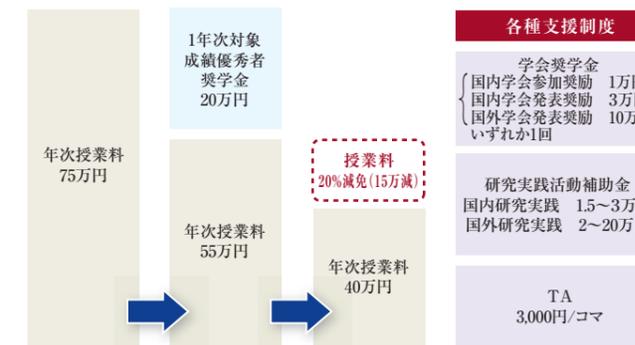
大学院生の多くが本学独自の給付制奨学金制度を利用しています。また、研究活動を推進するための支援制度を利用すれば、さらに経済的負担が減ります。以下は法学研究科の例です。



### 博士課程前期課程(留学生)1回生

#### ■「1年次対象成績優秀者奨学金」と「外国人留学生授業料減免(院生II種)」を受給した場合

入学試験成績上位者に支給される「1年次対象成績優秀者奨学金」(20万円給付の場合)を受給した場合、授業料は55万円となります。また、「外国人留学生授業料減免(院生II種)」は、在留資格が「留学」でかつ私費外国人留学生であれば申請することで全員が受給対象となり、授業料がさらに20%減免されます。あわせて各種支援制度を利用することで、経済的負担はさらに軽減されます。



### 博士課程後期課程1回生

#### ■「研究奨励奨学金A」を受給した場合

優秀な研究業績に応じて給付される「研究奨励奨学金」はA給付に該当すれば授業料相当額の奨学金が給付されるため、授業料は実質免除されます。また、各種支援制度も利用することができます。



### column

#### 奨学金受給者の声



西井 開さん  
応用人間科学研究科  
博士前期課程1回生

### 奨学金や支援制度を受けたことは、研究に対するモチベーション向上につながりました

立命館大学では、様々な研究分野の重要性に目を向け、奨学金という形で充実した支援をしてくれます。特に正解の見えない文系研究をする際、奨学金が研究の大きな後押しになっていると感じます。例えば、私の場合は、類似のテーマを研究している方が少なく、意見交換をする場がほとんどありませんでした。しかし、「大学院学生研究会活動支援制度」への応募・採用をきっかけに、大学院キャリアパス推進室の支援もあり、類似の研究をしている大学院生を探して研究会を作ることができました。また、制度の経費支援により、図書館には無い専門書を購入することができました。研究会では、他研究科の大学院生から違う切り口で意見をもらえますし、専門書を選ぶ幅も広がります。研究会を継続することで他大学との繋がりもできつつあり、研究に対するモチベーション向上に繋がっています。

# データで見る立命館の研究力

## ■民間企業からの受託研究実施件数

文部科学省では毎年、「大学等における産学連携等実施状況について」を発表しており、立命館大学は「民間企業からの受託研究実施件数」においてここ数年、常に全国1位(2015年度、2014年度、2012年度)もしくは2位(2016年度、2013年度)の上位に位置しています。

この発表は、文部科学省が産学連携等施策の企画・立案に反映させることを目的として毎年実施している「大学等における産学連携等の実施状況調査」に基づくもので、全国の大学等(2016年度においては1,071機関(国公立大学(短期大学含む)、国公立立高等専門学校、大学共同利用機関))が対象となっています。

1995年に全国の大学に先駆けて産学連携の窓口「リエゾンオフィス」を設置した本大学では、研究成果による社会貢献として、立命館大学研究高度化中期計画\*の策定元年となる2006年度から一貫して産学連携を重要な柱として掲げており、特に京都府・滋賀県・大阪府を中心とした地元企業との連携を重視しています。2016年度の同実施状況の発表では、「同一県内企業及び地方公共団体との共同・受託研究実施件数(地方別)」において、近畿地方の私立大学としては2015年度に引き続き1位となっています。

立命館大学研究高度化中期計画の各施策の推進などにより研究支援制度の充実を図り、外部資金獲得につながる成果の創出や研究拠点形成に取り組んできた結果、とりわけ民間企業からの受託研究実施件数に関しては、過年度からの高い実績に繋がっていると云えます。

\*研究を高いレベルで推進するために本大学が2006年度より独自に策定している5ヵ年計画。現在、第3期計画(2016-2020年度)を実施中。

受託研究とは企業等からの研究テーマに基づき本大学の研究者が研究を実施し、成果を委託者に報告する制度。  
共同研究とは企業等と本大学の研究者が共通の研究テーマを持ち、研究業務を分担し、あるいは本大学に企業等の研究員を受入れて実施する制度。

### ■民間企業からの受託研究実施件数

〈過年度の実績と全国順位〉			〈2016 年度〉			〈2015 年度〉		
年度	件数	順位	機関名	件数	区分*	機関名	件数	区分*
2016年度	248	2位	1. 近畿大学	257	私	1. 立命館大学	287	私
2015年度	287	1位	2. 立命館大学	248	私	2. 近畿大学	275	私
2014年度	247	1位	3. 慶應義塾大学	198	私	3. 慶應義塾大学	196	私
2013年度	242	2位	3. 日本大学	198	私	4. 日本大学	169	私
2012年度	235	1位	5. 東京大学	161	国	5. 早稲田大学	155	私
			6. 早稲田大学	155	私	6. 拓殖大学	131	私
			7. 拓殖大学	140	私	7. 東京女子医科大学	126	私
			8. 東京都市大学	135	私	8. 東京都市大学	123	私
			9. 九州大学	130	国	9. 大阪大学	117	国
			10. 大阪大学	126	国	10. 九州大学	108	国

\*区分 私：私立大学、公：公立大学、国：国立大学

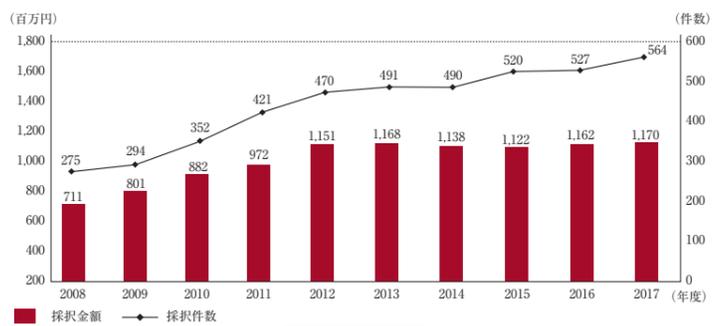
※文部科学省「大学等における産学連携等実施状況について」より作成

## ■科学研究費助成事業 — 科研費 —

立命館大学は、2017年10月に発表された「平成29年度科学研究費助成事業—科研費—の配分」において、採択金額ランキングは全国27位・私大3位(西日本私大1位)、採択件数ランキングは全国25位・私大4位(西日本私大1位)となりました。新規課題および継続課題を合わせた採択件数は過去最高の564件で、2008年度比で約2倍となり、全国的にみても非常に高い伸び率で研究力量を大きく向上させています。研究分野別(細目別)採択件数(過去5年の新規採択累計数)ランキングにおいても44細目が全国10位以内に入り、そのうち「社会学」は全国1位となるなど、多様な分野で本大学の強みを活かした独創的・先駆的な研究がおこなわれています。このことは、立命館大学研究高度化中期計画の各施策の推進などに基づく成果と言えます。

科学研究費助成事業(科研費)とは、人文学、社会科学から自然科学までのすべての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる独創的・先駆的な「学術研究」(研究者の自由な発想に基づく研究)を格段に発展させることを目的として、厳正な審査を経た上で採択課題が選定される「競争的資金」のひとつです。2017年度には、約10万1千件の新たな応募に対し、約2万5千件が採択され、数年間継続している研究課題を含めると約7万5千件が科研費の支援を受けています。

### 〈本学の採択金額・採択件数の推移〉



研究・産学官連携についての詳細は [立命館 研究](#) [検索](#)

### 〈科研費ランキング〉

#### ■採択金額

- 慶應義塾大学
- 早稲田大学
- 立命館大学**
- 日本大学
- 東京理科大学
- 順天堂大学
- 同志社大学
- 近畿大学
- 東海大学
- 明治大学

※2017年度採択金額・件数(いずれも新規+継続)私立大学のみ

#### ■採択件数

- 慶應義塾大学
- 早稲田大学
- 日本大学
- 立命館大学**
- 順天堂大学
- 東京理科大学
- 近畿大学
- 同志社大学
- 東海大学
- 北里大学

#### ■研究分野別(細目別)採択件数上位10機関

(過去5年の新規採択累計数)での本大学順位

#### 【私立大学1位:12細目】

高性能計算、認知科学、ソフトウェアコンピューティング、図書館情報学・人文社会情報学、環境政策・環境社会システム、科学社会学・科学技術史、哲学・倫理学、思想史、史学一般、人文地理学、社会学、震災問題と人文学・社会科学

※文部科学省報道発表「平成29年度科学研究費助成事業の配分について」(2017年10月10日)より抜粋

### column

民間企業と共同研究を進める教員の声



岡田 志麻  
理工学部  
ロボティクス学科 准教授

私は、医療や健康、スポーツ関連機器に関する共同研究を引き受けることが多く、機器家電から素材のメーカーまで、様々な業種の企業と共同研究を実施しています。主に、各企業がこれから開発していく新製品の基礎研究や評価を行います。例えば、医療分野であれば、自宅で簡単に発達障害をスクリーニングできる機器の開発を行っています。この研究は、他大学の医学部とも共同で行っています。

企業との共同研究は私が1人で実施するのではなく、学部生や大学院生とのチームで行います。最低でも月1回はミーティングを行い、学生が成果をプレゼンテーションします。実用性の観点から、企業からは様々なアドバイスをを受け、研究を進めていくことになります。この過程で、問題への取り組み方や、解決方法を模索する力などが自然と身についていくため、大きく成長する学生が多いと感じています。また、他大学の先生や異分野の先生から指導を受ける機会にも恵まれ、視野の広い研究を進めることができます。以上のことから、私の研究室では、希望する学生には、積極的に企業との共同研究に関わってもらっています。

### column

科研費を獲得した研究員の声



殷 曉星  
衣笠総合研究機構  
専門研究員

私は、近世東アジア諸地域を行き来する道徳倫理に関する書物について研究しています。各地域におけるその思想の変容と受容を、版本や出版の形態、流通と活用状況を通して明らかにしようとしています。大学院生の頃よりこの研究を続けてきたのですが、現在までつながる具体的な構想を初めて練り上げたのが、日本学術振興会特別研究員DC及び科研費の申請に際してでした。振り返ってみれば、科研費の申請は単なる研究資金の獲得ということだけではなく、これまで得た研究成果をいかに発展させ、これからの研究をどのように進展させるか、研究の意義や独創性、そして社会的位置づけとはなにか、どのように社会に還元できるかななどの問題について、しっかりと考える貴重な機会になっていたと思います。私は現在でも科研費を獲得して研究を行っていますが、科研費の申請や管理に、立命館大学の教職員の方々から大きなサポートを得ています。大学院生の皆さんも、是非積極的にこのような優れた研究環境を活用して、お互いに頑張りましょう。

# 研究機構・研究所・研究センター

立命館大学では、研究機構による最先端の取り組みが展開されています。その成果は社会貢献のために活用されるとともに、大学院の研究・教育に還元され、高度な研究につながっています。人文・社会・自然科学各領域の研究を推進するために多彩な研究機構を設置し、基礎から応用まで幅広い活動を展開しています。また、国や地方公共団体、産業界との研究交流にも積極的に取り組み、成果を社会に還元しています。

※以下は、2018年度の研究機構・研究所・研究センター(一部予定)

## ■立命館グローバル・イノベーション研究機構[R-GIRO]

R-GIROは、学長直轄の研究組織で、「政策的重点課題に特化した研究拠点の形成」および「次世代を担う若手研究者の育成の強化」を目的に2008年に設立されました。自然共生型社会の実現に向け、自然科学分野と人文・社会科学分野との融合を図り、学際的研究活動を促進することで、価値ある研究成果を創出し、その成果の積極的発信により、次世代社会への貢献を果たすことを目的としています。

## ■立命館アジア・日本研究機構

立命館アジア・日本研究機構は学長直轄の研究組織で、「『アジア・日本研究』をリードする研究者の育成および未来のアジア・日本についての共通ビジョンの形成」をミッションとし、「アジアの時代」に資する立命館らしいコンセプトと戦略性を兼ね備えた研究を推進しています。国内外の研究機関と連携し、多様な研究ネットワークの中核としての機能を発揮しながらグローバルな視点でのアジア・日本研究を推進していくことを目的としています。直下のアジア・日本研究所では、「共生」「共創」「和解」をキーワードとした総合的実践研究を重点的な取り組みとし、プロジェクトごとに研究活動と成果発信を進めています。

■アジア・日本研究所

## ■衣笠総合研究機構

衣笠総合研究機構は、1998年に設置され、研究所・研究センターをマネジメントする研究機構として研究活動を支えています。「自主」「民主」「公開」「平和利用」といった4つの原則のもと、人類の福祉と社会の進歩に貢献し、社会の要請に応えることを目的としています。

- 人文科学研究所
- 国際地域研究所
- 国際言語文化研究所
- 人間科学研究所
- アート・リサーチセンター
- 歴史都市防災研究所
- 白川静記念東洋文学文化研究所
- 研究センター
- コリア研究センター／生存学研究センター／間文化現象学研究センター／
- ゲーム研究センター／環太平洋文明研究センター／加藤周一現代思想研究センター／
- 金融エレクトロニクス／金融・法教育研究センター／地域健康社会学研究センター

## ■BKC 社系研究機構

BKC社系研究機構は1つの研究所と2つのセンターで構成されています。社会的ネットワーク、国際性、公開性および学際性を研究の基本的視点に置いた社会科学および学際領域の基礎的および応用的研究を行なうことで学術文化の発展と人類の福祉に貢献することを目的としています。

■社会システム研究所 ■研究センター ファイナンス研究センター／食総合研究センター

## ■総合科学技術研究機構

総合科学技術研究機構は、科学技術の発展と地域社会に貢献するために1994年に「総合理工学研究機構」として設置されました(2012年度より、現名称に改称)。産学官の共同研究の推進を通して、科学技術の発展と地域社会に貢献することを目的としています。

- 理工学研究所
- SRセンター
- VLSIセンター
- 研究センター バイオシミュレーション研究センター／防災フロンティア研究センター／
- バイオメディカルデバイス研究センター／琵琶湖研究センター／先端マイクロナノシステム技術研究センター／
- 創薬科学研究センター／スポーツ健康科学研究センター／ロボティクス研究センター／エネルギーイノベーション材料研究センター／
- 古気候学研究センター／先端ICTメディカル・ヘルスケア研究センター／システム視覚科学研究センター／生物資源研究センター／
- 環境テクノロジー・マネジメント研究センター

## ■OIC 総合研究機構

大阪いばらきキャンパス(OIC)の教学コンセプト「アジアのゲートウェイ」「地域・社会連携」「都市共創」をふまえ、グローバルに通用する人材の育成、新たなイノベーションの創出、地域コミュニティの中核的存在としてその機能を果たす研究機構を目指し、活動することを目的としています。

- 地域情報研究所
- 研究センター イノベーションマネジメント研究センター／医療経営研究センター／デザイン科学研究センター／
- グローバルMOT研究センター／福盛経営哲学研究センター／サステイナビリティ学研究センター／認知科学研究センター

# Student's Voice



社会学研究科  
博士課程前期課程 1回生  
田口 さくらさん

## ◇女性が過ごしやすい社会にしたいという思いが、研究の原動力

私は、現代社会に浸透している「女性ならば〇〇するべきだ」といった考えを女性規律として扱い、女性規律がどのように成立し受け入れられているのかを、「女子力」を題材に分析しています。女性規律の構造が分かれば、規律に縛られている女性たちは今より快適に生きていくことができると考えているため、この研究を通じて、女性が幸せに生活できる社会にしていきたいと思っています。

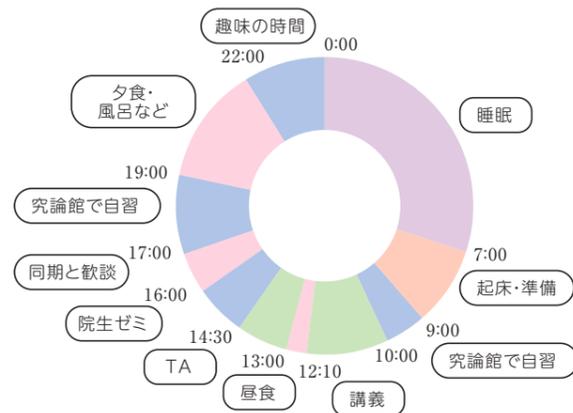
## ◇研究を継続するために大学院進学を決意

学部3回生の夏休みに卒業論文に取り掛かりながら、自分の研究を続けたいと考え始めましたが、周囲に反対され、一時は就職活動を行いました。内定をいただきましたが、やはり研究を続けたい気持ちが大きくなり大学院進学を決意しました。社会学研究科に進学した理由は、分野の垣根がなく、自分の専攻分野でない研究にも常に触れることができるからです。私が研究に取り入れている「規律性」は自分の専攻分野ではありません。しかし、別の分野の先生方にも気軽に質問や相談をすることができ、様々な意見をいただける点が大きな魅力です。

## ◇自分の研究を今後のキャリアに活かしたい

今の目標は、自分の研究をさらに深め、学会発表をすることです。将来的には、研究成果を活かすことのできる女性の生活に密に関わる企業へ就職し、既存の女性規律を和らげられるような商品を企画・発信したいです。大学院キャリアパス推進室が開催した「大学院生のための成功する就職!セミナー」では企業の方や先輩から就職に対するアドバイスをいただき、自分の思い描くキャリアへの道筋が見えてきました。

ある一日のスケジュール



言語教育情報研究科  
修士課程 1回生  
大崎 祈さん

## ◇他大学、他分野からの挑戦

言語教育情報研究科は、研究だけでなく自身の語学力も高めることができ、学部時代に言語習得に関する専門知識を学んでいなくても受け入れてくれる制度が整っていることに魅力を感じ、他大学から入学しました。英語での授業が7割程度で、英語でのプレゼンテーションも行います。課題の量やレベルが高く大変ですが、着実に進むためのスケジュール管理能力が身につく、1つずつ乗り越えていくことができます。

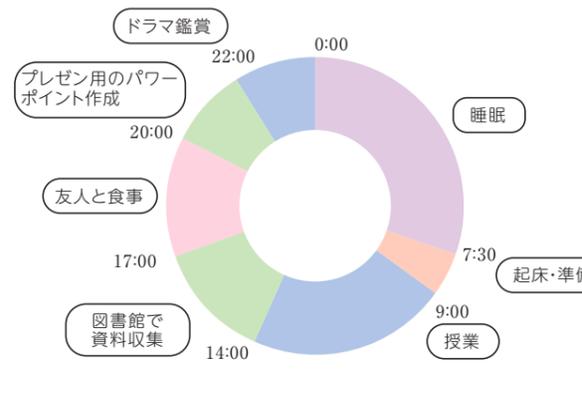
## ◇厳しい環境に身を置き、目標としていた資格を取得

1回生の夏にオーストラリアの大学に滞在し、5週間でTESOLという英語教授法に関する資格を取得しました。留学プログラムに対する奨学金を利用し、経済的な負担を抑えられました。短期留学の経験はありましたが、このプログラムは英語を話せて当たり前で、英語を教えることを学ぶことが目的であったため、英語力や英語のプレゼンテーション能力が磨かれ、大変有意義でした。

## ◇快適な研究環境と交流スペース

大学院生のための研究施設「究論館」は大学院生にとって快適な研究環境が整えられています。日本の方も海外の方もおり、多言語が飛び交う空間です。共同研究室で自身の研究に没頭することもパフォーミングスペースで学生と交流することもできます。大学院生同士で研究を手伝い合うことはもちろん、研究に行き詰った時に相談し合うこともあります。求められる課題が高度で辛い時期がありましたが、究論館にいる仲間と相談したところ、全く別の角度から助言をもらい、解決の糸口が見つかりました。立命館大学にはこのような良い刺激を与え合える空間があることが魅力です。

ある一日のスケジュール



生命科学研究科  
博士課程前期課程 2回生  
中村 晋也さん

## ◇新しい技術を開発するための研究に没頭

テレビ等の有機ELの画面には、赤・青・緑の発光を示す有機化合物が使用されていますが、そのコスト削減や発光効率の向上を目的とし、1つの有機化合物から様々な色の発光が発現できる材料の開発を目指して研究を行っています。

## ◇自分次第でさまざまなことに挑戦し、成長することができる場所

1回生の夏に2ヶ月間、「インド研究派遣プログラム」を利用して留学に挑戦しました。このプログラムは寮生活の滞在費や食費がかからず、日本学生支援機構からも給付型の奨学金をいただき、渡航費の4万円のみで参加できました。現在も、後輩が同じプログラムで留学中の他、研究室にインドからの留学生が数名在籍しており、研究を通じた国際交流が続いています。日常的に英語を利用することで、英語力向上や国際社会での適応力が大きく向上しました。

## ◇就職活動では大学院生活で培ったスキルや経験が活かしました

学内推薦制度を利用し、化学メーカーから技術職の内定をいただきました。推薦といっても何度も面接があり、最長で50分間の研究発表と議論もありました。学部時代の自分では厳しかったのですが、進学し学会発表等を通してプレゼンテーション能力を磨いたことが活き、自信を持って挑むことができました。今後は人々の生活をより豊かにするために、新技術や製品を世界中に発信したいです。大学院へ進学する際は、研究や学会発表など自分のやりたいことを思い描き、何事にも積極的に挑戦してください。その成功や失敗は、自分のキャリア形成に向けた大きな財産になるはずです。

1週間のスケジュール

	月	火	水	木	金	土/日
午前	研究活動	研究活動		研究活動	研究活動	
午後	論文精読	ゼミの発表準備	研究活動	TA	実験データ整理	●他大学で学会発表 ●友人と食事 ●趣味(ボーリング) ●翌週の実験計画を立てる
夜	ゼミ	ジムで運動	ゼミ	ゼミの仲間と食事	留学生と研究のディスカッション	



政策科学研究科  
博士課程前期課程 2回生  
江成 穰さん

## ◇将来のキャリアを考え大学院進学を選択

就職活動中、社会で活躍するためには下地が十分ではないと考えようになった頃に指導教員から大学院進学を勧められました。最後まで就職か進学か悩みましたが、この先の人生を考えると、まずは自分がやりたいこと、必要だと思うことを深めることが有益だと考え、進学を決意しました。この選択が正しかったかどうか今は分かりませんが、選択した後に自分が後悔しないよう努力することが大切だと考えています。私は研究職に就くことを目指し、博士後期課程への進学を予定しています。研究者としてのキャリアパスを描くのは簡単ではありませんが、目の前の研究と真剣に向き合うことが一番の近道であると感じています。

## ◇大学院は1つのことを徹底的に突き詰めることができる場

大学院の最大の魅力は、1つのことを突き詰める時間があることです。周囲の院生や先生方、大学の支援制度が自身の興味関心を徹底的に突き詰めるサポートしてくれます。遠方で開催された学会への参加には「学生学会補助金」が利用でき、大変助かりました。調査対象の長野県ヘインターンシップで行った時には「研究実践活動補助金」を利用したことで金銭的ハードルを下げ研究に集中できました。

## ◇専門性以外の力も身につけられる大学院生生活

大学院生生活で最も成長した点は、セルフマネジメントができるようになったことです。研究課題と地道に向き合うためには、自分でモチベーションを高め、計画を管理し実行していく力が求められます。また研究に必要な物事を多角的に見る力も養うことができ、大いに成長できました。さらに学部ゼミへ出席し学部生を指導することで自身の気持ちも引き締め良い刺激を受けています。

1週間のスケジュール

	月	火	水	木	金	土/日
午前	一週間の予定整理	研究会(古典精読)	研究会(研究発表)	学部ゼミへの出席	研究活動	●気分転換のため、1日は必ず休む 【勉強する日】
午後	TA	研究活動	研究活動	授業(院ゼミ)	研究活動	●研究会、報告準備、論文執筆 【休日】 ●趣味(自転車、映画など) ●院生以外の友人と会う
夜	研究活動	英語の勉強	研究活動	友人・後輩などと食事	英語の勉強	



政策科学研究科 高村 学人 教授

### 大学院に進学して研究の魅力を肌で感じて欲しい

専門は土地利用・環境規制に関する法制度です。法社会学の立場から社会を捉える調査研究をおこなうことで、政策立案・街づくりに独自の視点を提供してきました。

このような説明をすると、大学院は自分にとってはハードルが高いと考える人も多いかもしれませんが、そのようなことはありません。確かに、地道に研究活動を続け、論文を書き上げるには努力が必要ですが、研究の魅力はそれ以上に沢山あります。

例えば私の場合、現代社会の課題解決をテーマとした実践的な研究に取り組む場合でも、意外と、古代哲学や思想などの古典にヒントを得て、解決への糸口を発見することがあります。自身の専門分野とそれとは異なる専門分野とが繋がる瞬間に、研究が面白いと感じます。

### 立命館大学は、教員や研究環境を活用しながら自己を磨ける場

立命館大学の大学院生は、フィールドワーク(現地調査)をする機会が多くあり、私も大学院生に同行して自治体などを訪問することがあります。海外からの留学生も多く、学内でも主に英語を使用した国際交流が可能です。また自分で調べて考えたことについて、授業以外でも教員に真剣に聞いてもらえる機会が多いことも立命館大学の長です。研究テーマのバックグラウンドや基礎知識を蓄えつつ、教員や研究環境を積極的に活用して、多くの刺激を受けて研究を深めてもらいたいと思います。

人生100年時代ですので、いつ大学院で学んでも良いと思いますが、学びたい、研究したいと考えている方は、早くそれを追及することで、残りの人生の質が格段に上がるでしょう。

スポーツ健康科学研究科 後藤 一成 教授



### 自らの力で専門分野の未来を切り拓く、それが研究の醍醐味

私は、スポーツ選手の競技力向上や一般の方の健康増進(肥満予防など)に効果的なトレーニング方法やリハビリ方法(疲労回復方法)、栄養摂取などに関する研究を行っています。

近年は主に、室内の酸素濃度を少なくした状態で行う「低酸素トレーニング」の効果などを研究しています。未だ明らかにされていないことを自分の力で解明するプロセスは、研究の最大の魅力です。例えば、低酸素トレーニングは当初、持久力が必要な競技において効果が得られるものと考えられていましたが、実験を進めるうち、瞬発力が必要な競技にも効果のあることが明らかになりました。自分が想定していない結果が得られる時にも研究は面白いと感じますね。

### 大学院は学部の延長ではなく自己を高める飛躍の場

大学院では、研究活動を通して物事を論理的・客観的に評価する能力が鍛えられます。学会発表を経験する大学院生も多く、プレゼンテーション能力も格段に高まります。一方で、全ての大学院生が将来、研究者を目指すわけではありませんので、日々の研究指導においては研究スキル以外の点も十分に指導することを心がけています。例えば、研究を進める際にはいくつかのタスク(計画・論文執筆・発表準備等)に分割し、各タスクの期限や進捗を学生と教員が共有しながら進めています。修了生からはこのような指導が就職後に役立つとも聞いています。

大学院への進学は一見遠回りのように感じるかもしれませんが、そこで得られる能力・経験は、自分の大きな武器そして財産となります。大学院への進学を、選択肢の1つとして考えることをお勧めします。

## 立命館大学大学院 研究科紹介



# 法学研究科

Graduate School of Law



## 法学・政治学の研究者、高度専門職業人を養成。

約半世紀の伝統と実績の上に新たな展開をめざす法学研究科。立命館大学大学院法学研究科は、100年を超える伝統を持つ法学部を基盤とし、1950年の創設以来、研究者や法曹をはじめとする多くの優れた人材を送り出してきました。近年は、税理士や司法書士など高度専門職の養成にも優れた実績を残しています。2016年度からは法律学の知識を必須とする分野でのスペシャリスト養成を目指す「リーガル・スペシャリスト・コース」と「公務行政コース」、多様な興味・関心を学問的に深める「法政リサーチ・コース」、研究者養成のための「研究コース」の4コース制とし、法学・政治学分野での大学院生の新たな進路の開拓に取り組んでいます。

### 入学者受け入れ方針〈アドミッション・ポリシー〉

#### ■ 博士課程前期課程

##### ① 研究コース

本研究科は、以下のすべての項目に該当する者を博士課程前期課程研究コースの入学者として受け入れる。

- ア) 法学・政治学の研究者を志望する者
- イ) 大学院での研究および学修をつうじて自らの学問的関心をより専門的に深めていく意欲がある者
- ウ) 大学院での研究および学修をつうじて自らの学問的関心をより専門的に深めていくために必要とされる基礎的な知識と能力を備えている者

##### ② リーガル・スペシャリスト・コース

本研究科は、以下のすべての項目に該当する者を博士課程前期課程リーガル・スペシャリスト・コースの入学者として受け入れる。

- ア) 法学・政治学に関する高度な専門知識を必須とする職業分野を志望する者
- イ) 大学院での研究および学修をつうじて上記ア)の職業分野で求められる知識と能力を獲得していく意欲がある者
- ウ) 大学院での研究および学修をつうじて上記ア)の職業分野で求められる知識と能力を獲得していくために必要とされる基礎的な知識と能力を備えている者

##### ③ 公務行政コース

本研究科は、以下のすべての項目に該当する者を博士課程前期課程公務行政コースの入学者として受け入れる。

- ア) 法学・政治学に関する高度な専門知識を必須とする公的な職業分野を志望する者
- イ) 大学院での研究および学修をつうじて上記ア)の職業分野で求められる知識と能力を獲得していく意欲がある者
- ウ) 大学院での研究および学修をつうじて上記ア)の職業分野で求められる知識と能力を獲得していくために必要とされる基礎的な知識と能力を備えている者

##### ④ 法政リサーチ・コース

本研究科は、以下のすべての項目に該当する者を博士課程前期課程法政リサーチ・コースの入学者として受け入れる。

- ア) 大学院での研究および学修をつうじて自らの学問的関心をより専門的に深めていく意欲がある者
- イ) 大学院での研究および学修をつうじて自らの学問的関心をより専門的に深めていくために必要とされる基礎的な知識と能力を備えている者

#### ■ 博士課程後期課程

本研究科は、以下のすべての項目に該当する者を博士課程後期課程の入学者として受け入れる。

- ア) 法学・政治学の研究者を志望する者
- イ) 自ら立てた研究計画に基づいて独創性のある研究を行い、その成果を学術論文(学術雑誌等に掲載される研究論文)にまとめていく意欲がある者
- ウ) 自ら立てた研究計画に基づいて独創性のある研究を行い、その成果を学術論文(学術雑誌等に掲載される研究論文)にまとめていくために必要とされる基礎的な知識と能力を備えている者

法学研究科についての詳細は [立命館院法学](#) [検索](#)

### ■ 博士課程前期課程における履修の概要

#### 研究コース 法学・政治学分野の研究者を養成する

研究者養成を目的としたコースです。博士課程前期課程2年、後期課程3年の「ゆるやかな5年一貫制」をとっています。論文作成に向けた個別指導が行われるほか、専門分野ごとの研究会での討論を通じた少人数のグループ指導も行われます。また、司法試験に合格した方を受け入れる後期課程入試も実施しています。

#### リーガル・スペシャリスト・コース 企業法務、税務、不動産法務のスペシャリストを養成する

**ビジネス法プログラム**  
民間企業や金融機関で法律専門職として活躍する人を養成するプログラムです。金融・証券関係の法制や証券化などの金融実務を学修します。

**税務プログラム**  
税理士や公認会計士など税務のプロフェッショナルを養成するプログラムです。税理士法人・事務所での法務実習を通じて実務感覚も涵養します。

**不動産法プログラム**  
司法書士や民間企業の不動産関係の専門職業人を養成するプログラムです。司法書士事務所での法務実習を通じて理論と実務の架橋を図ります。

## 法学研究科

#### 公務行政コース 法律学の知識を生かせる公務行政のスペシャリストを養成する

国家公務員や国税専門官、裁判所事務官など法律学の知識を必要とする公務員志望者のためのコースです。公務行政のスペシャリストとしての法律職・行政職公務員志望者を想定しています。

#### 法政リサーチ・コース 多様な興味・関心を学問的に深める

学部段階で抱いた問題意識や学問的関心、究明しきれなかったテーマなどを、より専門的に深めるためのコースです。特定の進路に対応した科目群をあえて設定せず、各人の興味・関心にあわせて、他コース向けに開設された諸科目も含めて比較的自由に履修することができます。また、社会人が、職業体験を通じて抱いた興味や関心を研究テーマとして探求することも可能です。

※本学法学研究科は、税理士試験の科目免除に対応したカリキュラムです。

### ■ 博士課程前期課程 履修モデル

研究コース	-	憲法研究(講義/演習)/民法研究(講義/演習)/刑法研究(講義/演習)/政治学研究(講義/演習)/法哲学研究(講義/演習)/比較法研究(講義/演習)/外国語講読 など	企業活動	民法I/消費者法/商取引法/会社法/著作権法/工業所有権法/独占禁止法
リーガル・スペシャリスト・コース	ビジネス法プログラム	保険法/金融・証券法/商取引法/会社法I-II/国際経済法/国際取引法/企業・金融法務 など	公務政治分野	憲法/行政法I/社会保障法/行政学I/政治学/現代政治分析/国際政治論/政治思想史
	不動産法務プログラム	不動産取引法/不動産登記法/商業登記法・供託法/民事訴訟法/民事執行・保全法 など	国際関係	国際法/国際人権法/国際私法/国際環境法/国際政治論/アジア法/英米法/西洋法史
	税務プログラム	税法総論/所得税法/法人税法/消費税法/租税手続・争訟法/国際税法 など	医療生命倫理関係	憲法/刑法I/家族法/法哲学/法社会学
公務行政コース	-	民法I-II/憲法/家族法/政治学/行政法I-II/行政学I-II/政策法務論/地方自治法/労働法 など	法学の基礎研究	法哲学/法社会学/西洋法史/日本法史/アジア法

### ■ 博士課程前期課程 法学研究科所属教員紹介(2018年4月現在)

- 平野 仁彦 教授/法哲学
- 渡辺 千原 教授/法社会学
- 河野 恵一 教授/日本法史
- 高橋 直人 教授/西洋法史
- 小田 美佐子 准教授/アジア法
- WOLF MICHAEL L. 教授/英米法
- 植松 健一 教授/憲法
- 大西 祥世 教授/憲法
- 倉田 原志 教授/憲法
- 駒林 良則 教授/行政法
- 小松 浩 教授/憲法
- 須藤 陽子 教授/行政法
- 正木 宏長 教授/行政法
- 望月 爾 教授/税法
- 安井 栄二 准教授/税法
- 徳川 信治 教授/国際法
- 湯山 智之 教授/国際法
- 安達 光治 教授/刑法
- 嘉門 優 教授/刑法
- 本田 稔 教授/刑法
- 森久 智江 教授/刑事訴訟法
- 石橋 秀起 教授/民法
- 白井 豊 教授/民法
- 木村 和成 教授/民法
- 谷本 圭子 教授/民法
- 二宮 周平 教授/民法(家族法)
- 本山 敦 教授/民法(家族法)
- 山田 希 教授/民法
- 谷江 陽介 准教授/民法
- 中谷 崇 准教授/民法
- 品谷 篤哉 教授/商法
- 竹演 修 教授/商法
- 山田 泰弘 教授/商法
- 清水 円香 准教授/商法
- 出口 雅久 教授/民事訴訟法
- 川中 啓由 准教授/民事訴訟法
- 宮脇 正晴 教授/知的財産法
- 樋爪 誠 教授/国際私法
- 宮井 雅明 教授/経済法
- 岸本 雄次郎 教授/信託法
- 佐藤 敬二 教授/社会法
- 山本 忠 教授/社会保障法
- 吉田 美喜夫 教授/労働法
- 畑中 麻子 准教授/知的財産法
- 小堀 眞裕 教授/政治過程論
- 徳久 恭子 教授/政策形成論
- 山本 圭 准教授/政治思想史
- 堀 雅晴 教授/現代日本政治論
- 村上 剛 准教授/政治心理・行動学
- 村上 弘 教授/行政学・地方自治論
- 西村 めぐみ 教授/国際政治学
- 吉次 公介 教授/日本政治史
- 石原 浩澄 教授/英語
- 藏藤 健雄 教授/英語
- 佐藤 渉 教授/英語
- 吉岡 公美子 教授/英語
- JACKSON LACHLAN 教授/英語
- 松尾 剛 准教授/フランス語
- 田原 憲和 准教授/ドイツ語
- 安保 寛尚 准教授/スペイン語
- 中西 千香 准教授/中国語

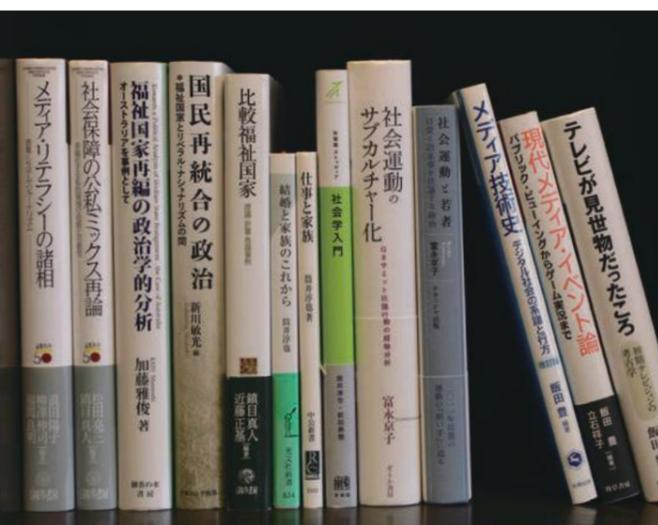
※教員の研究内容は「立命館大学法学研究科ホームページ」>「研究科紹介」>「教員一覧」で閲覧できます。

### ■ 博士課程前期課程 研究指導フローチャート(リーガル・スペシャリスト・コース、公務行政コース、法政リサーチ・コース共通)



# 社会学研究科

Graduate School of Sociology



## 国内外の諸課題を学際的・創造的に解明する力を養う。

社会学研究科は、1972年に社会学をはじめとする諸科学の協同によって、現代社会を総合的に把握し、現代社会が直面する諸課題に立ち向かうとする高い志に基づき開設されました。現代社会が提起する諸問題を社会学と既存の学問諸分野との協同によって解明し、社会的に要請される実践的課題にこたえる研究者と専門職業人の養成を目指しています。

### 社会学研究科の特徴

- ・専門性：研究領域ごとの「必修科目」「研究領域基幹科目」を設定し、専門性の基盤を築くカリキュラムを編成しています。
- ・学際性：100名近い教員が集い、多様な知に触れることで学際的な研究を実践できます。
- ・国際性：世界的な研究者によるサテライト授業や、留学生もまじえた共同研究を通じて国際性を高めます。
- ・研究・教育環境：さまざまな機会を通して院生同士のコミュニティ作りを促進しています。また、研究や学びの質を高めるために院生との研究科懇談会を定期的に実施しています。

### 「国際化」・「プロジェクト系科目」・「資格取得」

一部科目を基本的に英語で開講しており、また英国・ランカスター大学、韓国・中央大学校など海外の大学院との合同研究報告会の開催やDMDP(修士課程共同学位プログラム)などを通じて院生の国際交流にも力を入れています。

また、領域横断的・実践的な教育を提供するため、複数の教員による集団指導を行う横断型のプロジェクト系科目「研究プロジェクト」をはじめ、「キャリア形成プロジェクト」「国際プロジェクト」などのプロジェクト系科目を設けています。

資格取得の面では、社会調査の専門的知識と技能の修得を目的とした「社会調査士・専門社会調査士課程」を設置し、キャリアアップを支援しています。また教育職員免許状の一種免許状を取得している場合は、より高度な知見を教壇で活かすために専修免許状の取得が可能です。

## 入学者受け入れ方針〈アドミッション・ポリシー〉

### 前期課程

- 1.社会学と関連諸分野の最新成果から、現代社会の課題を解明しようとする明確な問題意識を持っている。
- 2.研究を遂行する上で必要不可欠な実証的調査活動(たとえば、資料文献解説、統計データ解析、フィールドワーク等)に興味と関心を抱いている。
- 3.グローバルな視点を持ち、広い視野にたった専門性を追求したいと考えている。
- 4.現代社会が必要とされる高度な知識と能力を身につけ、キャリアアップを目指したいと考えている。
- 5.社会学と関連諸分野についての基礎知識を持っている。
- 6.社会的な事象に対して多面的に考察し、自分の考えを論理的にまとめることができる。
- 7.自分の考えを日本語で明確に述べたり、文章で表現ができる。

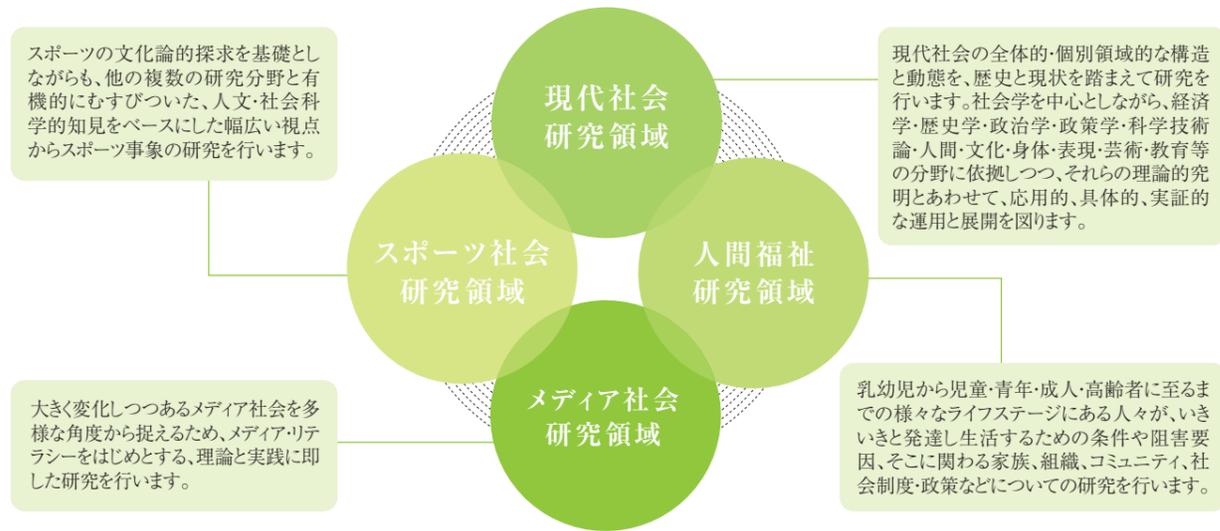
### 後期課程

- 1.社会学と関連諸分野の最新成果から、現代社会の課題を解明しようとする明確な問題意識を持っている。
- 2.基本的な研究方法を身につけている。
- 3.グローバルな視点を持ち、広い視野にたった専門性を追求したいと考えている。
- 4.社会学の他、経済学・政治学・心理学・福祉学・歴史学・環境学などの現代的な課題をホリスティックなアプローチを通じて研究し、社会問題の解決に貢献したいと考えている。
- 5.社会学と関連諸分野についての基礎知識に加えて、ある事象についての専門知識を持っている。
- 6.ある事象に関して根拠に基づいて考察し、自分の意見を論理的にまとめることができる。
- 7.自分の考えを明確に述べたり、文章で表現ができる。
- 8.英語で文献を読む能力を持っている。

社会学研究科についての詳細は [立命館院社会学](#) [検索](#)

## 4つの「研究領域」

社会学研究科のカリキュラムは、広範囲な社会問題を対象としつつ社会学の応用的展開を目指すために、4つの「研究領域」からなり、多様なアプローチを通じて、国内外での諸課題を学際的・創造的に解明する力を養成します。※所属する「研究領域」は入学試験出願時に選択していただきます。



## カリキュラムツリー [2019年度] (シラバスは社会学研究科ホームページからご覧いただけます)

	M1		M2	
	1 Semester	2 Semester	3 Semester	4 Semester
研究指導科目	特別演習I	特別演習II	特別演習III	特別演習IV
国際関連科目		外国語発信型科目(アカデミックライティング・アカデミックプレゼンテーションなど)	外国語論文講読科目(資料文献研究I(英語)・II(仏語)・III(独語))	国際社会研究科目(国際社会研究・比較社会研究など)
応用科目		研究領域専門科目(産業社会研究・福祉社会研究・スポーツ社会研究・メディア社会研究など)	実習系科目(応用社会学実習A(インターンシップ型)など)	プロジェクト系科目(研究プロジェクト・国際プロジェクトなど)
			履修交流系科目(単位互換履修科目など)	
基幹科目	社会学研究法I(スタンダード)			社会学研究法I(スタンダード)
	社会学研究法II(アドバンス)			社会学研究法II(アドバンス)
	研究領域基幹科目I(領域ごと)	研究領域基幹科目II(領域ごと)		
	社会学理論	社会学史研究		
	社会調査研究I	社会調査研究II		
	多変量解析法I	多変量解析法II		
	社会統計研究			

## 前期課程の過ごし方

**第1学期**

- ・研究テーマの早期設定および課題の絞り込み
- ・資料文献(外国語文献含む)の読み解き方の修得
- ・英語による授業を通じた語学運用スキルの向上

**第1**

- ・「社会学研究法I(スタンダード)」の履修
- ・指導教員をまじえて研究計画を検討(5月)
- ・「修士論文執筆計画書」の提出・研究テーマの設定(7月下旬)

**第2**

- ・副指導教員の決定
- ・研究領域基幹科目内での研究テーマ構想発表会の実施(1月)
- ・当該年度の研究計画の振り返り

**第3学期**

- ・1回生時の目標の確認と応用
- ・修士論文の作成
- ・後期課程進学者希望者は日本学術振興会特別研究員DC1への申請の準備

**第3**

- ・指導教員をまじえて研究計画を検討(5月)
- ・修士論文構想発表会の実施(7月)

**第4**

- ・修士論文提出(1月)
- ・修士論文口頭試問(2月)
- ・後期課程入試(2月)
- ※後期課程への進学には後期課程入試への出願(1月)が必要です。

## 後期課程の過ごし方

**第1学期**

- ・「社会学研究法II(アドバンス)」の履修
- ・指導教員をまじえて研究計画を検討(5月)
- ・日本学術振興会特別研究員DC2への申請
- ・副指導教員の決定
- ・全国規模学会の学術誌への論文投稿もしくは学会発表

**第2**

- ・研究業績報告書および次年度の研究計画書提出
- ・全国規模学会の学術誌への論文投稿もしくは学会発表
- ・当該年度の研究計画の振り返り

**第3学期**

- ・指導教員をまじえて研究計画を検討(5月)
- ・日本学術振興会特別研究員DC2への申請
- ・全国規模学会の学術誌への論文投稿もしくは学会発表

**第3**

- ・研究経過報告会(11~12月)
- ・研究業績報告書の提出
- ・博士学位請求論文執筆計画書(博士学位請求論文の概要)の提出
- ・全国規模学会の学術誌への論文投稿もしくは学会発表
- ・当該年度の研究計画の振り返り

**第5・6学期**

- ・指導教員をまじえて研究計画を検討(5月)
- ・博士学位請求論文構想発表会(5~6月)
- ・予備審査(9月)
- ・全国規模学会の学術誌への論文投稿もしくは学会発表

**第5**

- ・博士学位請求論文提出(12月)

# 国際関係研究科

Graduate School of International Relations



## 日本から世界へ、世界から日本へ グローバル化のなかで 両者を架橋する人材を育成

国際関係研究科は政治、経済、文化・社会を含む学際的な社会科学としての国際関係学を柱に、国際社会の諸問題の解決に知的に貢献するため1992年に設立されました。国際関係学の研究者に留まらず、国際社会や地域社会でそれぞれの立場から国境を越えて活躍する専門性を備えた実務家を養成します。その中でも2015年4月開設のGJPは日本と世界をつなぐ人材を育成する二言語プログラムです。日本語母語者は英語でも、英語が十分に出来る国際学生は日本語でも学ぶことにより、最後は両者が融合し、日本と世界が結びついた小さなGlobal and Japanese Communityを研究科内に実現します。修了後は実社会という大きな舞台上でその素養を活かします。

### 入学者受け入れ方針〈アドミッション・ポリシー〉

#### ■ 博士課程前期課程

国際関係学の専門知識と異文化間の媒介能力とに裏打ちされた学際的・複眼的な視点を身に付け、国際社会における秩序や平和の構築、国際開発・協力の促進、多文化社会の諸課題の解決などの課題について専門家として分析する力を培い、また特に日本と世界とを媒介する志をもつ学生を求めています。

#### ■ 博士課程後期課程

所定の期間中に博士号を取得することを目指し、国際関係学の専門知識と異文化間の媒介能力とに裏打ちされた学際的・複眼的な視点を身に付け、国際社会における秩序や平和の構築、国際開発・協力の促進、多文化社会の諸課題の解決などの課題について、独創的な知的分析を行う力、および高度な専門家として実践的な課題解決に貢献する力を培って、修了後には、大学などの高等教育・研究機関における教育・研究職、および各種の国際機関を含む、高度な専門的知識を要する職に就くことを志す学生を求めています。

### 研究指導方法

大学院生は第一セメスターから最終セメスターまで、いずれかのゼミに所属し、毎週のゼミの中で指導教員より指導を受けます。修了までのプロセスは、修士1回生時の終わりにM1論文を、修了時に修士論文を、執筆するという流れです。M1論文と修士論文提出前には、指導教員と副指導教員による研究進捗報告会が実施され、執筆完成に向けての建設的な意見交換や指摘を受ける有効な機会が本研究科の研究指導システムとして設けられています。そのため、修士論文執筆に不安を抱える方をサポートする仕組みが整っています。

国際関係研究科についての詳細は [立命館 院 国際関係](#) [検索](#)

### 5つの柔軟なプログラムで学際的なカリキュラムを展開

#### 日本語で修了可能なプログラム

##### グローバル・ガバナンス [プログラム]

現代のグローバル化の進展は、国家のガバナンス能力の危機を生み出しています。本プログラムは、各地で勃発する民族・宗教紛争、テロや麻薬などの国際犯罪、環境破壊や感染症などの一因では対処不可能な課題に、国際社会はどう取り組み、平和と正義と民主主義を保障していくべきかを研究し、グローバル・ガバナンスの全体構造と動態を政治・経済・社会の側面から追います。

##### 国際協力開発 [プログラム]

世界の圧倒的多数の人々は貧困と飢餓に苦しんでおり、今ほど「南北問題」の解決と、新たな国際経済システムの構築が求められているときはありません。本プログラムは、持続的な開発政策、貧困削減、国際援助、地域経済統合、市場経済の展開を研究し、それらの政治的・社会的背景とインパクトを理解することで、21世紀の世界の行方を総合的に追究していきます。

##### 多文化共生 [プログラム]

情報通信技術 (ICT) の飛躍的な進歩によって、「世界は一つ」になりつつあります。本プログラムは、世界の一体化が、各国・各社会の文化にどのような影響を与えているのか、文化の変容をどう考えればよいのか、文化の衝突ではなく共生のために、我々は何を努力していくべきか、について研究します。



#### 英語で修了可能なプログラム

##### GCP [Global Cooperation Program]

グローバル化を通じて、世界にはこれまでにないかたちで様々なボーダーを超える結びつきが生まれています。それは国際的な諸問題に新しい次元の複雑さをもたらすとともに、そうした問題を解決するための新しい協力の可能性を開いてくれます。本プログラムでは、世界約20カ国以上の人たちが「国際協力と開発」をキーワードに英語で国際関係学を学んでいます。既に開設から10年以上の実績があり、世界各国の行政官など国を代表するリーダーとして多くの修了生が活躍しているほか、多くの日本人学生も本プログラムを経て実務家として活躍しています。

##### GJP [Global and Japanese Perspectives Program]

グローバル化の進展にもなると、実務的な英語の力や多文化的な組織に対応できる素養をもつ人材を求める社会のニーズが高まっています。学部までの学びからもう一歩踏み込んで「グローバル人材」を目指したい、本プログラムは、そんな方に向けて英語でのコア科目と演習を主体としつつ、日本語による科目を組み合わせることで無理なくステップアップできる「育成志向」のカリキュラムで構成されています。多文化時代にふさわしい国際関係学の基礎と国際社会を見る日本の視点を強調した本プログラムは、日本から世界への発信を担う真のグローバル人材の育成を目指します。

### ■ 主な開講科目一覧 ※他にも多数の科目を開講しています。詳しくはHPをご覧ください。

分野	日本語開講科目			英語開講科目	
	グローバル・ガバナンス	国際協力開発	多文化共生	GJP (Global and Japanese Perspectives Program)	GCP (Global Cooperation Program)
基幹科目 Core Courses	グローバル・ガバナンス史研究/グローバル市民社会研究/開発経済論研究/国際マクロ経済学/国際関係論研究/国際社会論研究/国際法研究/多元文化論研究/世界経済論研究	国際協力政策研究 途上国政治論研究 社会開発論研究 地域開発研究 環境経済論研究 国際金融論研究 日本経済研究 国際貿易投資論研究 地域統合論研究 開発計画論特殊研究 国際協力政策研究 開発金融特殊研究	比較社会史研究 グローバリゼーションとジェンダー研究 グローバリゼーションと地域文化研究 グローバリゼーションと宗教研究 マイグレーション研究 メディアと国際社会研究 文化人類学研究	Global Civil Society / Global Politics / International Political Economy / International Sociology / Theories of International Relations	Development Studies / Development Strategies / International Organizations / Professional Training / Platform (J) II
プログラム科目 Program Courses	比較政治論研究 平和構築と予防外交研究 国際機構論研究 先進国政治論研究 現代民主主義研究 国際環境法研究 人権論研究 民族紛争の法研究	国際協力政策研究 途上国政治論研究 社会開発論研究 地域開発研究 環境経済論研究 国際金融論研究 日本経済研究 国際貿易投資論研究 地域統合論研究 開発計画論特殊研究 国際協力政策研究 開発金融特殊研究	比較社会史研究 グローバリゼーションとジェンダー研究 グローバリゼーションと地域文化研究 グローバリゼーションと宗教研究 マイグレーション研究 メディアと国際社会研究 文化人類学研究	Japan in East Asia / Japan in the World History / Japanese Business Globalization / Japanese Economy / Japanese Diplomacy / Japanese Politics and Foreign Relations / International Organizations / Professional Training / International Security / Globalization and Environmental Issues / Globalization and Gender Issues / Globalization and Media / Globalization and Multicultural Issues / Development Studies / Development Strategies / Development Economics	Development Economics / Policy Evaluation / International Security / Globalization and Environmental Issues / Globalization and Gender Issues / Globalization and Media / Globalization and Multicultural Issues / Introduction to Economic Theory / Japan in East Asia / Japan in the World History

### 特徴的な学び

- 「国際的な大学院ネットワーク (APSIA) へ、日本唯一の正会員加盟」  
ハーバード大学、イェール大学を始めとした世界の国際関係学をリードする大学院が集まる、国際的な大学院ネットワーク (APSIA) に日本の大学・大学院の中で唯一正会員として加盟し、国際関係学の教育・研究で日本をリードする存在として世界的に認められています。
- 多様性から学ぶ ▶ 世界各国から集う留学生と高めあう  
世界各地から留学生が集い、その数は在学院生の半数を占めています。  
留学生の出身国 (2017年度 秋セメスター在籍者) (順不同) 東アジア: 中国、韓国、台湾、日本 東南アジア: インドネシア、ブルネイ、ラオス、ミャンマー、ベトナム、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ 中央アジア: キルギス、モンゴル 南アジア: インド、ネパール アフリカ: 南アフリカ、モザンビーク、ジンバブエ、セネガル ヨーロッパ: イギリス、リトアニア、ブルガリア、ドイツ、イタリア、ハンガリー、ポーランド 北米: アメリカ、カナダ、メキシコ
- 世界で学ぶ ▶ Dual Master's Degree Program (DMDP)  
約1年間、海外の大学に院生を派遣。最短2年間で2つの修士号を取得できる画期的な制度です。  
アメリカン大学国際関係大学院【アメリカ】 エラスムス大学ロテルダム、社会科学大学院大学 (ISS) 【オランダ】 国立政治大学【台湾】 ロンドン大学ロイヤルハロウェイ校【イギリス】 ヨーク大学【イギリス】 慶熙 (キョンヒ) 大学校【韓国】
- エキスパートから学ぶ ▶ 経験豊富な実務家教員 ※客員教授や特別招聘教授の出講は、年によって変更することがあります。  
元国連事務次長 元外務事務次官 【株式会社 国際協力銀行】 【独立行政法人 国際協力機構 (JICA)】 【独立行政法人 日本貿易振興機構 (ジェトロ)】
- フィールドから学ぶ ▶ インターンシップ・フィールドリサーチを推進  
ジェトロ (日本貿易振興機構) 【国内外】、国際交流基金 (ほか)

### ■ 過去の修士論文タイトル一例

◇ 平和構築のための教育—緊急教育支援の動向と課題— ◇ 日本文化におけるサル/人間関係について—二助企画 (猿まわし) を事例として— ◇ インドネシアにおける華人指導者たちの政治志向に関する一考察—体制変動と歴史的系譜の視点から— ◇ EU金融規制監督の改革と今後—イタリアの銀行救済からの考察— ◇ 国際協力開発における歴史的変容とその行方—国連開発計画とインクルーシブビジネス— ◇ カンボジアの学校教育における基礎教育の開発—地方分権化政策を通じた教育開発は可能か— ◇ 中国とモンゴルの地域における経済協力関係 ◇ 政治経済学の視点から見る中越外交関係—2014年5月にベトナムで起きた反中デモの短期収束を例として— ◇ オバマ政権期におけるアメリカのレイシズムの考察—ティーパーティー運動を事例として— ◇ 中国都市部における高齢者介護—高齢者介護システムの構築を展望して— ◇ 日韓の歴史認識問題—日韓歴史共同研究の課題と展望— ◇ 日本におけるパブリック・ディプロマシー—対韓パブリック・ディプロマシーの現状とその課題— ◇ 日中歴史教科書問題の現状と課題—中学校歴史教科書を手がかりに— ◇ 人権とケイ・ビリティ・アプローチ—共通価値の視点から— ◇ 国連機関における国内避難民保護についての考察—背景・課題—

# 文学研究科

Graduate School of Letters



## 専門的・国際的な研究を通じて、「人間とは何か」をはてしなく追い求める。

文学研究科は、「人間とは何か」を追求する人文学の意義がますます増大する現代社会において、人文学の諸分野における専門的・国際的な研究を展開することによって、学界の第一線に立つ研究者、および研究を通じて培った知識や経験を生かして社会で活躍する高度な職業人を育成することを目的としています。

### 入学者受け入れ方針〈アドミッション・ポリシー〉

#### ■ 博士課程前期課程

〈人文学専攻〉

《研究一貫コース》

- (1) 深い教養と豊かな想像力を培う意志のある者
- (2) 人文学に関する、学士課程修了レベルの知識を有している者
- (3) 人文学の諸問題の解明のための、広い視野と明確な問題意識を抱いている者
- (4) 各領域の研究者となるために必要とされる、語学力やプレゼンテーション能力の習得を積極的をめざす者
- (5) 各専門分野における最新の研究手法や知識を身につけることを通じて、研究者となるための基本的力量の取得を積極的をめざす者

《高度専門コース》

- (1) 深い教養と豊かな想像力を培う意志のある者
- (2) 人文学に関する、学士課程修了レベルの知識を有している者
- (3) 人文学の諸問題の解明のための、広い視野と明確な問題意識を抱いている者
- (4) 専門的な知識を生かして社会で活躍するために不可欠となる、語学力やプレゼンテーション能力の習得を積極的をめざす者
- (5) 現代の多様な問題に対処できる知識・技能・経験を積極的に積む意志のある者

〈行動文化情報学専攻〉

《研究一貫コース》

- (1) 深い教養と豊かな想像力を培う意志のある者
- (2) 人文学と情報学に関する、学士課程修了レベルの知識を有している者
- (3) 人文学の諸問題の解明のための、広い視野と明確な問題意識を抱いている者
- (4) 人文学の諸領域のデータを、情報学の観点から対処することに興味を抱いている者
- (5) 各領域の研究者となるために必要とされる、語学力やプレゼンテーション能力の習得を積極的をめざす者
- (6) 各専門分野における最新の研究手法や知識を身につけることを通じて、研究者となるための基本的力量の取得を積極的をめざす者

《高度専門コース》

- (1) 深い教養と豊かな想像力を培う意志のある者
- (2) 人文学と情報学に関する、学士課程修了レベルの知識を有している者
- (3) 人文学の諸問題の解明のための、広い視野と明確な問題意識を抱いている者
- (4) 人文学の諸領域のデータを、情報学の観点から対処することに興味を抱いている者
- (5) 専門的な知識を生かして社会で活躍するために不可欠となる、語学力やプレゼンテーション能力の習得を積極的をめざす者
- (6) 現代の多様な問題に対処できる知識・技能・経験を積極的に積む意志のある者

#### ■ 博士課程後期課程

〈人文学専攻〉

- (1) 人文学に関して、自己の研究を進めるための基礎となる専門的な知識を有している者
- (2) 従来の研究には見られない、高度で独創的な研究を展開する意欲を有する者
- (3) 学際的・総合的な研究の構築のため、他の学問領域にも幅広い関心を持つ者

〈行動文化情報学専攻〉

- (1) 人文学や情報学に関して、自己の研究を進めるための基礎となる専門的な知識を有している者
- (2) 従来の研究には見られない、高度で独創的な研究を展開する意欲を有する者
- (3) 学際的・総合的な研究の構築のため、他の学問領域にも幅広い関心を持つ者
- (4) 人文学に情報系研究の知見を融合させるための、研究に関する柔軟性を持つ者

文学研究科についての詳細は [立命館院文学](#) [検索](#)

## ■ 多様な教育・研究を生み出す2つの専攻、14の専修

文学研究科は人文学専攻と行動文化情報学専攻による、2専攻14専修の体制となっています。伝統的な人文学に加え、情報技術と人文学を融合させたこれまでにない新しい学問分野を展開しています。

人文学専攻 文学研究科 行動文化情報学専攻	哲学専修	古代ギリシア哲学から近代哲学、倫理学、社会哲学、現象学、フランス現代思想といった諸分野に専任スタッフを配置し、2600年以上前に始まる「人間とは何か」という課題に取り組みます。
	教育人間学専修	「こころ」の問題を媒介として、教育と人間のかかわりを多角的に考察します。その出発点は、生まれ、育ち、出会いや別れを経て、やがて老い、死にゆく人間の営みに対する驚きと悲しみです。
	日本文学専修	長い歴史に培われた日本の文学作品やことばを通じて、日本文化の特質を探索します。想像力溢れる作品群は、時代を超えて私たちの胸を打ちます。新たな視点で先端的な研究をめざします。
	中国文学・思想専修	悠久の歴史の中ではくまれ、東アジアの文化に大きな影響力をもつ中国の文学や思想に関する高い識見を養い、そこに存在する興味深い問題について清新な研究を展開します。
	英米文学専修	英米を中心とする英語文学・文化を広く深くカバーする専門分野の教員が指導に当たり、高度な英語力や分析力を養います。研究職はもとより、英語力が要求される多様な職場への就職が考えられます。
	日本史学専修	古代から現代に至る各時代のスペシャリストが、伝統ある「立命史学」に立脚した新たな歴史学を構築します。全国各地で教員・学芸員として活躍する先輩たちとのネットワークも充実しています。
	東洋史学専修	中国を中心とする東アジア世界を、その起源に遡って研究します。そのための方法としての原典読解は、昨今の東アジア諸地域におけるダイナミックな動きの原点を探る上で有益でしょう。
	西洋史学専修	古代～現代の西欧・東欧における政治史、文化史、社会史など広い領域にわたる教員スタッフが、専門の垣根を越えて研究を発展・深化できるように、協働しています。
	文化動態学専修 【博士課程前期課程のみの募集】	比較文化論、言語学、歴史学、美術史、現代芸術批評、音楽文化論、社会思想史、文化人類学等の専門領域を横断しながら文化のダイナミズムに取り組める専修です。
	現代東アジア言語・文化学専修	中国(台湾・香港などを含む)・朝鮮半島を領域とし、そこにおける言語・現代文化・現代史を教学分野として、中国語・朝鮮語の実践的なコミュニケーション能力を身につけた、グローバルな東アジア人を育成します。
	英語圏文化専修	英語学・言語研究および英語圏文化の歴史、文化・文学を分野横断的に研究します。高度な専門性を磨きつつ学際的な思考力を身につけます。また、これらの研究を通して国際的に活躍できる英語運用能力を養います。
	地理学専修	地表上のさまざまな現象を空間的関連性の観点から解明するのが地理学です。専修には幅広い専門分野に多くの教員スタッフがいて、質の高い研究・教育を展開しています。
	文化情報学専修	人文学に情報技術を取り入れたデジタル・ヒューマニティーズの手法を応用し、世界に誇る日本文化・芸術・文化遺産をテーマに、研究手法の格段の効率化を図り、魅力的で豊富な専門知識をキュレーションできる人材を育成します。
	考古学・文化遺産専修	人類の残した遺跡や遺物から歴史を復原する考古学を学ぶと同時に、遺跡や遺物を中心とする文化遺産の保存と活用について学びます。日本列島の考古学と文化遺産が対象ですが、日本列島以外についても広く学ぶことが可能です。

## ■ 大学院生の目的に応じた2つのコースを設置 [博士課程前期課程]

前期課程では、様々な目的を持つ人を受け入れるため、2つのコース(研究一貫コース、高度専門コース)を導入しています。コースは入学試験出願時に決定し、入学後はそれぞれの目標に沿って研究を進めていきます。

### 研究一貫コース

博士課程後期課程に進学して博士学位を取得することを目指す人。博士学位取得後は、高等教育・研究機関での教育・研究に従事することを目標とする人を対象とします。

### 高度専門コース

博士課程前期課程修了後は、中学・高等学校教員、公務員、学芸員などの専門的知識が必要とされる職業を目指す人。また現役の有職者で、より専門的な能力を身につけることを目指す人。その他、社会人として幅広い活動に応えられる教養を身に付けることを目的とする人を対象とします。

# 映像研究科

Graduate School of Image Arts



## プロデューサー・マインドを備えた ビジュアル・ディレクターの育成。

近年の多様化する映像文化・映像産業をめぐる状況の中では、映像に関するジェネラリスト的な素養と領域・分野に応じた高い能力が求められます。映像研究科は、立命館大学が総合大学であることのメリットを活かした幅広い教養と、映像の制作(作品制作にとどまらず、開発・活用を含みます)に関連する知識・技能・技術・方法論の修得により、こうした能力を養成することを目指します。

### 人材育成目的

本研究科は、映像に関わり、専門性が高くかつ汎用性もある知識・技能・技術・方法論を修得し、広い視野から自らの課題を捉え、多様化する映像関連分野に柔軟に取り組んでいくことのできる人間の育成を目的とする。

### 入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)

映像研究科は、映像に関わり、専門性が高くかつ汎用性もある知識・技能・技術・方法論を修得し、広い視野から自らの課題を捉え、多様化する映像関連分野に柔軟に取り組むことに関心と意欲をもつ学生を求めます。これを実現できる人材を選抜するために、映像研究科では、以下のような指標に基づき選考を行います。

1. これまでの実績が、映像研究科の研究領域であるサブジェクト・ゾーンにおいて、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)に示されている教育目標を到達しうる素養を持ちえていると判断できるか。
2. 研究計画書が具体的であり、かつ映像研究科の人材育成目的と合致しているか。
3. 映像研究における基礎的素養、および作品制作や資料読解等に必要とされる語学力を有しているか。
4. 自身の言葉で自らが有する映像分野に関する知識を明確に伝え、かつ履修後における将来像を示すことができるか。

### 教育目標

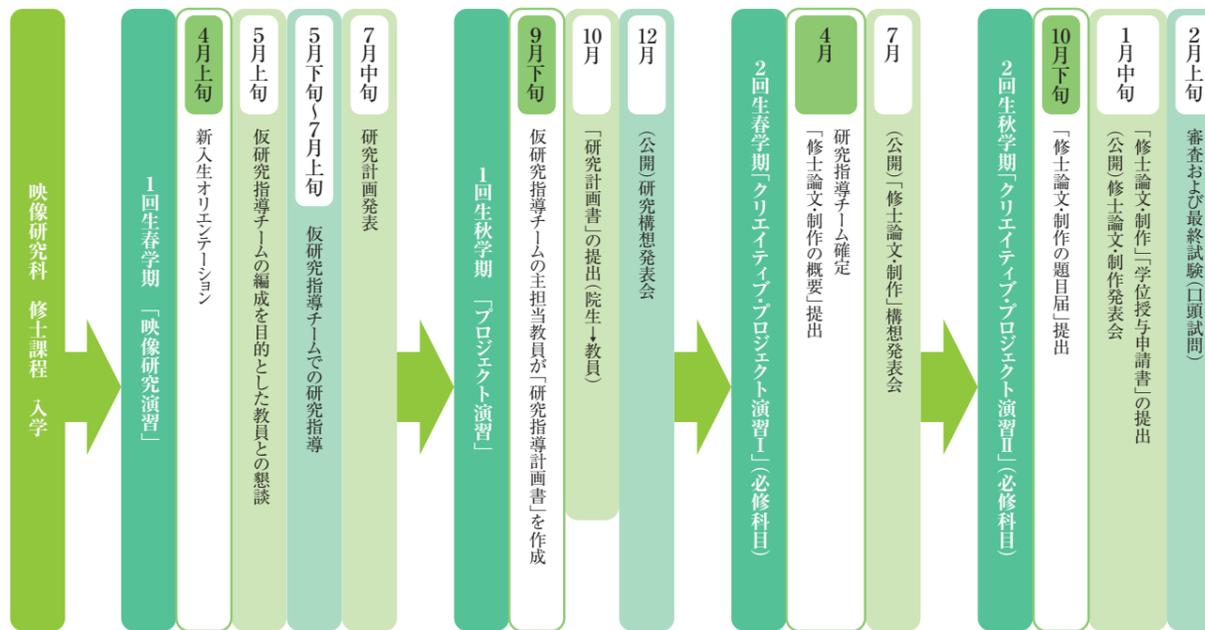
- 1(関心・意欲・態度) 映像に対する幅広い関心と倫理的態度に立脚し、社会還元や国際貢献を視野に入れながら、多様化する映像関連分野に柔軟に取り組む意欲を持つことができる。
- 2(知識・理解) 映像全般についての幅広い素養と専門領域に関する高度な知識とともに有し、映像の表現、活用、あるいは技術をめぐる諸課題を適切に理解できる。
- 3(技能・表現) 映像によって、あるいは映像について高度な研究を進める上で不可欠な技術・技能・方法論を体得し、社会還元や国際貢献に資する形で、制作、調査、文献読解等を行うことができる。
- 4(思考・判断) 映像に関するさまざまな思考や実践を分析し、社会的要請に応じた新たな主題を自ら設定した上で、映像によって、あるいは映像について独自の表現や考察を創出・展開し、これを明確に発信することができる。

### ■ 研究科の特徴

・立命館大学という総合大学において、多岐化・多様化を続ける映像世界を、包括的・構造的に測定する能力、複眼的に柔軟性をもって考察する能力を養います。  
 ・一分野に特化し狭い範囲で専門的技術習得者を養成するのではなく、多面的な視点を携え、専門性が高いレベルの中でも汎用性のある知識、技能、技術・方法論を持ち、変化の激しい映像文化において弾力的な対応ができる能力を育みます。  
 ・社会の求める課題を発見して、これを調査し、その上で自らの研究・制作・開発を深めます。

映像研究科についての詳細は [立命館 院 映像](#) [検索](#)

### ■ 研究指導の流れ



### ■ 5つの「サブジェクト・ゾーン」

映像研究科は、映像文化への横断的思考の涵養を目指すことができるようにテーマ・プロジェクト型制作・研究とディプロマ・リサーチ型学習の融合したカリキュラムを配しています。こうした融合形式のカリキュラムは、映像という複合領域において学生が自らの学修パスを自覚しながら研究活動ができるよう、学生の研究関心に対応したサブジェクト・ゾーンを設けた編成になっています。サブジェクト・ゾーンは、映像をとりまく社会的状況にあわせて、2019年度から、次のような5つに再設計されました。

ゾーン名	映画芸術ゾーン	ゲーム・エンターテインメントゾーン	クリエイティブテクノロジーゾーン	映像マネジメントゾーン	社会映像ゾーン
概要	実写映画とCGアニメーションを表現手段とし、作品の制作とそれに関連する理論や歴史について学修するゾーン。	知識基盤社会におけるハード・ソフト・サービスを対象とした、先進的なエンターテインメント創造に関する知見・技法を習得するゾーン。	情報技術・メディアテクノロジーを基盤とした、工学と芸術に関わる学術を扱うゾーン。コンテンツとテクノロジーとを一体としてとらえ、新たな技術開発と併せたメディア表現の創造を行う。	社会貢献や国際貢献を視野に入れた映像メディア産業とそのビジネス全般に関する専門知識を学ぶゾーン。	映像が浸透した現代社会はもちろん過去や未来の社会との関わりの中で映像の価値や意味を問い、社会の中で、社会を対象として、社会のために、映像を制作・研究するゾーン。
テーマ	・映画 ・CGアニメーション	・ゲーム ・遊戯 ・ユーザー・ジェネレイテッド・コンテンツ	・メディアアート ・バーチャルリアリティ ・ヒューマンインタフェース	・コンテンツビジネス ・クリエイティブ産業 ・グローバルマネジメント	・ドキュメンタリー ・アーカイブ ・放送
授業科目	ディプロマ・リサーチ型	・ゲームコンテンツ・ストラテジー ・ソーシャルコンテンツ制作論 ・ゲームエンジン実習	・バーチャルリアリティ特論 ・マルチモーダルインタラクション論 ・ビジュアルゼーション実習	・コンテンツガバナンス ・グローバルコンテンツ&イノベーション ・コンテンツ&コミュニティブランディング	・アーカイブデザイン論 ・映像記録論 ・科学映像の制作理論と制作
	テーマ・プロジェクト型	・映像研究演習 ・プロジェクト演習 ・映像学入門 ・映像研究キャリア演習	・特殊講義 ・社会連携プロデュース ・映像現場研修	・クリエイティブ・プロジェクト演習I ・クリエイティブ・プロジェクト演習II	

### ■ 過去の修士論文タイトル一例

- ◇ソーシャルメディアにおけるインディーゲームプロモーション効果に関する研究～グラスルーツ・マーケティングの視点から～
- ◇通所介護事業所におけるインタラクティブ・デバイスの制作と展開 黒電話型デバイスの事例から ◇観客参加を重視した複合現実型エンタテインメントの研究 ◇上野地区の生活に見る相互扶助「コウリョク」の映像化 ◇想像力を養うためのあそびづくり ◇映像アーカイブ構築から試みる花街の芸の継承～上七軒の地方を中心に～ ◇従来型PCゲームにおけるHMD体験に適したユーザインタフェースの研究～マウス、キーボードを操作インタフェースとするHMD体験の実現について～ ◇オンラインゲームのアーカイブ構築に関する基礎的研究～オンラインゲームに対応したデータベース構造の提案と実践～ ◇「語り」を引き出す仕組みづくりとその実践～「ミヤオ式お守りづくり」を通じて～ ◇映画「空虚装置」の制作と解説 ◇奈良団扇の製作工程疑似体験ウェブアプリケーションの開発～透かし彫りに焦点を当てて～
- ◇プレイヤーに非意識的目標を構築させるゲーム難易度構造の実証実験 ◇伝統芸能への参与を促す仮面の作用～嵯峨大念佛狂言を事例として～

# 言語教育情報研究科

Graduate School of Language Education and Information Science



大連外国語大学(中国)での日本語教壇実習

## 言葉を探る、言葉を教える

言語は人間だけに与えられた宝物です。コミュニケーションのみならず、思考や認知の際にも不可欠な役割を果たします。こうした言語についてその諸特徴を探り、言語を教えるための専門知識を身に付けることは重要なことです。本研究科は、言語学、言語教育学を踏まえた上で、言語教師や言語に関わる専門家を目指す人たちに門戸を開放しています。学部を出たばかりの方と言葉に関わる仕事をしてきた社会人が机を並べて研究し、日本人と留学生とが共に研鑽を積める環境が整っています。言語は様々な学問領域と関係しているため、言語や言語教育関係以外を専門にした方も歓迎いたします。高性能の脳実験装置、膨大な言語データを処理するための高性能コンピュータも整備され、国内外での教育実習の場も用意されています。本研究科は「言葉を探り、言葉を教える」ための基盤を学び、研究する意欲のある方々を広く受け入れます。

## 人材育成目的

言語教育情報研究科は、現代社会のニーズに応えられる高度な言語教育能力、言語情報学、応用言語学、社会言語学・コミュニケーション関係の専門知識、言語情報処理技術などを身につけた国際的に通用する人材の養成を目的としています。

## 入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)

- ① 本研究科で研究を行うために必要な言語能力を持ち、
- ② 外国語教育や言語に関連する分野の基本的知識を持ち、
- ③ 外国語教育や言語に関連する分野において研究を行える、  
または行えるようになる資質を有している(問題の発見能力、論理的考察力、情報整理能力、および、学問に対する望ましい姿勢・意欲など)、  
と認められる対象者を受け入れます。

## 研究指導の流れ

4月入学の場合(9月入学の場合概ね時期が6ヶ月ずれます)

1年次		2年次	
第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester
「研究基礎論1」 (研究指導科目/講義形式)	「研究基礎論2」 (研究指導科目/講義形式)	「課題研究演習I」 (研究指導科目/ゼミ形式)	「課題研究演習II」 (研究指導科目/ゼミ形式)
アドバイザー決定(4月初)	構想発表会(12月)	2年次研究指導計画書提出(4月末)	中間報告会(10月)
1年次研究指導計画書提出(4月末)	指導教員希望申請(1月)		修士論文または特定課題研究の 成果物と報告論文提出(1月)
	コース選択(「修士論文」または「特定 課題研究の成果物と報告論文」)(1月)		口頭試問(1月~2月)
	指導教員決定(1月)		学位授与・修了(3月)

言語教育情報研究科についての詳細は [立命館 言語教育情報](#) [検索](#)

## 2つのコース

### 言語教育学コース

#### 英語教育学 プログラム

日本の英語教育は、従来の言語知識偏重の教育から、実践的コミュニケーション能力を養成する方向に大きく舵が切られました。これからの英語教員には、英語教育学に関する高いレベルの指導力、教師自身の英語運用能力、そして高い学習目標と動機づけによる意欲的な学習と、達成感から生まれる大きな喜びを、学生・生徒に与えることが求められています。本プログラムではこのような教育理念に基づき、国際通用性を獲得した英語教員を養成するために、外国語としての英語教育に関する深い専門知識を得る科目履修に加えて、海外でのTESOL資格の取得や日本の高等学校でのインターンシップを両輪としたカリキュラムを組んでいます。

#### 日本語教育学 プログラム

日本語学習者数が国内外で増加し、学習者の多様化が進んでいます。社会・文化背景、そして学習目的の多様性に対応できるような高度な知識と実践力そして柔軟性を備えた日本語教育の専門家が必要とされています。本研究科の日本語教育学プログラムでは、そうした要請に応えられるよう、日本語言語学の高度な専門知識と研究方法、そして最新の外国語教授理論を授業やゼミ指導で学び、国内外の多様な教育機関で実施される日本語教育実習で実践力をつけます。学部で日本語学や日本語教育学を専門として進学してくる人はもちろんのこと、現職の日本語教師、社会人、そして留学生など、多様な背景を持った大学院生が学べる環境が整っています。

### 言語情報コミュニケーションコース

#### 英語または日本語を研究対象

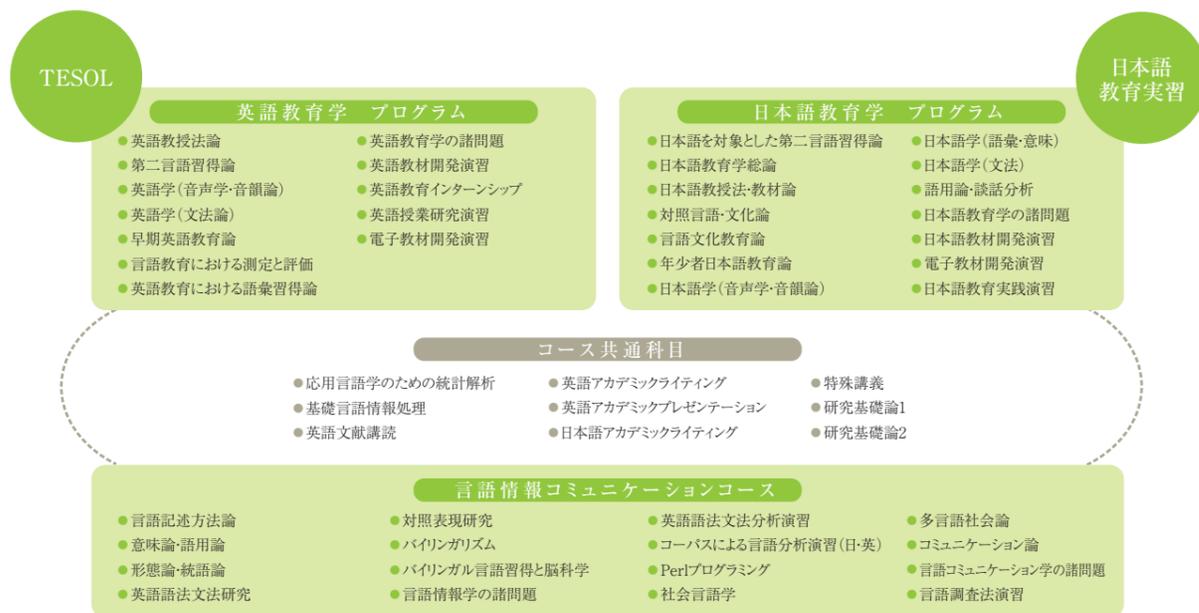
本コースは、主として英語・日本語を研究対象にして、言語情報科学的分析あるいは社会言語学的分析を行います。研究科が保有する大量の電子化された言語テキスト(コーパス)をコンピュータによって解析し、新たな言語事実を発掘し、それを言語の体系の中でどのように位置づけるべきか、またどのように説明するかを考えます。その前提として伝統文法、記述文法、言語理論を重視します。また、情報機器やネットワーク技術を活用したマルチメディア利用のCALL教材開発の研究を行うこともできます。社会言語学的視点からは、ボライネスストラテジー、バイリンガリズム、言語変化、地域方言・社会方言の研究などを行います。



ポスターセッション発表

## カリキュラム紹介

\*一部の科目(演習など)を除いて、どのコース・プログラムに所属していても、各コース・プログラムの科目を履修することが可能です。



# 先端総合学術研究科 [5年一貫制博士課程]

Graduate School of Core Ethics and Frontier Sciences



## 人類の課題に新たな「知」をもって挑む、 知の探究者へ。

「核心としての倫理」を軸に、公共、生命、共生、表象のテーマのもとに新しい研究領域を創出します。

20世紀に人類は多大な物質的豊かさを獲得したと同時に、自らを破壊させることも不可能ではない破壊力を生み出しました。21世紀に引き継がれた諸問題の解決に向かうために、「核心としての倫理(コア・エシックス)の問い」を中心に、「公共」「生命」「共生」「表象」の4つのテーマ領域から人類共通の課題にアプローチするのが本研究科です。

### ■ プロジェクト型大学院

先端総合学術研究科は、開設以来「プロジェクト型大学院」として、研究所・センター群で展開されている様々な個別研究プロジェクト、文部科学省や日本学術振興会により採択されている研究などと連携しつつ、プロジェクトを遂行しながら教育研究を行っています。

### ■ 充実した研究支援体制

- ライティング指導室には、研究指導助手が常駐しており、以下の業務を行っています。
- 論文執筆などの研究相談。
  - 先端総合学術研究科主催のシンポジウム・研究会の企画・運営に関わる業務など。
  - 「Core Ethics」(研究科紀要)編集事務
  - 論文指導依頼の調整
- 学術雑誌・学会誌・立命館大学内の各種研究所紀要などに投稿する論文、もしくは研究ノート・報告書原稿などの作成における、文章形式・表現に関する指導。
- 研究計画書・学会発表資料作成における、文章形式・表現等に関する指導。

### 入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)

先端総合学術研究科は、「プロジェクト型大学院」としての教育研究体制のもと、従来のディシプリンの枠組みを超えた複数の分野と果敢に連携し共同する試みを展開するため、大学院における教育を現実の複雑さの水準に見合ったものに引き上げることだけでなく、世界の動向に一步先んじつつ、今後必要とされる新しい人材を、さまざまな分野に向けて輩出することを目的としています。このように、テーマとなる分野の専門的かつ最新の情報に精通し、さらに必要な情報を収集し総合的に判断する能力、明確な判断の上で一定のプロジェクトを設定し、問題解決の方向を人的なネットワークと協力関係を通して切り拓いていく力が本研究科において形成しようとする研究者の能力であり、そのためにも自身のテーマを自らの力で徹底的に思考することができる人材を求めています。

先端総合学術研究科についての詳細は [立命館 先端](#) [検索](#)

## ■ 4つのテーマ領域と担当教員の研究テーマ

### 《公共》 21世紀における公共性

国民国家の法的規制である公/私の境界の変容過程をたどり、分配的正義および経済システムの問題を視野に入れながら、国民国家に替わるシステムの可能性を探ります。

- 「他者の合理性」の理解社会学 岸 政彦
- 平等と自由/自由の平等 立岩 真也
- 身体とグローバリゼーションの社会学 美馬 達哉

### 《共生》 共生の可能性と限界

多大な犠牲を伴う不完全な共生実験であった人間の歴史を批判的に遡りつつ、未来に向けて、そうした犠牲を伴わない生命と生活の可能性を構築する方途を探ります。

- 狭知、アナザーワールド、そしてLiving for Todayの人類学的探求 小川さやか
- ままならない身体をめぐる文学 西 成彦
- 社会は共生のモデルとなりうるか? ポール・デュムシエル

4つの  
テーマ領域  
核心としての  
**倫理**

### 《生命》 争点としての生命

ゲノム分析の進展、生命操作をめぐる新しい事態、自然破壊の急速な進行…などが投げかける倫理的諸問題を整理して、新しい生命・環境の理解と表現の可能性をひらきます。

- 生殖と病の哲学 小泉 義之
- 生命科学・支援技術の歴史と倫理 松原 洋子

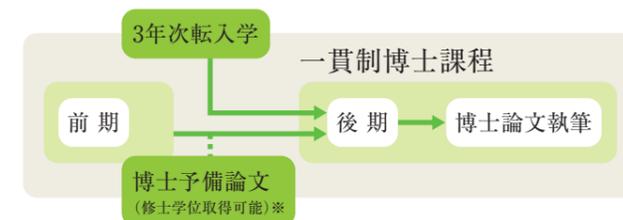
### 《表象》 文化と芸術の表象論的分析

文化と芸術の諸事象を表象論的観点から読解・分析します。技術、歴史、思想、実践への理解を軸とし、創造と受容の場、諸々の文脈、メディアといった問題系へとアプローチします。

- 現代アートとミュージアムの戦略 竹中 悠美
- 現代哲学と批評のあいだで思考する 千葉 雅也
- 遊びとゲームの感性的論理 吉田 寛

## ■ 一貫制博士課程

先端総合学術研究科では、領域横断的なカリキュラムによる講義・演習から構成されている一貫制博士課程を採用しています。大学院生は1・2年次に開設される「プロジェクト予備演習」に参加しながら博士予備論文の仕上げに専念します。この間、個別プロジェクト、研究会などに准メンバーとして参加します。博士予備論文は、プロジェクト研究に正式に共同研究者として参加するための資格審査の材料となります。博士予備論文の審査に合格すると、その院生は正式な共同研究者として、4つのテーマ領域からなる「プロジェクト演習」を中心として、立命館大学の研究所・センター群によって構成されている研究会など多様なプロジェクト研究そのものの運営にあたって中核的な役割を果たすこととなります。すなわち、計画的に研究を推進する日々の活動の一翼を担いつつ、研究会や学外の諸学会等における成果発表を着実に積み重ねていくことになります。



※2年以上在学し、所定の単位を修得し退学する場合に修士学位を授与することがあります。

### ■ 2016年3月 学位申請者 博士論文題目

女子教育における化粧の役割分析—<少女>に求められた化粧の歴史—/保安処分構想から医療観察法体制へ—日本精神保健福祉士協会の関わりを中心に—/老後が見えない離別女性たち—その人生の作られ方—/神戸中華同文学校の多文化・多言語教育—学校コミュニティの維持・創造をめぐって—/神谷美恵子の実践の研究—1960年代の長島愛生園を中心に—/対人援助におけるコミュニティ通訳者の役割考察—通訳の公正介入基準の検討—

### ■ 2016年9月 学位申請者 博士論文題目

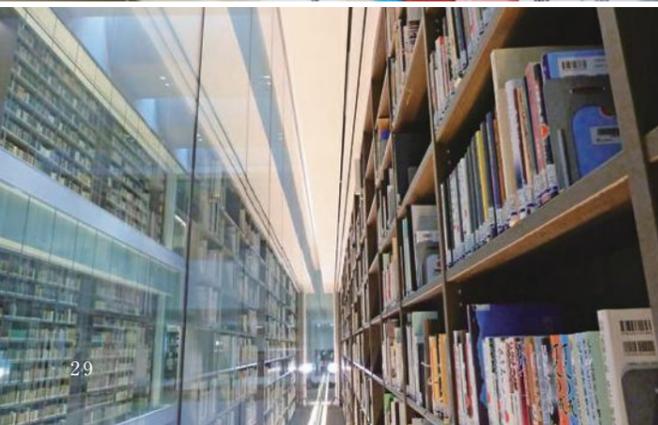
台湾における「善終」概念の変容と実践—終末期医療の法制化を中心に—/日本手話によるろう教育の展開—言語権からみたバイリンガルろう教育の内と外—

### ■ 2017年3月 学位申請者 博士論文題目

京都市嵐山の風致に関する歴史人類学的研究—「ローカルな専門家」の役割からみた景観の動態—/京都市・西陣地域における医療実践の歴史的研究—白峯診療所・堀川病院の活動を中心に—/ヴォコーダー論—主体なき声の歌—/滋賀における難病患者運動の歴史 1983年~2015年—/在日コリアン教育運動の現代史—戦後大阪の公立学校を中心に—

### ■ 2017年9月 学位申請者 博士論文題目

公共の場における精神障害者の語り—エンバロメント実践を超えて—/重度心身障害児者施設の歴史的背景と看護のありよう—くらしの中で福祉職と協働する看護の再定義—/女子大学における観光ホスピタリティ教育の展開—平安女学院大学を事例に—/華人キリスト者の人類学的研究—トランスナショナルな宗教実践の様相—



# 経済学研究科

Graduate School of Economics



## 経済学をベースとした「知のプロフェッショナル」を養成します。

経済学研究科は、1950年に修士課程を創設し、1964年には博士課程（博士課程後期課程）を開設しました。この間、大学・有力企業・官庁・税理士業界等に多くの優れた人材を輩出し、社会的に高い評価を得ています。「経済学の分析・調査・研究力量を有した高度専門職業人や研究者の養成を目指す」という理念のもと、前期課程および後期課程においてそれぞれ人材育成目的・教育目的を設定し、大学院生の研究指導を行っています。なお、2019年4月より前期課程に地域経済・地域マネジメントコースを新設します。本コースは、地域経済を様々な角度から分析し、地域の持続的な発展を目指すべく経済政策を立案・実行し、地域をマネジメントできるスペシャリストを養成することを目的に設置しました。

## 入学者受け入れ方針〈アドミッション・ポリシー〉

### ■ 前期課程

経済学研究科は、経済学とその応用分野について深い専門知識および高い国際コミュニケーション能力を備えた、研究者や高度専門職業人を養成することを目的としています。前期課程では院生の希望する研究分野、志望する専門職領域についての多様なニーズにこたえるために、日本語による①経済理論・政策コースと②「地域経済・地域マネジメントコース」（※2019年4月新設）③税理・財務コース、英語による④Master's Program in Economic Development (MPED)の4つのコースを設けています。各コースでの人材育成の目標を達成するため、入学時点において経済学およびその応用あるいは周辺領域について、一定水準以上の専門知識とそれぞれの研究遂行のために必要な英語によるコミュニケーション能力を有し、独創的な視点から研究を進める研究者、高度専門職を目指す院生、本研究科での学習・研究の成果を自らの仕事の中で応用する意欲を持った方を求めています。

### ■ 後期課程

人材育成の目標を達成するために、前期課程での研究を通じて経済理論とその応用領域における深い専門知識と優れた分析手法を身につけ、自らの知的関心と構想力を駆使して経済現象を分析・研究し、国際的に評価される独創的な研究成果を生み出していく力量を潜在的に有している方を求めています。

経済学研究科についての詳細は [立命館 院 経済](#) [検索](#)

## ■ 博士課程前期課程

前期課程では、「経済理論・政策コース」「地域経済・地域マネジメントコース」（※2019年4月新設）「税理・財務コース」「Master's Program in Economic Development (MPED)」の4コース制とし、それぞれの人材育成目的の下、少人数による研究指導やカリキュラムの充実を図っています。外国人留学生を積極的に受け入れ、特にMPEDは留学生を中心としてすべて英語による授業を行っています。世界的に高まっている高度なスキルを持つ人材へのニーズにこたえるため、国際通用力の高い論理的思考力と構想力および創造性を持った人材を養成しています。

### 経済理論・政策コース

さまざまな経済問題を深く研究し、高度な論理的思考力、調査分析能力、問題解決能力、政策提言能力を育成します。経済学のスペシャリストとして、民間企業や官庁で中心となって活躍できる人材を養成します。

### 地域経済・地域マネジメントコース

経済理論を基礎に、地域経済の分析と政策立案、そして地域をマネジメントできる能力を涵養する教育を行います。困難に直面する地域経済の持続可能な発展のための政策提案ができる、現場に通じた官民の高度専門職業人を養成します。 ※2019年4月新設

## 知のプロフェッショナルになる

### 税理・財務コース

経済学を基礎としながら、法学や経営学との境界領域を含む教育を行い、公認会計士、税理士、企業における税務・企業財務・会計のスペシャリストを養成します。税理士の資格取得を支援し、時代のニーズに合った高度専門職業人を育成します。

### Master's Program in Economic Development (MPED)

すべて英語による国際標準の経済学教育を行い、経済学を基礎とする問題解決能力、政策提言能力を身につけ、世界を舞台に活躍する国際的専門職業人を養成します。途上国を中心に多くの国から多数の留学生を受け入れ、国際色豊かな教育を行っています。

## ■ 博士課程後期課程

後期課程では、広い視野と深い専門性および優れた独創性を持ち、新たな領域の研究分野を自ら切り開いてゆくことができる高い研究力量を備えた研究者を養成しています。この結果さまざまな大学や研究機関に多くの人材を輩出しています。

## ■ コース・カリキュラム紹介

	経済理論・政策コース	地域経済・地域マネジメントコース	税理・財務コース	MPED
1. 博士課程前期課程 (主な科目)	社会科学概論	地域政策	税法	Microeconomics
	ミクロ経済理論	地域マネジメント論	租税制度論	Macroeconomics
	マクロ経済理論	経済統計	国際課税	Econometrics
	計量経済学	社会科学概論	租税各論	Japanese Economy
	経済史	ミクロ経済理論	商法・会社法	Frontiers of International Project Development
	経済政策	マクロ経済理論	税務会計	Infrastructure Development Policy
	経済理論	地域ブランド論	インターンシップ	Development Economics
	社会政策論	観光経済論		International Economics
		アグリビジネス論		Financial Economics
		財政学	金融論	Applied Economics
2. 博士課程後期課程 (主な科目)	国際金融	国際経済論		Elementary Seminar
	経済発展論	応用経済研究		Research Seminar
	経済学特別演習	経済学研究演習		Special Seminar
		研究演習		特別講義

## ■ 過去の修士論文タイトル一例

◇日本のETFのパフォーマンス—ETFのトラッキングエラーの実証分析— ◇移転価格税制における費用分担契約の研究 ◇Monetary Policy Effectiveness and Financial Development: An Empirical Examination.  
◇When is a Country Ready to Export Manufactured Goods? ◇いじめ問題への経済学的应用 ◇消費税法における課税仕入れの制限に関する一考察



# スポーツ健康科学研究科

Graduate School of Sport and Health Science

スポーツ健康科学分野の『未来を拓く』  
プロフェッショナルを養成。

～優れた教授陣と最先端設備による高度な研究力と  
リーダーシップ力の鍛錬～

2020年に東京オリンピックの開催が決定し、人々の健康志向やスポーツへの関心がますます高まっている中、私たちの周りには不正確な情報が氾濫しています。このような状況から、科学的根拠に基づいた運動法や身体活動に関する情報、スポーツ競技力の向上を目指したトレーニング法などの研究推進は、現代社会の大きなニーズとなっています。博士課程前期課程は、「身体運動科学領域」と「スポーツ人文社会科学領域」の2つの領域に分かれ、スポーツと健康を科学的視点で捉えた、総合的・学際的な教育・研究を行います。スポーツ健康科学分野の専門知識と共に、高度な実践力とリーダーシップを備え、社会の発展に寄与する高度専門職業人ならびに研究者を養成します。博士課程後期課程は、1専攻としており、各分野において世界に通じる研究成果をあげ、実践に応用できる研究者を養成します。

## 入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)

スポーツ健康科学の基礎的素養を備え、総合的・学際的な教育・研究を通じて、社会の発展に貢献することができるために、以下のような事について学術的な興味を持ち、得た知識を社会に広く還元したいという意欲を持つ人材を求めます。

### ■ 前期課程

【関心・意欲】

1. スポーツ健康科学の社会的な諸課題の解決について、強い関心を有する者。
2. 総合的・学際的なアプローチを用いて新たな研究分野を切り開こうとする者。
3. 理論と実践を通じた研究活動を展開し、社会に還元する意欲のある者。

【基礎的素養】

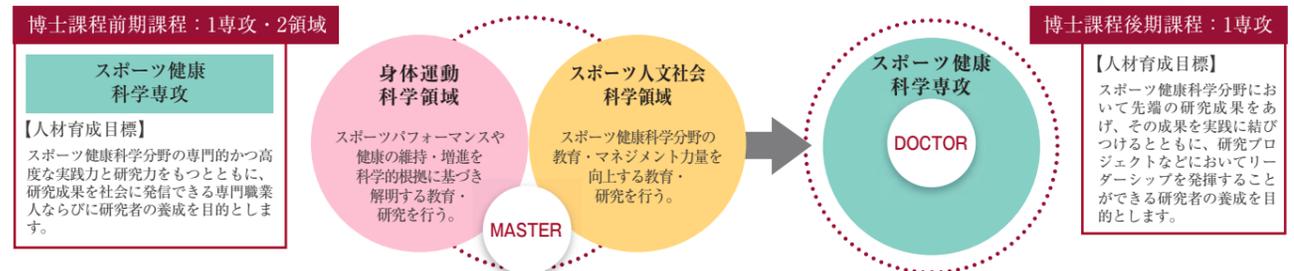
1. スポーツ健康科学を構成する学問の基礎知識を有し、論述、口述などにより、自らの考えを論理的かつ明快に表現できる。
2. スポーツ健康科学に関連した記事・論文等の英文読解力、ライティング力を備え、英語に関する基礎的な力を有する。
3. スポーツ健康科学に関連した現場での実践経験を有する、もしくは関心がある。

### ■ 後期課程

1. スポーツ健康科学に関わる確かな知識と基礎的な研究能力を有する者。
2. 新たな学術領域や複合領域を開拓するとともに、研究成果を実践に応用する意欲や独創性ある研究を進める意欲を持った者。



## 「ヒト・ひと・人を科学する」ための学び



## 文理融合を奏でるカリキュラム

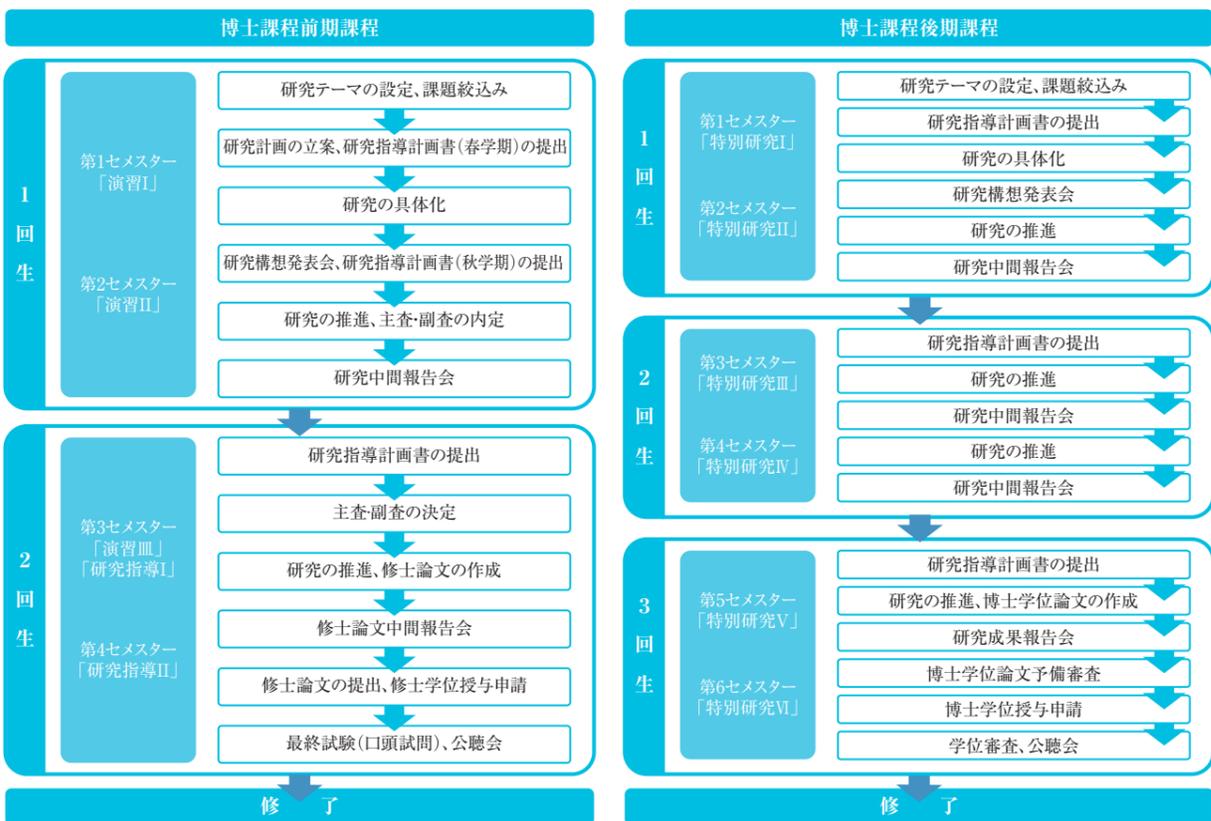
前期課程	基礎科目	共通基礎科目	科学研究特論 専門英語	研究調査特論	リーダーシップ特論
	展開科目	専門基礎科目	身体運動科学特論	身体運動科学特論	スポーツ人文社会科学特論
身体運動科学領域		スポーツトレーニング特論 バイオメカニクス特論	スポーツトレーニング特論 バイオメカニクス特論	運動生理・生化学特論 スポーツ工学特論	健康増進科学特論 運動処方特論
スポーツ人文社会科学領域		スポーツ教育学特論 スポーツマーケティング特論	スポーツ教育学特論 スポーツマーケティング特論	スポーツ栄養教育学特論 スポーツマネジメント特論	コーチング行動学特論 スポーツビジネス特論
特殊講義		スポーツ健康科学特論	スポーツ健康科学特論		
演習科目	キャリア形成科目	スポーツ健康科学キャリアプロジェクト	スポーツ健康科学キャリアプロジェクト	インターンシップ	外国留学科目
	演習	身体運動科学演習I～III	身体運動科学演習I～III	スポーツ人文社会科学演習I～III	
	研究指導	研究指導I	研究指導I	研究指導II	
後期課程	自由科目	単位互換履修科目	単位互換履修科目	大学院コア演習	
	講義科目	先端スポーツ健康科学特論I-II	先端スポーツ健康科学特論I-II		
	実習科目	学外実習1・2	学外実習1・2		
	演習科目	先端スポーツ健康科学特別研究I-VI	先端スポーツ健康科学特別研究I-VI		

● : 必修    ● : 身体運動科学領域は必修  
● : スポーツ人文社会科学領域は必修

スポーツ健康科学研究科についての詳細はホームページにて案内。

[http://www.ritsumei.ac.jp/gs\\_shs/](http://www.ritsumei.ac.jp/gs_shs/)

## 研究プロセス



## ■ 本研究科修了生 修士論文・博士論文テーマ(一部) ●:修士論文 ■:博士論文

- 疲労困憊に至らない高強度・短時間・間欠のクロストレーニングが最大酸素摂取量に及ぼす影響
- 高校生女子陸上競技選手への栄養支援による疲労骨折のリスク低下および予防に関する検討
- 心電図計測可能なスマートウェアの開発
- 12ヶ月間の歩行運動介入が高齢者の睡眠およびメンタルヘルスに与える影響
- リーダーメンバーの関係性とチーム内における分化がアウトカムに及ぼす影響-評価システムの運用による調整効果-
- ランニングクラブの価値共創における顧客のオペラント資源の適用がベネフィットの享受に与える影響
- メンタルトレーニングに関する実証的研究-エリートアスリートの事例をもとに-
- 体育における社会的スキルの指導モデルに関する研究転移に着目して
- 腸腰筋を含めた股関節屈曲筋群の機能的役割の再考-歩行速度、ステップ長を変化させた歩行中の腸腰筋を含めた股関節屈曲筋群の活動-
- 運動・栄養処方による認知機能への効用とその作用機序解明に向けたアプローチ

## ■ 本研究科修了生 就職先一覧(一部)

- トップアスリートを支える  
国立スポーツ科学センター(JISS)
- 医薬品で人々の健康を守る  
大塚製薬(株) クラシエ製薬(株) ミナト医科学(株)
- 健康的なライフスタイルをプロデュースする  
(株)東急スポーツオアシス (株)ルネサンス
- 人々の暮らしに役立つ製品を生み出す  
オムロンオートモーティブエレクトロニクス(株)  
(株)バンダイ 山本光学(株)
- 人々の質の高い生活をサポートする  
アサヒビール(株) キューピー(株) (株)KDDI  
ジョンソン・エンド・ジョンソン(株) (株)ソフトウェア・サービス
- ビジネスパフォーマンスの向上を提案する  
アクセンチュア
- 企業と人とを結びつける  
リクルートホールディングス  
(株)インテリジェンス (株)ウィルグループ
- 地元経済の発展に寄与する  
(株)西日本シティ銀行
- 人々の暮らしの仕組みと豊かなまちを創る  
地方公務員(上級職)
- 未来を生み出す人を育てる  
教員(学)立命館
- 世の中起こる様々な事象を伝える  
関西テレビ放送(株)

## ■ 日本学術振興会特別研究員採用率

「日本学術振興会特別研究員」とは、国の優れた若手研究者に対して、自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら研究に専念する機会を与え、研究者の養成・確保を図る制度。本研究科院生は【2017年度55.5%】、【2016年度40.0%】と、他大学大学院同分野と比較しても極めて高い採用率を堅持しています!

# 理工学研究科

Graduate School of Science and Engineering



## 創造的でグローバルな理工系研究者・高度専門技術者の育成を目指す

Innovation in science and engineering

今、めまぐるしいスピードで科学技術が変化・進展し、社会や産業も変わり続けています。理工学研究科は、理学と工学の伝統的な高度な理論・技術だけでなく、IoTやAIまで、あるいはハードウェアからソフトウェア、高齢化社会対応問題、地球規模の環境問題などまで、幅広く取り組みます。そして、新しい価値を創造できる研究者や高度専門技術者の育成を目指します。海外科学技術実習を支援するプログラムによってグローバルに活躍できる研究者や高度専門技術者の育成も目指しています。



### 入学者受け入れ方針〈アドミッション・ポリシー〉

#### ■ 博士課程前期課程

博士課程前期課程は、教育目標を踏まえ、次のような者の受入を行います。

- 自然科学および専門領域における基礎的な学力を有する者。
- 国内外における科学・技術を理解するための語学力を有する者。
- 研究者・技術者としての責任を理解した上で、専門領域における問題設定・解決能力を修得することに強い意欲を有する者。

#### ■ 博士課程後期課程

博士課程後期課程は、教育目標を踏まえ、次のような者の受入を行います。

- 自然科学および専門領域における確かな知識と研究能力を有する者。
- 論理的な文章力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力および外国語によるコミュニケーション能力を有する者。
- 研究者・技術者としての責任を自覚した上で、社会における問題設定・解決能力および問題解決へ向けてのリーダーシップを備えることに強い意欲を有する者。

理工学研究科についての詳細は [立命館 院 理工](#) [検索](#)

### 4つの専攻

博士課程後期課程

**基礎理工学専攻** [数理科学コース](#) [物理科学コース](#)  
数理科学コースでは数理科学分野における高度な学際的教育研究を行い、物理科学コースでは物理科学の融合領域を体系的に、かつ十分な深さで学びます。

**機械システム専攻**  
新たな分野を含め、機械工学・ロボティクス・マイクロ機械システムに関連した非常に高度な領域を系統的に学びます。

博士  
Doctor

**電子システム専攻**  
システム応用分野、デバイス材料分野、情報通信分野から情報工学などにわたる広い分野を体系的かつ深く学びます。

**環境都市専攻**  
環境政策をはじめとする社会科学、建築デザイン領域と都市デザイン領域の融合分野などを深いレベルで系統的に学びます。

博士課程前期課程

**基礎理工学専攻** [数理科学コース](#) [物理科学コース](#)  
ファイナンスや情報セキュリティ分野における数理科学、エネルギー問題やナノテクノロジーにおける物理科学と工学の融合など、多分野とも関連を持って発展する学問分野を研究します。

**機械システム専攻** [機械工学コース](#) [ロボティクスコース](#) [マイクロ機械コース](#)  
機械工学・ロボティクス・マイクロ機械工学に基礎を置き、これらの融合分野をも包括した教育・研究を行います。

修士  
Master

**電子システム専攻** [電子システムコース](#)  
毎日の生活を支えるエレクトロニクスや光学工学、高性能かつ大規模な電子・情報システムなど、多岐に渡る電気電子工学領域を研究します。

**環境都市専攻** [歴史都市防災コース](#) [環境社会工学コース](#) [建築都市デザインコース](#)  
都市の社会基盤の整備、地球環境問題やバリアフリーへの配慮など、安全な社会生活を送るために解決すべき課題について教育・研究を行います。

### 教育・研究の世界展開

**実践的英語力を身につけ、海外での武者修行に挑む**  
理工学研究科では、世界各国から留学生を受入れるとともに、多くの日本人学生を海外に派遣しています。「国際的なフィールドで活躍するための意欲や素養・経験を身につけたリーダーとなり得る理工系技術者・研究者の養成」を目標に、Global-ready Graduate Program (GRGP)はその前身となるプログラムを2007年度にスタートさせました。正課で理工系学生の研究推進に必要な実践的英語コミュニケーション能力を集中的に身につけさせるとともに、学生を世界各国の大学・研究機関・企業での留学に送り出しています。



#### インドのトップクラス理工系大学との研究交流

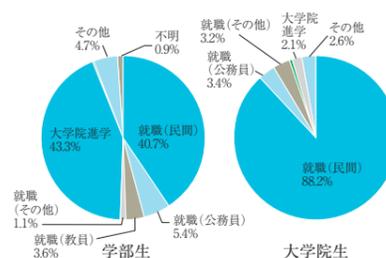
立命館大学理工系3学部・研究科は、文部科学省「平成26年度大学の世界展開力強化事業」において「産学国際協働PBLによる南アジアの異文化・多様性社会の中で活躍できる高度理工系人材の育成」構想を提案し、採択されました。本構想は、本学とインドの理工系トップクラス2大学(インド工科大学ハイデラバード校、ニッテ大学)と様々な国際的連携で知られるシンピオシス国際大学の学生が交流し、ともに国際的視野を持った高度理工系人材として、世界で活躍することを目指したものです。大学院生もこれらの大学で研究交流を行っています。



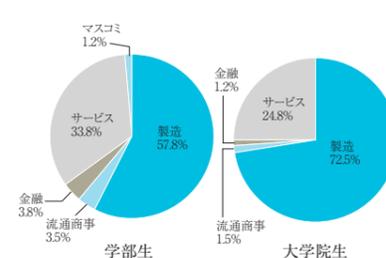
### 大学院修了者の就職実績 (2017年3月卒)

理工学の専門性を活かすためには、大学院修了が大変優位です。特に製造業ではその差は顕著です。また、「研究・設計・開発職」へ従事する割合についても、学部卒を大きく上回っています。

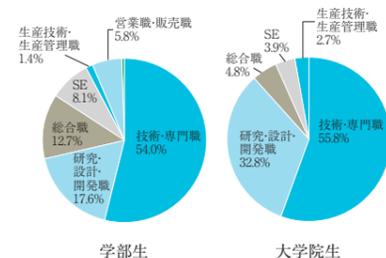
#### ■ 進路決定状況



#### ■ 業界別就職状況



#### ■ 職種別就職状況



# 情報理工学研究科

Graduate School of Information Science and Engineering



## ITの最先端領域における 教育と研究を展開。

産業界におけるIT人材需要はますます高まり、教育機関への期待は大きくなるばかりです。こうした社会の要請に応えるため、2012年4月、理工学研究科から独立した新しい研究科として誕生しました。情報理工学の幅広い専門領域に関する高度な理論と技術に加え、創造的発見能力を兼ね備えた研究者や高度専門職業人の育成を目的としています。各コースにこれまでの取り組みを活かした国際プログラムを設置。積極的に留学生を受け入れることで、日本人学生と外国人留学生が共に研究を進め、国際社会で活躍できるグローバルな力を培います。

## 入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)

### ■ 博士課程前期課程

博士課程前期課程では、人材育成目的を踏まえ、以下のような能力や意欲を持つ者の入学を期待する。

1. 博士課程前期課程において研究を進める上で必要となる基礎的学力を身につけている者
2. 計画に基づいて、研究活動を進めることができる者
3. 正しい倫理観、創造的問題発見能力、問題分析能力、問題解決能力を高めることに強い意欲を持つ者
4. 自己の考えや研究成果を国内外で発表することに強い意欲を持つ者

### ■ 博士課程後期課程

博士課程後期課程では、人材育成目的を踏まえ、以下のような能力や意欲を持つ者の入学を期待する。

1. 博士課程後期課程入学前の基礎的研究を踏まえ、自立した研究遂行能力を身につけている者
2. 自らが中心となって研究プロジェクトを組織し、円滑に遂行できる者
3. 創造的問題発見能力、総合的、専門的な問題分析・問題解決能力、研究マネジメント能力、研究倫理観を高めることに強い意欲を持つ者
4. 研究成果の国内外での発表や、外国の研究者・技術者との交流に強い意欲を持つ者

情報理工学研究科についての詳細は [立命館 院 情報理工](#) [検索](#)

## ■ 課程とコース

### MASTER 博士課程前期課程 情報理工学専攻

**計算機科学コース**  
計算機科学コースでは、計算機アーキテクチャやソフトウェア技術、情報ネットワーク技術を中心にヒューマンインタフェースや認知工学といった分野の教育研究を行います。

### 人間情報科学コース

人間情報科学コースでは、言語・音声・画像などのメディア処理技術やバーチャルリアリティ、知能システムや人間工学、知能ロボティクスといった分野の教育研究を行います。

博士課程前期課程  
情報理工学専攻  
計算機科学コース  
人間情報科学コース

博士課程後期課程  
情報理工学専攻

### DOCTOR 博士課程後期課程 情報理工学専攻

情報理工学専攻では、研究科に相応しい高度な専門の実験・実習設備・機器環境を活用した教育・研究を展開します。また、国際連携、地域連携や国内外の産業界、学内関連研究科との連携等、様々な連携型研究を行います。



## ■ 修了要件とカリキュラム

### 前期課程

科目分野	必要単位数	履修方法
共通科目	4単位以上	選択
固有専門科目	10単位以上	選択
特殊研究科目	16単位	必修
自由科目	—	選択
合計	30単位以上	

「グローバル科目」を2単位以上修得すること

### 後期課程

科目分野	必要単位数	履修方法
特別研究科目	8単位以上	選択
実習・演習科目	—	選択
自由科目	—	選択
合計	8単位以上	

### 固有専門科目・特殊研究科目(前期課程)

#### [計算機科学コース]

Webインテリジェンス特論  
グローバルソフトウェア工学特論★  
計算機科学特論★  
言語メディア特論  
コンピュータビジョン特論  
システムプログラム特論  
情報セキュリティ特論  
情報通信科学特論★  
ソフトウェア工学特論  
知能機械特論  
ヒューマン・ファクターズ特論★  
分散システム特論  
マルチエージェントシステム特論  
ワイヤレスネットワーク特論  
モバイルシステム特論  
システムLSI応用特論1~3  
システムLSI設計特論1~2  
情報理工学特殊研究1~4

#### [人間情報科学コース]

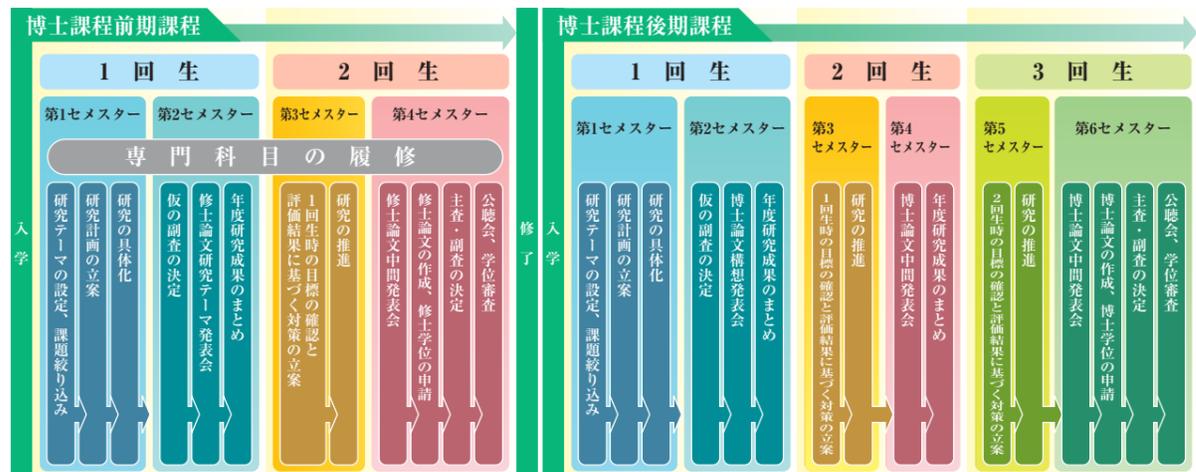
Webインテリジェンス特論  
エンタテインメントコンピューティング特論★  
音声音響メディア特論  
画像解析と機械学習特論★  
画像処理特論★  
言語メディア特論  
システム制御特論  
人工知能特論★  
生体情報処理特論  
知能機械特論  
知能システム特論  
脳機能情報処理特論  
バイオエンジニアリング特論  
ビジュアルコンピューティング特論  
ヒューマンインタフェース特論  
コンピュータビジョン特論  
情報理工学特殊研究1~4  
★グローバル科目(英語開講科目)

### 特別研究科目(後期課程)

情報理工学特別研究1~6



## ■ 研究指導フロー



## ■ グローバル人材の育成

### 情報理工学国際プログラム(外国人留学生用プログラム)

計算機科学コース・人間情報科学コースに、外国人留学生を日本語基準と英語基準で受け入れます。このプログラムには、英語で開講する科目や企業と連携したワークショップなどを配置しています。いずれの科目も日本人学生と留学生とが、共に学びながら、国際的に活躍する技術者を養成します。正規プログラムに加え、中国、インド、メキシコ等からの短期・長期プログラムの受け入れも行っており、年間を通して多数の留学生が在籍しています。

### 留学生の主な出身国(2012年度~)

アメリカ合衆国、インドネシア共和国、ウズベキスタン共和国、コートジボワール共和国、サウジアラビア王国、タイ王国、大韓民国、中華人民共和国、ハンガリー、パキスタン・イスラム共和国、バングラデシュ人民共和国、フィリピン共和国、ベトナム社会主義共和国、マレーシア、南アフリカ共和国、ミャンマー連邦共和国、メキシコ合衆国、ルワンダ共和国、ロシア連邦

### 海外IT研修プログラム

高い英語運用能力をもつだけでなく、グローバルな視点から多面的に物事をとらえる能力は、国際的に活躍する技術者・研究者にとって必要不可欠です。国際社会を舞台に活躍できる人材育成を目標に掲げている当研究科では、一定の英語運用能力を有する学生を対象に、長期休暇期間を利用した海外IT研修プログラム(インド)を展開。日常生活から学びに至るまですべてを英語で行う「トータル・イマージョン・スタイル」を採用し、より高いレベルの英語運用能力・異文化適応能力を養います。

### 海外インターンシップ・プログラム

インターンシップを通じて自らの専門分野を深く、実践的な能力を修得するとともに、自己理解を深め、職業の実像をつかみながら、将来の進路選択として確かな職業観を身につけることを目的としています。日系IT企業や現地IT企業でIT知識を活用することによって専門性を深めることができます。

# 生命科学研究所

Graduate School of Life Sciences



## 21世紀における全人類的課題の解決に貢献できる人材を育成。

ライフサイエンスは、複雑で多様な生命の成り立ちと生命現象を解明するとともに、その成果を活かし、人類の病の克服、健康で豊かな生活の実現、さらには食料・資源・環境・エネルギー問題などの解決に貢献することが期待されている学問です。この学問分野は、人類が「よりよく生きる」「よりよく食べる」「よりよく暮らす」ために21世紀の鍵となる教育・研究分野である一方で、その歴史は浅く、今後の研究の深化・発展が大いに期待されています。

そうした中、近年は生命科学分野の高度な能力を備えた人材が求められ、大学院に大きな期待が寄せられています。立命館大学はこうした社会の要請に応えるべく「融合型ライフサイエンス教育・研究」を理念に、西日本最大の理工系研究拠点であるびわこ・くさつキャンパスに2012年4月、生命科学研究所を開設しました。

本研究科前期課程は応用化学、生物工学、生命情報学、生命医科学の4つのコースからなり、専門領域を学びながら、さらに境界・関連領域の知識も身につけることができます。近接する分野との融合にも積極的に取り組み、他の研究科、産業界とも連携。幅広い知識と高い専門性を修得することで、広い視野と深い教養に裏打ちされた豊かな人間性を育み、自主性・主体性を持った人材を育成することを目指して教育・研究を行っています。

## 入学者受け入れ方針〈アドミッション・ポリシー〉

### ■ 前期課程

博士課程前期課程は、人材育成目的を踏まえ、次のような者を募集します。

- ・自然科学および専門領域における基礎的な学力と知的な好奇心を有する者。
- ・情報収集・発信のための日本語または英語によるコミュニケーション能力を有する者。
- ・研究者・技術者としての責任と倫理、および専門領域における問題設定・解決能力の修得に強い意欲を有する者。

### ■ 後期課程

博士課程後期課程は、人材育成目的を踏まえ、次のような者を募集します。

- ・自然科学および専門領域における確かな知識と研究能力を有する者。
- ・日本語または英語による論理的な文章力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を有する者。
- ・研究者・技術者としての責任と倫理の重要性を認識し、専門領域における問題設定・解決能力および問題解決への向けてのリーダーシップの修得に強い意欲を有する者。

生命科学研究所の詳細は [立命館 院 生命科学](#) [検索](#)



## ■ 課程とコース

MASTER 博士課程前期課程

### 生命科学専攻

#### 応用化学コース

応用化学コースでは、物理化学・無機化学・分析化学・有機化学・生化学などを基盤として、物質の機能を解明するための、また、新物質の創製を実践するための化学的理論と技術を幅広く学びます。材料化学からエネルギー、生体関連物質まで、幅広い分野で研究を展開します。

【キーワード】

- 新物質 ● ナノテクノロジー ● 環境分析 ● エネルギー変換 ● 機能材料

#### 生物工学コース

生物工学コースでは、生化学、分子生物学、微生物学などを基盤とし、環境、食料、資源、エネルギーに関連する生物工学理論や技術を幅広く学びます。また、生物機能、生態系の構造・機能の解析や生物由来生理活性物質の解明等の基礎研究や、これらを基盤とした環境、食料、資源、エネルギーに関する応用研究を展開します。

【キーワード】

- 微生物 ● バイオエネルギー ● 分子生物学 ● 環境浄化 ● 生物資源 ● 植物

#### 生命情報学コース

生命情報学コースでは、コンピューター(情報科学)を利用して、生命活動の仕組みを解明するため、その基礎となる生命科学、情報科学、生物機能の解析技術に関する専門知識を幅広く学びます。その上で、遺伝情報、タンパク分子構造—機能相関、生体機能などの数理解析に関する研究を行い、生命科学、医学薬学、食品、情報技術に関連した研究を展開します。

【キーワード】

- システムバイオロジー ● ゲノム解析 ● 情報科学 ● バイオインフォマティクス

#### 生命医科学コース

生命医科学コースでは、多岐に渡る基礎医学の先端領域とその融合領域を学び、未知の生命現象や様々な疾患の発症機構を解明します。更に、先端技術で開発された医薬品などの新規医療技術の適切な評価と社会への応用方法も学び、広く生命医科学研究を展開します。

【キーワード】

- 再生医学 ● 癌 ● 脳科学 ● 生活習慣病 ● 生薬 ● 稀少疾患 ● 医用材料 ● 医療政策

D

**DOCTOR 博士課程後期課程**

### 生命科学専攻

生命科学専攻では、博士課程後期課程に相応しい高度な専門的実験・実習設備・機器環境を活用した教育・研究を展開します。また、国際連携、地域連携、国内外の産業界、学内関連研究科との連携等、様々な連携型研究を行います。

教員の研究内容については、生命科学研究所HPでご確認ください。

## ■ 修了要件とカリキュラム

### 前期課程

科目区分	必要単位数	合計
共通科目	4単位以上	30単位以上
コア科目	10単位以上*	
選択科目		
研究科目	16単位	

\*コア科目は3科目6単位以上修得する必要があります。

### 後期課程

科目区分	必要単位数	合計
研究科目	8単位以上	8単位以上
専門科目	—	

### 専門科目(コア科目)(前期課程)

#### [応用化学コース]

構造物理化学特論  
反応物理化学特論  
物性・反応化学特論  
無機構造物性化学特論  
無機機能材料化学特論  
X線分析化学特論  
有機分子化学特論  
有機機能材料化学特論  
有機反応・構造化学特論  
応用生物化学特論

#### [生物工学コース]

環境バイオテクノロジー特論  
エネルギー・資源バイオテクノロジー特論  
食料バイオテクノロジー特論  
生物工学研究特論

#### [生命情報学コース]

ゲノム情報学特論  
分子構造・機能学特論  
数理生体機能学特論  
分子設計学特論  
生体分子ネットワーク特論  
植物生理学特論

#### [生命医科学コース]

基礎生命医科学特論  
応用生命医科学特論  
先端生命医科学特論  
生命医科学研究法概論

### 研究科目(前期課程)

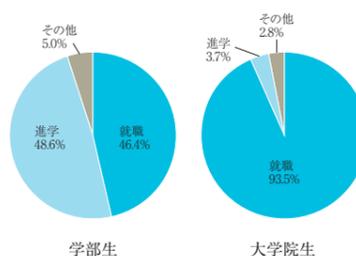
生命科学特殊研究1~4

### 研究科目(後期課程)

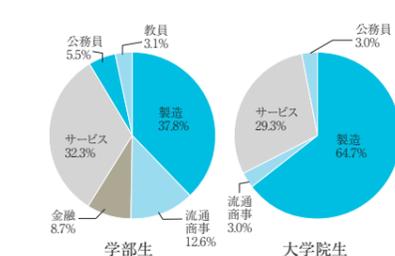
生命科学特別研究1~6

## ■ 就職実績 (2017年3月卒)

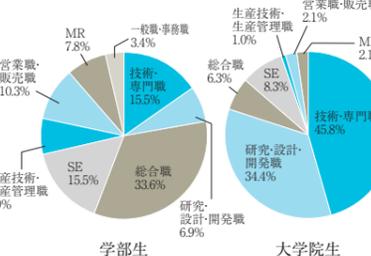
### ■ 進路決定状況



### ■ 業種別就職状況

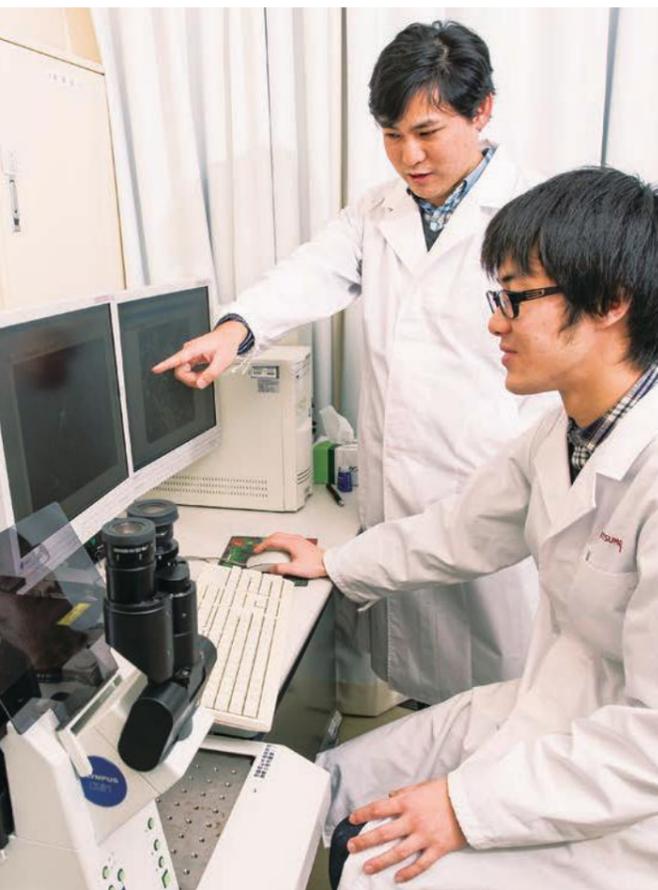


### ■ 職種別就職状況



# 薬学 研究科 [4年制博士課程]

Graduate School of Pharmacy



## 命に関わる薬のプロとして、 高度な臨床能力や研究能力を備え、 先導的役割を果たせる人材を育成します。

21世紀を迎え、ライフサイエンス分野や工学分野の研究の進歩と技術革新に伴い、医療分野における診断技術や治療・予防法が日々高度化しています。また一方で、我が国は超高齢社会となり、病院診療から在宅診療の流れが進むなど、医療をめぐる環境も大きく変化しつつあります。

薬学は主として薬という面から医療に貢献する学問分野ですが、こういった医療の高度化と社会の変化に伴い、薬学分野においても高度な人材の必要性が高まっています。例えば、チーム医療の現場で医師に処方提案ができる薬剤師、在宅医療に参加し地域住民の健康を守る薬剤師、医療行政や製薬企業の開発部門でpharmacist-scientist(科学者としての素養を備えた薬剤師)や研究者として活躍できる人材、これからの薬学教育・研究を担う人材などが求められているのです。このような社会の要請に応え、薬学研究科は、薬学の高度な専門知識および研究力を持つ人材を育成します。

### ■ 人材育成像

- チーム医療の中で医師に処方提案を行うなど、医療分野における高度な職能を有する薬剤師(医療薬学分野)
- 超高齢社会を迎える我が国の地域医療やセルフメディケーションに貢献できる薬剤師(医療薬学分野)
- 医療行政や製薬会社の開発部門などにおいて、pharmacist-scientist(科学者としての素養を備えた薬剤師)として活躍できる人材(医療薬学分野・病態生理解析分野)
- 薬学部をはじめとする医薬系の教育研究機関において、将来の教育・研究を担う高い教育力と研究能力を有した人材(医療薬学分野・病態生理解析分野)

### 入学者受け入れ方針〈アドミッション・ポリシー〉

薬学研究科では、医療人としての高い倫理観と問題解決に対する意欲を持ち、高度な専門知識、先端的な研究を通して高度医療や医薬品開発の場での貢献、活躍を目指す意欲ある者を求めます。

薬学研究科についての詳細は

### ■ 2つの分野

次の2つの分野を設けて教育・研究を進めます(研究内容や修了後のキャリアに応じていずれかの分野を選びます)。

**医療薬学分野**  
医療薬学分野では、主に医薬品の適正使用を学ぶ臨床薬理学や医薬品情報学、臨床試験(治験)について学ぶ臨床試験学、病院感染などの予防や抗微生物薬の適正使用と管理を学ぶ病原微生物学・感染症学、医薬品の吸収・分布・代謝・排泄からなる一連の動態を体系的に学ぶ薬物動態学などが学問領域となります。

**病態生理解析分野**  
病態生理解析分野では、疾病の成因とそれに対する薬物作用を研究し、創薬基盤の理解に繋げる学問分野、すなわち生化学、生理学、ゲノム科学や、医薬品や環境中の化学物質の生体への影響評価を学ぶ衛生化学、毒性学、生体分析学などが学問領域となります。



### ■ 特徴

- 1.医療薬学分野および病態生理解析分野の科目を配置し、専門領域に留まらず、基礎薬学から臨床薬学に至る幅広い領域の知識取得が可能。
- 2.4年間の特別研究において、主指導教員と副指導教員による指導体制をとり、領域を超えた視点から多角的な研究推進をサポート。
- 3.高度薬剤師養成に向けて、滋賀医科大学・関西医科大学と連携して、現地の医師、薬剤師の指導のもとに、がん化学療法、感染症治療、病院感染対策、妊婦・授乳婦に対する薬物療法の領域を中心に学べる高度薬剤師養成演習を設置(別途実習費用が必要です)。
- 4.事前に勤務の状況についてヒアリングを行い、社会人学生の状況を十分に把握した上で、平日の18時以降および土曜日も使って授業および研究指導を行うなど履修計画についての配慮を行います。



※本課程を修了しただけでは、各認定薬剤師や専門薬剤師になる為の認定資格をとることはできません。

### ■ 薬学研究科博士課程の修了要件およびカリキュラム

#### 〈専門科目〉14単位以上を修得

選択した分野科目から10単位以上、選択しなかった分野科目から4単位以上を修得

#### 医療薬学分野科目

科目名	単位
医療情報分析学特論	2
医薬品安全評価学特論	2
創剤学特論	2
病原微生物学・感染症学特論	2
分子生物薬剤学特論	2
臨床治療学特論	2
高度薬剤師養成演習1	3
高度薬剤師養成演習2	3
高度薬剤師養成演習3	3

#### 病態生理解析分野科目

科目名	単位
細胞工学特論	2
上皮バリアと輸送特論	2
生活習慣病特論	2
天然薬物学特論	2
副作用学特論	2
分子病態学特論	2

#### 〈特別研究科目〉16単位を修得

科目名	単位
薬学特別研究1	4
薬学特別研究2	4
薬学特別研究3	4
薬学特別研究4	4



論文審査・最終試験

博士学位授与



# 経営学研究科

Graduate School of Business Administration



## 実践的な企業経営教育で、 新時代のビジネスリーダーを養成。

立命館大学大学院経営学研究科では、学部教育とも連動しつつ「経営学の高度な専門力量を持ったビジネスパーソンおよび研究者を養成する」という教育目標を掲げて企業経営の教育研究を進めてきました。1966年の研究科創設以来、大学教員・シンクタンク研究員などの研究者や、公認会計士などを多数輩出し、高い評価を得ています。



## 入学者受け入れ方針〈アドミッション・ポリシー〉

経営学研究科は、人材育成目的を実現するために、前期課程および後期課程それぞれの入学時点において下記の能力を有する学生を求めます。

### ■ 前期課程

- 経営学の知識を基礎に、専門分野を入学後早い段階から決定し、専門的で高度な学術レベルの研究を進めていくことが可能な基礎的能力を有していること。また研究を進める上で必要な会計・統計的処理・語学を学習していくことのできる基礎的能力を有していること。
- 国際的な視野で経営学を研究しうる能力を有していること。

### ■ 後期課程

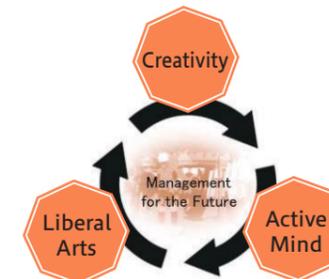
後期課程は、指導教員による研究指導と研究交流を通じて、自立した研究者として研究活動を行うに必要な高度な研究能力を身につけ、将来にわたって研究活動を継続していく可能性を有していること。

経営学研究科についての詳細は [立命館 院 経営学](#) [検索](#)

## ■ 博士課程前期課程

前期課程では、「技術経営・戦略」「組織・人事」「マーケティング」「国際ビジネス」「会計学」「ファイナンス」「デザイン・マネジメント」などの分野で、これからの企業経営の展開を視野に先進的で多面的な教育を行っています。経営学に関する高度な専門知識および、会計や統計的処理、語学などに関する高度な技能をもち、組織の中で適切に知識と技能を活用できる人材を育成します。併せて、社会の要請に応え、正義と倫理をもち、グローバル化する社会の中で組織のリーダーシップを発揮しうる人間を育成します。

時代は未来の「あるべき社会」を創造し、それらを実現する力を持ったマネジメント人材を求めています。経営学研究科は、経営学の専門知識修得を中心としつつ、幅広い学際的素養を身につける多様な学びと能動的な研究姿勢を支援する大学院教学を展開しています。



## ■ 前期課程での学修の進め方

前期課程での学修は修士論文の作成が集大成となりますが、経営学研究科では2回生から修士論文指導が始まるカリキュラムとなっています。1回生時は「基幹科目」「展開科目」の履修により経営学に関する理論の修得や、「研究方法科目」の履修による情報収集・分析手法の獲得など総合的な学力を身につけることが重要です。併せて、外国文献研究または英語開講科目を受講することにより、英語文献レビューと英語での学修を進めます。研究指導教員は各自の研究テーマにもとづく調整によって、1回生春学期中に決定します。「研究展開科目」を研究指導教員の指導のもと各自の研究テーマに沿って、1回生秋学期に履修します。2回生では、1回生時に修得した専門知識をもとに、修士論文の執筆が本格化します。春学期には中間報告会にて研究経過を報告し、2回生秋学期に研究成果を修士論文として仕上げます。

## ■ 2018年度新規開設授業の紹介

「特殊講義I(中小企業経営実践講座)」  
大阪府の経済を支える中小企業。2015年度に大阪いばらきキャンパスに拠点を移した経営学研究科ならではの取り組みとして、本講義では大阪府中小企業家同友会の全面的な協力を得て、大阪府に本社を持つ様々な中小企業の経営者をゲストスピーカーとして招聘し、「中小企業の実践的諸課題」についてお話しいただきます。加えて、担当教員による学術的解説や講演内容に関連したテーマのディスカッションを経営者も交えておこない、実際の企業でおこっている課題に対する理解を深めます。講演テーマとしては、経営者と社員の雇用関係や海外展開への取り組み、企業のブランド化、地域活性化などが予定されています。

※その他2018年度新規開設授業:「Special Lecture (Introduction to International Management)」、「Special Lecture (Comparative Research on Japanese and European Management - Towards synergy in intercultural workplaces)」  
※特殊講義およびSpecial Lectureは年度によりテーマが異なる場合があります。

## ■ 博士課程後期課程

後期課程では、指導教員のもと、前期課程における研究を継続して研究論文を執筆し、学会誌への掲載や、学会での報告などによって深化させ、高度な研究能力を身につけ、将来にわたって研究活動を継続できる自立した研究者を育成します。

## ■ 主な開講科目一覧 [2018年度] 前期課程

科目群	科目名	単位数	科目群	科目名	単位数	科目群	科目名	単位数
基幹科目	経営史I(アジア・日本)	2	研究方法科目	統計学1	2	特殊講義	特殊講義I~X	各2
	競争戦略	2		統計学2	2		※「計量経済学入門」「情報技術戦略」	
	マーケティング	2		研究方法論	2	※「中小企業経営実践講座」など様々な内容で開講		
	生産マネジメント	2		外国文献研究I~IV	各1	研究指導科目	特別演習1	2
	組織科学	2		アカデミックライティング	2		特別演習2	2
	経営財務	2		英語開講科目	International Business I		2	Special Seminar 1
	会計学	2	International Business II		2		※英語基準留学生用	
	ビジネス・エコノミクス	2	Finance	2	Special Seminar 2	2		
展開科目	アントレプレナーシップ	2	Marketing	2	※英語基準留学生用			
	金融・証券	2	International HRM	2				
	経営史II(欧米)	2	Environmental Management	2				
	ビジネス倫理	2	Business Economics	2				
	人的資源管理	2	Special Lecture	2				
研究展開科目	技術経営・戦略研究	2	※「Introduction to International Management」、					
	マーケティング研究	2	「Merger and Acquisitions in the frame of International Business」など様々な内容で開講					
	組織・人事研究	2	キャリア開発科目	大学院コーポ演習	2			
	国際ビジネス研究	2		インターンシップ演習	2			
	会計学研究	2	海外インターンシップ	2				
	ファイナンス研究	2						
デザイン・マネジメント研究	2							

## ■ 過去の論文タイトル一例

- 博士課程前期課程 「中国の介護経営に関する研究—杭州市における介護施設および養老扶養意識調査から—」  
「ダイナミック・ケイパビリティからみる中小企業の経営者のデザインマネジメント能力」  
「マーケティングコミュニケーションにおけるSNSの活用—価値共創とファンベースビジネスを中心に—」
- 博士課程後期課程 「デスティネーション・マネジメントの理論的再検討—地域再生の核となるツーリズムの展開を巡って—」  
「現代韓国の製靴産業—釜山地域を中心に産業集積の視点から—」

# 政策科学研究科

Graduate School of Policy Science



## 人類の幸福に貢献する新しい社会科学のデザインをめざして。

実社会にダイレクトに関わり、政策の実践力を鍛え上げる。政策科学は、新しい学問分野であり、学際的で実践的な研究領域です。政策科学研究科のカリキュラムの特徴である「リサーチ・プロジェクト」は専門の異なる複数の教員と研究動機やテーマの異なる多様な院生が協働して、実社会に起こる政策問題を、現場への応用と基礎理論の間を絶えず往復しつつ、解決へと向けていく政策のデザインについての知的空間を形成しようとするものです。政策科学という魅力的な分野で研鑽を積み研究科の伝統を作り上げる事業に参加されることを期待しています。

### ■ 入学者受け入れ方針〈アドミッション・ポリシー〉

#### ■ 前期課程

政策科学研究科博士課程前期課程では、現代社会が直面する政策課題を正確に理解し、適切な解決策を創造するために不可欠な研究能力の育成と実務能力をステップアップさせるという教育目標・人材育成目標を掲げていることから、次のような学生の入学を望んでいます。

1. 社会の問題について、広く興味を有し、
2. それらの諸問題の解決策を追究することを欲し、
3. 多角的なアプローチにより、既存のディスイプリンを刷新しうる柔軟な思考力と幅広い視野を持ち、
4. 論理的思考力に優れた諸君

#### ■ 後期課程

政策科学研究科博士課程後期課程では、現代社会が直面する政策課題とその適切な解決策の創造に関する研究能力を育成するという教育目標・人材育成目標を掲げていることから、次のような学生の入学を望んでいます。

1. 社会の問題について、広く興味を有し、
2. 多角的なアプローチにより、既存のディスイプリンを刷新しうる柔軟な思考力と幅広い視野を持ち、
3. それらの諸問題の解決策について深く研究する意思を有し、
4. 論理的思考力に優れた諸君

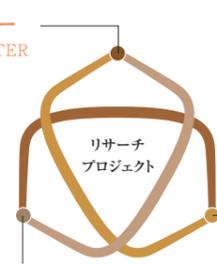
### ■ 政策科学の特徴である3つの「リサーチ・プロジェクト」

#### 公共政策クラスター PUBLIC POLICY CLUSTER

公共領域における政策の形成、決定、執行過程の記述・説明を行うとともに、その将来的な展開の可能性を視野に入れた研究を行います。

#### 社会マネジメントクラスター SOCIAL MANAGEMENT CLUSTER

福祉や地域経営などの政策設計を実行する装置である社会システムや社会的ネットワークの現状と課題、また、そのマネジメントプロセスについて多角的な視野から研究を行います。



#### 環境開発クラスター ENVIRONMENT AND DEVELOPMENT CLUSTER

「持続可能な社会の学理の追求とデザイン」を目指しています。政策科学・政策工学の体得、地域環境変動に伴う、人間・社会・経済同次元問題の解決、フィールドベースの技術体得を通じたシステム指向の3つのアプローチから教育研究を構築します。

政策科学研究科の詳細は [立命館 院 政策](#) [検索](#)

## 政策科学研究科目

### 公共政策関連科目

政策形成過程への視野を修得する科目が配置されています。政策過程は合意の形成過程であり、政策・施策の「社会的合理性」がこの科目群の主題となります。政治過程論、行政学、公共哲学、法政学を中心とする科目が配置されています。

### 環境開発関連科目

政策・施策の「科学的合理性」がとりわけ重要な意味をもつのは、環境・開発・都市の領域です。この科目群には、環境科学・都市工学・計画理論を中心とする科目が配置されています。

### 社会マネジメント関連科目

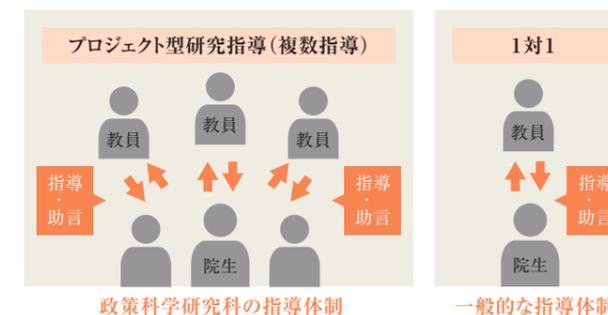
「市場的合理性」(効率性と組織マネジメント)は、営利企業はもちろんのこと、公共機関・非営利組織の課題を解決するための重要な視点です。この科目群には、経済学・経営学・社会学の知見を広く社会の諸部門の問題解決に連繋させるための科目が配置されています。

### 共通科目

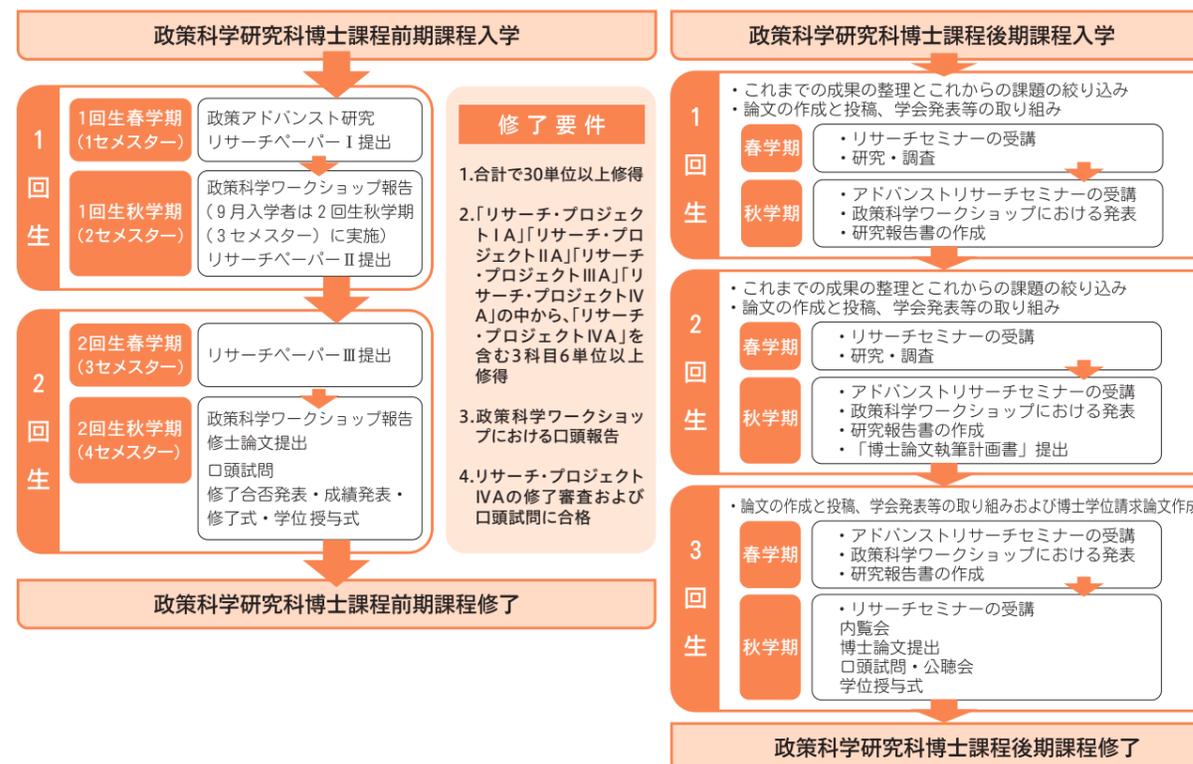
学知の総合としての政策科学の基礎を修得する科目、研究領域や研究課題を問わず必要とされるスキルを修得するための科目が配置されています。新しい学問分野である政策科学の基礎理論、基本的な分析手法を修得することができます。

### 政策課題に応じたプロジェクト型の研究指導体制

政策科学研究科は、領域横断的な教員の共同研究チームを組織し、それぞれのチームによる共同研究プロセスに院生が参加するプロジェクト型研究指導(PBL)の方法を採用しています。リサーチ・プロジェクトでは、一人の指導教員が一つの専門領域に特化した研究指導を行うのではなく、領域・テーマに共通の関心を持ちながらも、それぞれ異なる学問的背景を持つ複数の教員が院生の研究指導を行う集団的指導の方法を取り入れています。



### ■ 研究指導フローチャート



### ■ 過去の修士論文タイトル一例

- <博士前期課程>
- ◇中国の資本取引自由化に関する考察—性急な自由化と再規制の必要性— ◇星野リゾートのビジネスモデルに関する考察—経営ビジョンの共有の視点から— ◇中国の省別二酸化炭素排出状況に関する研究
- ◇Community-based Forest Management and Livelihood Changes of Rural Poor Case Study: Implementation of Hutan Desa Regulation in Tanjung, Kapuas Hulu Regency, West Kalimantan, Indonesia
- ◇A Prototype System on Impacts of Integrated Solid Waste Management Policy in Bantul Regency ◇Anxiety of Family Caregivers over Future Work and the Double-Care Period in China: A Case Study of Dalian
- <博士後期課程>
- ◇地方自治法改正史 ◇大震災を想定した集中型観光客への公助対応フレームワーク(PSDRフレームワーク)による避難帰宅政策に関する研究—世界遺産姫路城を事例として— ◇中国における消費者の食品安全信頼性向上に関する理論的・実証的研究
- ◇Balance of Power and Deterrence between Saudi Arabia and Iran in the Era of Post-Arab Uprisings
- ◇Application of Bio-Climatic Indicators for Tea Cultivation in Uji Area—Drawing from the Experience of Winegrape Terroirs—
- ◇A Study Toward Community Involvement in Local Flood Risk Reduction Activities: Case Study Flood Situation in 2011, Thailand

# テクノロジー・マネジメント研究科

Graduate School of Technology Management

## 技術とビジネスを結び、 イノベーションから価値を創出する。

経済のグローバル化が進行し、高度情報通信技術が世界的な規模で普及するなど社会環境が激変するなかで、我が国企業の国際競争力の低下や産業の空洞化、経済成長の鈍化などの課題が現出しています。これらの課題を克服し、経済の発展と持続的な成長を図るために、とりわけ技術を事業の中核とする企業においては、イノベーションの創造のみならずイノベーションからより一層の価値を創出することが求められています。技術経営(MOT:Management of Technology)とは、ごく典型的には技術を指向する企業や組織がイノベーションを創出して新事業を立ち上げ、新事業から収益を上げるとともに競争優位を獲得し、維持するためのマネジメントを指します。イノベーションや技術に関わる一連の実践的な活動を成功裏に遂行するには、文系と理系とを問わず、技術の価値を理解しビジネスに結びつける能力を持つ人材の育成が必要不可欠であり、ここに本研究科の存在意義があります。

### 入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)

#### ■ 博士課程前期課程

##### 【知識・理解】

A. 基礎科目で基礎専門的なMOT科目を学ぶことから、技術経営に関する理論、概念及び方法論を習得するために必要な学力を有する人材を受け入れる。

##### 【思考・判断】

B. 研究開発、事業活動、知的資産活用などに関する事例分析能力を身につけたいと考える人材を受け入れる。

C. 企業の現場の課題を解決する実習型の講義があることから、産業社会のニーズや、課題解決とイノベーション促進のために戦略、解決策等を考察するための基礎的な論理力、判断力を持つ人材を受け入れる。

##### 【関心・意欲・態度】

D. 授業ではディスカッションやワークショップ形式を利用した双方向性を重視していることから、他者と連携、協調して計画的に業務や研究等を実践したいという意欲を持つ人材を受け入れる。

##### 【技能・表現】

E. 質の高い課題研究論文や修士論文を完成させることから、技術や製品・サービスの事業化に必要な資料や情報を集め、科学的に探究し論理的に考察し、かつ表現するための基礎的な能力を持つ人材を受け入れる。

F. 他者とコミュニケーションして計画的に研究等を実践し、表現する能力を身につけようとする目的意識を持つ人材を受け入れる。

#### ■ 博士課程後期課程

##### 【知識・理解】

A. 新たな価値創造をリードするためのアカデミックな視点での研究を推進することから、技術経営に関する高度な理論、概念及び方法論を習得するために必要な学力を有する人材を受け入れる。

##### 【思考・判断】

B. 研究開発、事業活動、知的資産活用などにおける問題点や課題を見出し、かつ高度な問いを立て、新規性の高い発見をしたいと考える人材を受け入れる。

C. 中核人材として戦略的・理論的な思考に基づいて行動を実践する視点での研究を推進することから、産業社会における課題解決とイノベーション促進のために高度な戦略、解決策を立案し、提案をしたいと考える人材を受け入れる。

### ■ 研究指導および論文作成の指導(前期課程)

第1 Semester	第2 Semester
「技術経営演習Ⅰ」 (全員に強く履修を推奨) 主指導教員	「技術経営演習Ⅱ」 (全員に強く履修を推奨) 主指導教員
第3 Semester	第4 Semester
「技術経営研究Ⅰ」 (必修※合格が修了要件) 主指導教員	「技術経営研究Ⅱ」 (必修※合格が修了要件) 主指導教員および副指導教員

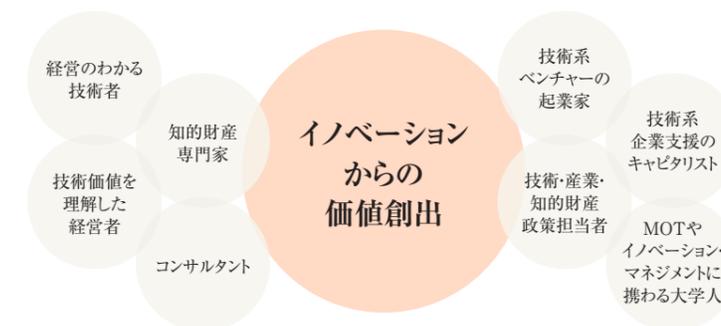
テクノロジー・マネジメント研究科についての詳細は

### ■ 技術経営(MOT:Management of Technology)について

技術経営(MOT:Management of Technology)とは技術を基盤とするとともにこれを活用する企業の経営のことです。したがって、技術経営学の対象は自動車産業やエレクトロニクス産業などの製造業はもとより、電気通信・電力・ガス・水道事業などに及んでいます。

#### MOTの実践事例

- 不確実性のマネジメント ● イノベーション・マネジメント
- 技術投資に関わる事業評価 ● 研究開発戦略の立案
- 技術を核とした新事業の創出 ● MOT人材開発
- 技術マーケティング
- 技術戦略、事業戦略および知財戦略の総合



### ■ テクノロジー・マネジメント研究科の特長

1. 専門職大学院ではなく研究型大学院である
2. 理論と実践を修得できる
3. 多彩なバックグラウンドを持つ学生

技術基盤企業の組織やマーケティング、戦略経営、知的財産などに加えて技術戦略、製品開発戦略など技術経営にかかわる主要な分野を網羅したカリキュラム。専門職大学院ではなく一般の大学院として、研究を重視しながらも高度の専門知識を持つ人材の輩出を目指しています。さらに、グローバルな活躍を目指す専門の研究者を育成するために博士課程後期課程を設置しています。

専任教員のほとんどが博士學位取得者かつ実務経験者なので、理論と実務の両方を高いレベルで修得できます。また、多くの企業と提携し、それぞれの企業が抱える課題を学生が解決する課題解決型長期企業実習「プラクティカム」や、企業からの受託研究・共同研究などを通して、現実のビジネス現場で発生している課題を検討し、実践的に解決できる人材の育成に努めています。

学部からの進学者、留学生、現役の社会人、企業等の出身者など、学生のバックグラウンドは多様。理学や工学系の学生は科学技術の知識をさらに生かすべく、文理の枠を超えて、イノベーションからの価値創出とあわせて、技術にかかわる事業経営についての理論や手法などを学ぶことができます。多彩なバックグラウンドを持つ学生同士の交流が多くの気づきをもたらします。

### ■ カリキュラム紹介 [2017年度※参考]

#### (博士課程前期課程)

基礎科目	技術経営論Ⅰ 技術経営論Ⅱ 技術経営論Ⅲ
コア科目	戦略的技術開発論 技術経営組織論 技術基盤企業のマーケティング 会計・財務 ファイナンス戦略 技術基盤企業のヒューマンリソースマネジメント 技術・知財関連法 知財戦略論 価値創出マネジメント 技術基盤企業のプロジェクトマネジメント 技術経営研究方法論 新技術および新事業の提案・企画・評価演習
プログラム科目	特殊講義(外書講読・英語ディスカッション) Technology managementⅠ Technology managementⅡ Technology managementⅢ Special Lecture プラクティカムⅠ プラクティカムⅡ

展開科目	研究開発戦略 技術・事業評価論 技術倫理 技術経営史 サービスイノベーション 技術基盤企業の戦略経営 国際知的財産 企業リスク・マネジメント 意思決定論 バリューチェーンマネジメント イノベーション戦略論 起業家戦略 ITマネジメント 管理会計概論 特殊講義(イノベーション・ダイナミクス) 先端科学技術とビジネス MOTキャリアデザイン 生産プロセスマネジメント 特殊講義(意思決定のためのデータ分析) 特殊講義(知財情報工学) 特殊講義(交渉戦略と実践) 技術系ベンチャー論 ヘルスケア・マネジメント 特殊講義
------	--

研究指導科目	技術経営演習Ⅰ 技術経営演習Ⅱ 技術経営研究Ⅰ 技術経営研究Ⅱ
(博士課程後期課程)	
選択科目	特殊研究(統計データ解析・英文ジャーナル) 特殊研究(定性分析) 特殊研究(定量分析) 特殊研究(研究方法の実践) 特殊研究(統計特論) 特殊研究(Literature Review) 特殊研究(Research Methods) 特殊研究(Empirical Methods) 特殊研究(Independent Study) 特殊研究(Structural Analysis of Research Papers) 特殊研究
研究指導科目	特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ 特別研究Ⅴ 特別研究Ⅵ

#### 理論と実践の橋渡し

##### ■ 実務経験を持たない学生

「プラクティカム(課題解決型長期企業実習)」  
企業の現場の課題(事業計画、マーケティング、知的財産など)について、学生が指導教員と共に課題解決を行います。概ね3~6ヶ月間で研究成果を出し、実習先に報告と提案を行います。  
(協力先)アビームコンサルティングなど約30社

##### ■ 社会人学生

勤務先の業務課題を論文のテーマにできます。博士課程前期課程については、業務情報を開示することに問題がある場合は、学位論文の内容を非公表にすることも可能です。

### ■ 多様な研究分野と学位論文テーマ —過去の修士論文・博士論文テーマ例—

◇ビッグデータ活用におけるITガバナンスの重要性—COBITにおける事例検証— ◇企業における知的財産戦略に係る有効な特許出願の仕方について ◇医療機関におけるIoT生産方式導入の促進・阻害要因の調査 ◇医薬品市場における付加価値と売上との相関—利便性と売上との相関— ◇宇宙技術スピノフによる製品開発の成功要因 ◇民間航空機開発プロジェクトにおける遅延メカニズムの研究 ◇有価証券報告書のテキストマイニングによる高利益・低利益企業の特徴分析 ◇製品開発および製品の多様化による日用品食品の競争優位の確立—マーケティングAP分析および支配的デザインの観点から— ◇バイオ医薬品の創世期における組織間連携の時系列分析—連携の目的とタイミングにおける日本と海外の違い— ◇ノウハウ保護のための特許制度と方法の発明の保護戦略—先使用権の法的解釈と方法の発明の保護戦略マトリクスの提案—

# 経営管理研究科 [ビジネススクール]

Graduate School of Management



## ビジネスを創造するリーダーを育成

立命館大学ビジネススクール(大学院経営管理研究科)のカリキュラムは、ビジネスを創造する人材の育成を意図しています。実務経験に応じて分けられた2つのプログラム〜「マネジメントプログラム」と「キャリア形成プログラム」〜では、それぞれ段階的な学習によって、ビジネスを体系的に理解することが可能です。修了時には経営修士(専門職)[Master of Business Administration(MBA)]の学位を授与します。

### 学位授与方針<ディプロマ・ポリシー>

本研究科は、ビジネスを創造するリーダーとして世界と日本の持続的発展に貢献する人材育成に必要な次の6つの教育目標を定める。所定の単位(46単位)の取得をもって教育目標の達成とみなし、学位を授与する。

- (1) 企業経営の諸側面について広範な知識を身につけている
- (2) 企業経営に必要な思考力・分析力・判断力を身につけている
- (3) グローバルな変化に関心をもちイノベーションを構想できる
- (4) 正しい倫理観をもちリーダーシップを発揮できる
- (5) 企業経営にかかわる調査・分析を行うことができる
- (6) 高度なコミュニケーション能力を身につけている

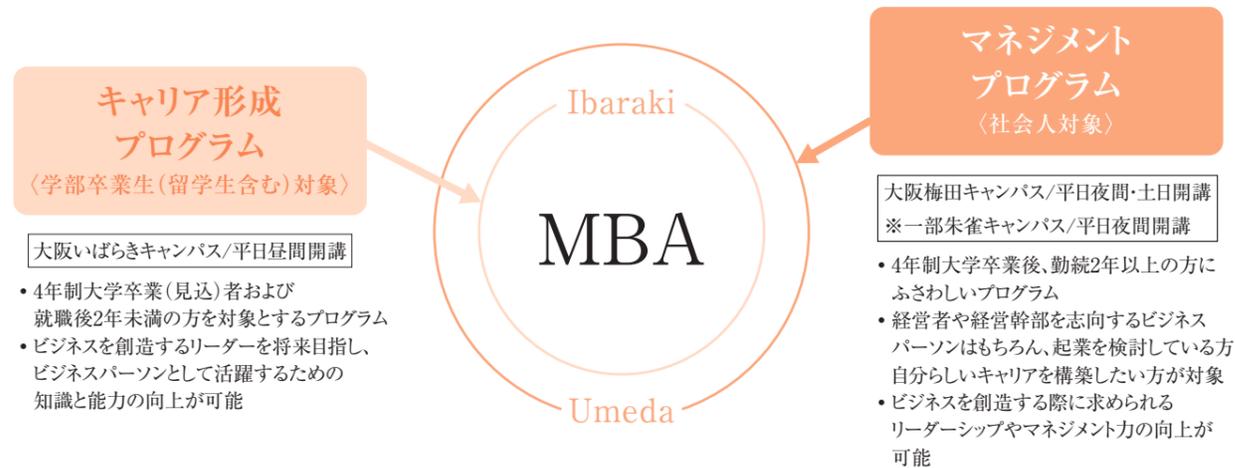
### 入学者受け入れ方針<アドミッション・ポリシー>

教育目標の達成に向けて、本研究科は次のような能力を有する入学者を期待している。

- (1) 企業経営に関して問題意識を持っている  
 そのような問題意識を持つことが本研究科での勉学意欲の原動力となる。また、実務において、問題を解決するために上司・同僚、取引先などと緊密に協働することが必要となる場合も多く、そのために高度なコミュニケーション能力を身につけることが必要となる。さらに利益追求を超えた企業の社会的責任について問題意識を持つことによって、高い倫理観を持つリーダーとしての自覚も高まる。
- (2) 企業経営を理解するための基礎的能力を有している  
 企業経営の諸側面について広範な知識を身につけ、企業経営に必要な思考力・分析力・判断力を養うには、経営学や会計学における諸問題を理解するための基礎的能力が必要である。
- (3) 特定の能力や専門性の高い能力を有しようとする強い熱意を持っている  
 例えば、グローバルな変化に関心をもちイノベーションを構想するには外国語の知識や能力を求められる場合があり、また、企業経営にかかわる調査・分析を行うには大量のデータを分析する統計学の知識が必要となることから、こうした能力を有しようとする強い熱意を持っていることが求められる。
- (4) 修了後の専門性の高いキャリアを見据えた目的意識を持っている  
 修了後のキャリアについて目的意識を持つことが、学習内容を明確化し、勉学意欲を増進する。また、それがビジネスを創造するリーダーとして世界と日本の持続的発展に貢献する人材に成長するには不可欠である。

経営管理研究科の詳細は

## 対象者別の2つのプログラム



## カリキュラム(2019年度入学者用(予定) \*「特殊講義科目」は2018年度実績)

	基礎科目(14単位以上必修)		展開科目(特殊講義科目を除くプログラム指定の科目群から16単位以上必修)		演習科目(4単位必修)	実習科目
	A群(10単位以上必修)	B群	企業経営の各分野の専門的な力量を形成する科目群			
マネジメントプログラム	競争戦略	国際政治経済	【ビジネス科目群】		戦略経営の実践	ゼミナール キャンパス外で学ぶ
	マーケティング		経営政策	国際経営戦略		
	組織行動	論理的思考とプレゼンテーション	アントレプレナーシップ	事業創造	オーナーシップ	
	ファイナンス		組織ユニット	キャリア開発		
	アカウンティング	企業倫理	人的資源管理	異文化マネジメント	戦略コンサルティング	
	企業分析		マーケティングユニット	異文化マネジメント		
	技術経営	統計学	マーケティングリサーチ	消費行動	組織変革	
			商品開発	サービスマネジメント		
			ファイナンスユニット	消費行動	コマツウェイ	
			M&A戦略	ストラクチャードファイナンス		
		コーポレートファイナンス	投資戦略	新時代の金融システムと人材創造		
		会計ユニット	投資戦略			
キャリア形成プログラム	競争戦略	国際政治経済	【ビジネス科目群】		介護経営	課題研究I 課題研究II インターンシップ フィールドワーク
	マーケティング		産業動態分析	キャリア開発		
	組織行動	論理的思考とプレゼンテーション	マーケティングリサーチ	商品開発	医療経営	
	ファイナンス		アントレプレナーシップ	ビジネスプラン		
	アカウンティング	企業倫理	異文化マネジメント	イノベーション戦略	フードマーケティング	
	企業分析		統計学	サービスマネジメント		
	技術経営	経営リテラシー	【会計ファイナンス科目群】		ファッション・マーチャンダイジング	
			会計リテラシー	財務諸表		
			コーポレートファイナンス	M&A戦略と企業価値評価	ほか	
			投資戦略	コーポレートガバナンス		

修了に必要な修得単位：46単位以上

# 人間科学研究科

Graduate School of Human Science



社会の中に生きる  
心理学・人間科学の創造をととして、  
学術と社会の発展に貢献する人材を育成。

21世紀になってから深化している人間諸科学の基礎的理解を深めると共に、アカデミック人間科学とプロフェッショナル人間科学の架橋、往還、連携、統合による「社会のなかの人間科学」としての役割を果たせる人材の育成を目指す。

## 入学者受け入れ方針〈アドミッション・ポリシー〉

### ■ 博士課程前期課程

- 心理学の基礎的分野、応用的分野、対人援助や人間理解に関する分野に関する基礎的知識を有し、こころ、行動、人間について総合的な視野を持つ者
- 人間にかかわる問題を主体的に発見し、それを解決するために、科学的・客観的な方法を用いることを意欲と関心を持つ者
- 人間にかかわる問題の解決のために、理論と実践を相互還元させてとらえる視点を有し、他者を尊重し、他者と協働する姿勢を有する者
- 人間科学の国際的展開に積極的に参加してこようとする者

### ■ 博士課程後期課程

- 人間科学(心理学、臨床心理学、対人援助学)の専門的知識をもとにして人間についての諸問題を科学的・総合的にとらえることができる者(知識・理解)
- 人間科学(心理学、臨床心理学、対人援助学)についての専門的技能と対応力を習得し、理論と実践を相互還元させてとらえることができる者(技能・表現)
- 人びとのニーズや社会的要請を適切にとらえ、新しい人間科学(心理学、臨床心理学、対人援助学)の創造に高いこころざしをもって挑戦することができる者(価値・姿勢)



人間科学研究科についての詳細は [立命館 院 人間科学](#) [検索](#)

## ■ 3つの領域での多様なプログラム

### 博士課程前期課程

#### 心理学領域

基礎心理学特論 認知心理学特論  
教育心理学特論 発達心理学特論  
社会心理学特論 健康心理学特論  
司法・犯罪心理学特論  
産業・組織心理学特論  
教育評価・心理査定研究  
家族心理学特論 老年心理学特論  
心理学統計法 心理学研究法  
心理学演習I II III IV

#### 臨床心理学領域

臨床心理学特論I II 心理療法特論  
臨床心理査定演習I II 社会病理学特論  
臨床心理面接特論I II  
学校臨床心理学特論 臨床心理地域援助特論  
グループアプローチ 精神医学特論  
臨床心理学基礎実習 臨床心理学実習  
臨床心理学演習I II III IV

#### 対人援助学領域

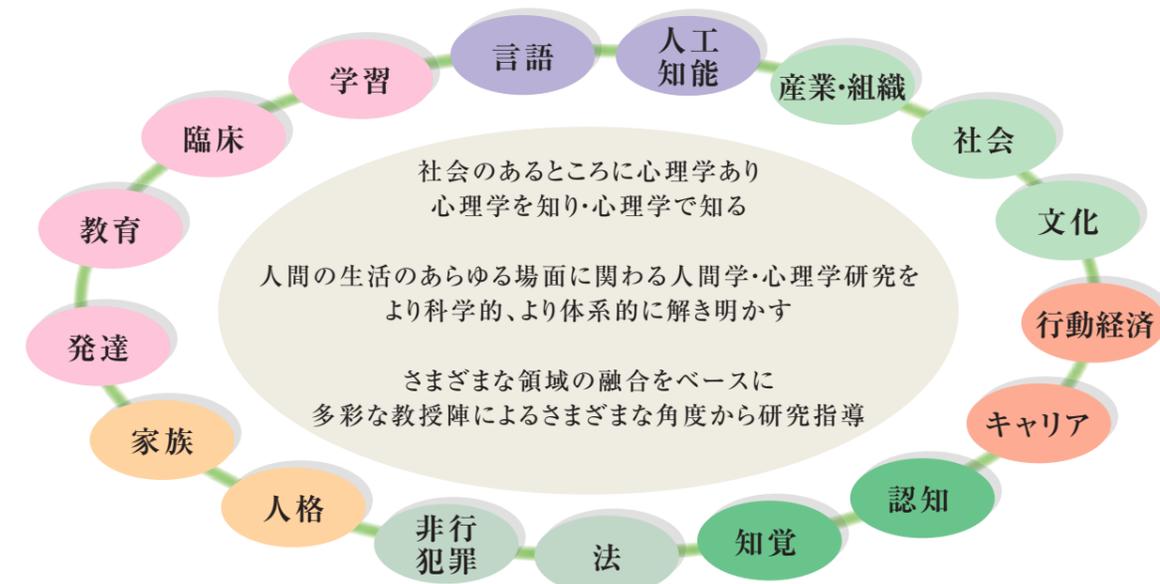
対人援助学研究法I II 臨床心理学研究  
教授・学習学研究 学校カウンセリング研究  
対人援助学特論 ソーシャルワーク研究  
ユースワーク実践研究 司法臨床研究  
対人援助技術研究 臨床倫理研究  
生徒指導・進路指導研究 障害児教育研究  
認知行動療法特論  
対人援助学実習 インターンシップ  
心理実践実習  
対人援助学演習I II III IV

共通科目 社会のなかの人間科学 人間科学特論

### 博士課程後期課程

人間科学シンポジオンI II III 人間科学プロジェクト演習I II III IV V VI

## ■ 特色ある多彩な研究領域



## ■ 研究指導方法

学部からのストレート進学院生や留学生、社会人院生などの幅広い院生受入れを行うため、研究指導の現場においても相互に係わり合いを持ちながら、研究を推進していきます。それによって、より具体的な現場の実践とアカデミックな領域での理論との融合が期待できます。現社会人院生のための夜間開講や土曜日開講も取り入れております。

## ■ 施設紹介



動物行動実験室

シールドルーム

脳機能画像分析装置

プレイルーム

# 法科大学院 [法務研究科]

School of Law



## 市民的感觉と地球的な視野を備えた「地球市民法曹」を養成

私たちは、立命館大学の伝統と実績、総合性・多様性と進取の精神を受け継ぎ、「21世紀地球市民法曹」の養成を目指しています。

「21世紀地球市民法曹」とは、グローバルな視点と鋭い人権感覚を備え、様々な分野・専門領域において活動する法曹を意味します。グローバル化の進展によって、世界をフィールドに活躍する法曹が求められているだけでなく、地域に奉仕する法曹であっても、身近に起こる法的問題を地球規模の広がりの中でとらえ対応することが求められます。市民の立場に立って地球的視点で活動できる法曹こそ、今もっとも必要とされているのです。また、社会の法に対する需要が増大、多様化する21世紀においては、法曹は、国際取引、知的財産権、税、環境保護、人権擁護等々、なんらかの専門分野を持つ必要があるでしょう。さらに、今後は、企業や官庁において活躍する法曹も増えることと思います。こうした21世紀に求められる法曹像を「地球市民法曹」ととらえ、多様なバックグラウンドをもった学生が各人のめざす「法曹像」を中軸に据えながら豊かな人間性と、鋭い人権感覚、幅広い教養と共に、グローバルな視点と高い専門性を身につけることができるような教育を行っています。

### 入学者受け入れ方針〈アドミッション・ポリシー〉

立命館大学法科大学院は、豊かな人間性と国際的視野をもって活躍する地球市民法曹の養成をめざします。

そのために、1学年に法学未修者を20名程度、法学既修者を50名程度受け入れます。優秀な法学既修者を多く受け入れることによって、法学未修者にも学習面での刺激を与えることを期待しています。

入学者像を考えるにあたり、国際競争力を高める上で必要な法曹の育成を視野に入れ、法的紛争の国際化に対応できる人材を養成するため、英語等外国語能力に秀でた学生が入学できるように努めています。さらに、複雑化する現代社会に対応できる法曹を輩出するには、文系理系を問わず多様な背景を持った社会人や法学部以外の学部出身者の入学も重要です。社会人と非法学部出身者を合わせて、毎年入学定員の3割程度は受け入れたいと考えています。

最後に何よりも大事なことは、法曹への意欲と使命感にあふれる人材に入学してもらうことです。

立命館大学法科大学院の入学試験においては、これらの点を重視します。

法科大学院についての詳細は [立命館 法科大学院](#) [検索](#)



## プログラムの紹介

### 法律基本科目

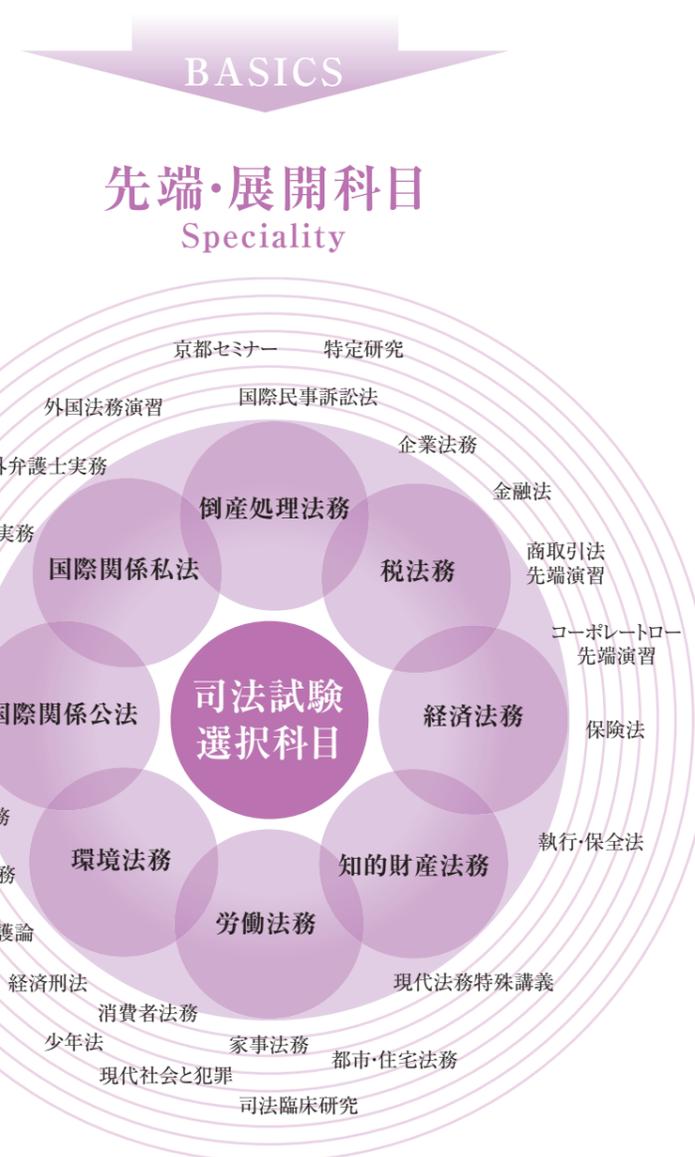
実務上生じうる問題の合理的解決を念頭におきつつ、法の体系・理論を理解することが目的。主として研究者教員の指導のもと、憲法・行政法・民法・商法・民事訴訟法・刑法・刑事訴訟法を中心に履修する。専門的な法知識の確実な習得を行う。

### 実務基礎科目

主として実務家教員が担当し、理論が実務にどう関わるかを学習する。3年次の実務基礎科目である3つの総合演習においては、研究者教員と実務家教員による共同指導のもとで、実体法と手続法とを統合した事例問題を検討し、現実の法領域横断的な問題、複合的問題を学習する。

### 基礎法学・隣接科目

法知識を批判的に検討・発展させていく創造的な思考力と、事実に即した具体的な問題解決に必要な法的な分析・議論能力の育成、豊かな人間性の涵養・向上に寄与する科目群。



※先端展開科目は8つの司法試験選択科目分野を中心とし、法曹としての専門性を身につける科目群を講義科目と演習科目をセットとして系統的に受講できるよう配置に努めています。

例えば、税法務I(2単位) + 税法務II(2単位) + 税法務演習(4単位)のように、それぞれの分野で8単位分の授業が展開されています。

# 教職研究科 [教職大学院]

Graduate School of Professional Teacher Education



## 総合的な力と専門性を身に付け、 グローバルな時代に対応できる教員になる!

教職研究科は複雑化する教育現場の課題に対応できる高度な力量を持った教員を養成するための専門職大学院です。

本研究科では理論と実践の往還を目指し、本学附属校をはじめ、立命館大学のキャンパスがある、京都、滋賀、大阪の教育委員会と連携しながら学校現場でのフィールドワーク、長期の実習などを組み入れた特色ある教育プログラムを展開しています。研究者教員と実務家教員による丁寧な指導によって、教員としての高い指導力と将来スクールリーダーとして活躍できる力を獲得することができます。

### 入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)

教職研究科は、学士課程における教員養成教育や教育現場での実践経験に基づき、教育活動に関する実践知の科学化と理論知の実践化について学際的に追究することにより、教育と学習の価値的な意義を深く理解し、社会に要請される教育的課題に応える高度な専門的知識と実践的指導力を有するとともに、平和と民主主義の精神、地球市民としての資質を持った人間力のある教育実践者の養成を目的としています。

そのため、教職への深い理解と基本的実践力を備えた、次のような条件を満たす人材を求めています。

- 学部での教職の学びを通して、教員としての基礎的知識や指導力をもち、さらに、教員としてより高い指導力、専門性、実践力を身につけたいという高い意欲と熱意をもっている学生。
- 大きく変化する教育の中で活躍する教員として、新たな教育課題に対応していく力を、「理論と実践の往還」をはかる中で身につけたいという高い意欲をもった学生。
- 教科指導、生徒指導、学級経営、学校経営などの課題を組織の中で協働して解決に導ける基本的力量を備え、新しい学校づくりの若手のリーダー教員を目指す学生。
- 教職経験の中で培った力量を、総合的にさらに高度化し、協働して取り組む新しい学校づくりの中核を担うリーダー教員を目指す現職教員。

### 開講科目一覧

領域	コース共通科目	コース必修科目
第1領域:教育課程の編成・実施に関する領域 カリキュラムデザインの理論と方法	教育実践高度化演習1 教育実践高度化演習2	臨床教育コース科目 学校におけるメンタルヘルスの理論と実際 学校教育相談・学校カウンセリングの理論と方法 問題行動とその対応 ピア・サポートによる生徒支援の実際と課題
第2領域:教科等の実践的な指導方法に関する領域 授業デザインの理論と方法 教育方法・学習科学の理論と実践	人間理解・対人援助の理論と方法 道徳教育の理論と課題 小学校英語教育実践研究 キャリア教育の理論と実際	教育方法・学習科学コース科目 学習意欲の理論と実際 授業におけるICT活用 新しい教育内容の実践と課題 授業実践の高度化と授業研究
第3領域:生徒指導、教育相談に関する領域 臨床教育の理論と方法 生徒指導・教育相談実践演習	外国人児童・生徒支援論 実践教育特殊講義 国語科教育実践研究 算数・数学科教育実践研究	国際教育コース科目 世界の子どもと教育支援 グローバル・シティズンシップ教育の構想と課題 国際交流プログラムデザインの理論と方法 IB教育の理論と実際
第4領域:学級経営、学校経営に関する領域 学校マネジメントの理論と実際 特色ある学校づくりの実際と課題 学級づくり実践演習	社会科教育実践研究 英語科教育実践研究 理科教育実践研究 保健体育科教育実践研究	
第5領域:学校教育と教員の在り方に関する領域 現代の学校と教育実践 現代の教師と教育実践		
第6領域(独自領域):国際教育に関する領域 国際教育の理論と方法		
専門実習科目 教職専門研修1 教職専門研修2 教職専門研修3 教職専門研修4	取得可能な免許状 小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状(国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語、宗教) 高等学校教諭専修免許状(国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、書道、保健体育、家庭、情報、工業、商業、福祉、英語、宗教) ※専修免許状の取得には、一種免許状を取得していることが条件となります。 ※2018年4月現在、教職課程再課程認定申請中のため文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開講時期が変更となる可能性があります。	

教職研究科についての詳細は [立命館 教職研究科](#) [検索](#)

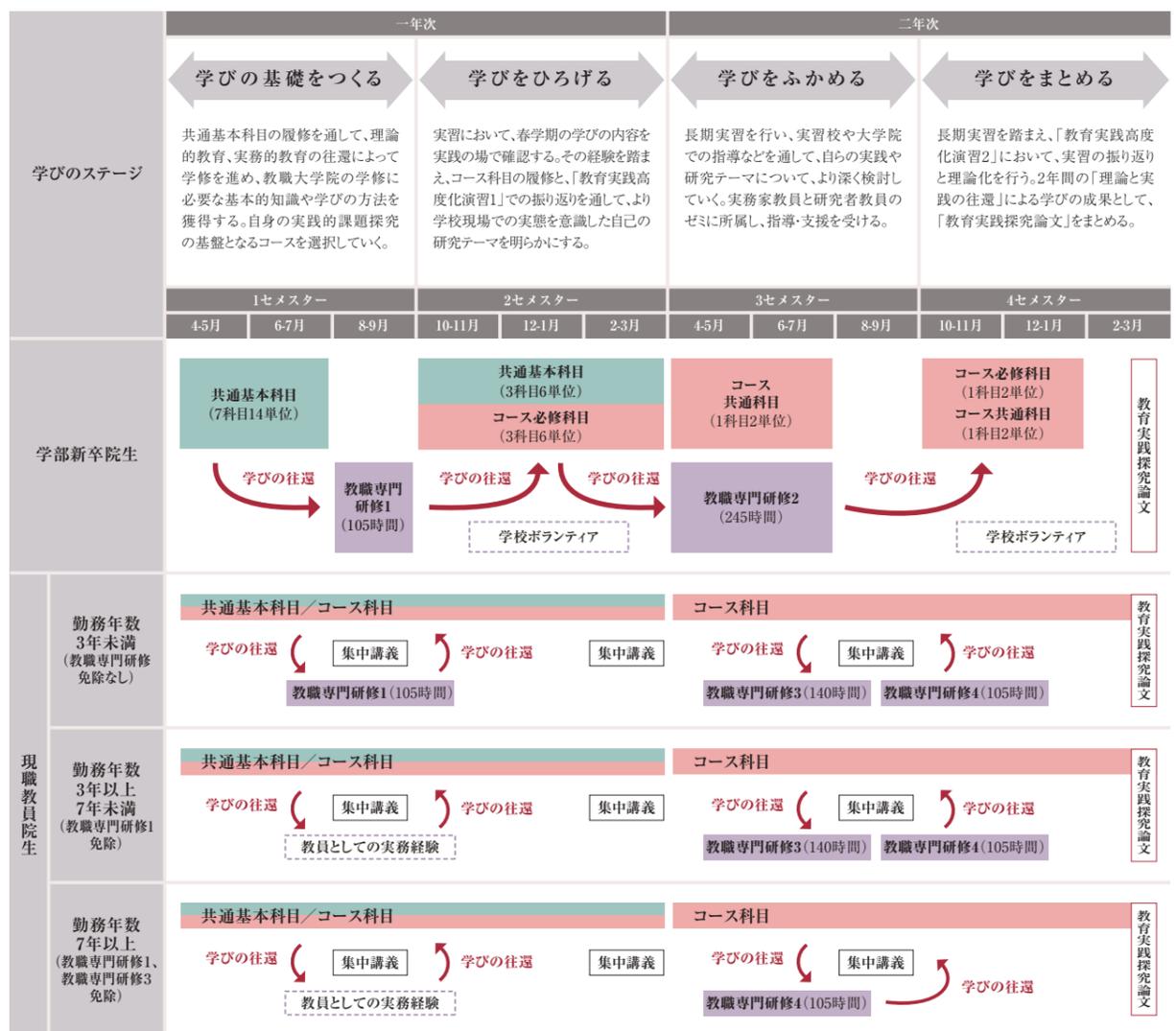
### 特色ある3つのコースについて

いじめ、不登校、保護者対応など生徒指導上の課題に対して適切に対応していく力量の形成は、現代の教員にとって不可欠です。また、OECDの提起した「キー・コンピテンシー」概念に端を発し、知識基盤社会を担う人材に求められる21世紀型スキルの獲得は、学校教育においても重要なテーマとなっています。探究力や知識活用力、汎用的スキルの育成が求められるなど、新しい知識・能力観に基づく教育実践と、それを可能とする教員の力量形成が喫緊の課題となっています。さらに、外国人児童生徒への対応、グローバル化への対応、教育分野における国際協力など、グローバル化時代の教育を支える教員としての力量の形成も、これからの教員に課せられた大きな課題となっています。

教職研究科では、「臨床教育」「教育方法・学習科学」「国際教育」を3コースとして設定することで、立命館ならではの特長的な教育を展開します。なお、コースについては、入学時に決定するのではなく、一年次春学期に各コースの導入的な内容を扱う科目を受講し、その学修の中で自らの問題意識を明確にさせたいと、選択できます。

臨床教育	教育方法・学習科学	国際教育
多様化する児童生徒の諸課題(いじめ、不登校、発達障害、児童虐待、少年事件等)の本質をとらえ、関係機関と連携した課題解決と思春期・青年期の支援などに関して、実践的・理論的な教育・研究を進める必要があります。例えば、保護者支援に関しても関係機関と連携したネットワーク支援のあり方について、検討が求められています。そのために、学校、家庭、地域・社会などをフィールドとし、教育と人間形成への理解を深めながら、児童生徒の発達課題への知見を踏まえた生徒指導・教育相談、教師教育、保護者支援などに関して、実践的・理論的な教育・研究を行います。	「学習」「学び」について、教育学や心理学の最新の成果をふまえて、科学的に解明し、その理論的枠組みに基づいた、新しいタイプの教育実践を行うことができる人材を育成します。従来の学習論や教育方法論の枠にとどまらず、「学習」「学び」を多角的に分析し、より高度な教育実践のあり方を探究することができます。同時に、アクティブ・ラーニング、課題解決型授業、反転授業など、新しい学びを適切に評価するための方法(教育評価論)も探究します。さらに、これらの知見を、教科指導に活かす方法を探究します。	グローバル時代の教育のあり方を多角的に分析し、IB(国際バカロレア)教育、グローバル教育、外国人児童生徒の教育、ESD(Education for Sustainable Development:持続可能な開発のための教育)、グローバル・シティズンシップ教育といったグローバル時代に必要とされている教育を支える人材を育成します。現在1,000校あまりに増加したユネスコスクール認定校、IB認定校をはじめ、各学校において国際教育領域でリーダーシップを発揮できる教員としての力量の獲得を目指します。

### 履修イメージ



# アクセス

(2018年3月現在)

各キャンパスへの  
交通機関

衣笠CAMPUS	交通機関	所要時間	目的地	
JR・近鉄・地下鉄 京都駅 (烏丸中央口)	市バス (京都駅前)	約42分	立命館大学前(終点)	
	快速205	約36分	立命館大学前(終点)	
	203	約38分	衣笠校前 徒歩約10分	
	JRバス (京都駅)	高尾京北線	約30分	立命館大学前
		205	約13分	衣笠校前 徒歩約10分
	市バス (西大路四条)	快速202 快速205	約15分	立命館大学前(終点)
		京福	嵐山本線・北野線 (帷子ノ辻乗換)	約22分
	市バス (西条大宮)	35	約25分	立命館大学前(終点)
		JRバス (西条大宮)	約18分	立命館大学前
	京阪 西院駅	市バス (西条大宮)	約53分	立命館大学前(終点)
市バス (三条京阪前)		約34分	立命館大学前(終点)	
地下鉄 三条京阪駅		約36分	立命館大学前(終点)	
JR・地下鉄 二条駅	市バス (二条駅前)	約20分	立命館大学前(終点)	
	JRバス (二条駅前)	約14分	立命館大学前	
JR 円町駅	快速202 快速205	約8分	立命館大学前(終点)	
	市バス (西ノ京門町)	約10分	立命館大学前(終点)	
	臨	約9分	立命館大学前(終点)	
	204 205	約5分	衣笠校前 徒歩約10分	
	JRバス (円町)	約8分	立命館大学前	

びわこ・くさつ CAMPUS (BKC)	交通機関	所要時間	目的地
京阪 中書島駅	京阪バス (京阪中書島)	直行便 約35分 土日祝・学休日は運行しません。	立命館大学
JR 大津駅	近江鉄道バス (大津駅)	直行便 約25分 土日祝は運行しません。	立命館大学
JR 大阪駅	JR 新快速約50分	立命館大学行き	立命館大学
JR 京都駅	JR 新快速約20分	立命館大学行き	立命館大学
JR・近鉄 奈良駅	JR・近鉄(京都駅経由) 約70分	立命館大学行き	立命館大学
JR 三ノ宮駅	JR 新快速約70分	立命館大学行き	立命館大学

大阪いばらき CAMPUS (OIC)	交通機関	所要時間	目的地
JR 大阪駅	JR 快速約11分	茨木駅 徒歩約5分	立命館大学
阪急 梅田駅	阪急 準急約18分	南茨木駅 徒歩約10分	立命館大学
モノレール 門真市駅	モノレール	宇野辺駅 徒歩約7分	立命館大学
モノレール 大阪空港駅	モノレール	宇野辺駅 徒歩約7分	立命館大学
JR 京都駅	JR 新快速約12分	JR 高槻駅 快速約5分	茨木駅 徒歩約5分
JR 三ノ宮駅	JR 快速約41分	茨木駅 徒歩約5分	立命館大学
京阪 枚方市駅	京阪バス (枚方市駅北口)	約45分	立命館大学(岩倉公園前)
阪急 茨木市駅	京阪バス (阪急茨木)	約7分	立命館大学(岩倉公園前)

大阪梅田 CAMPUS (大阪富国生命 ビル5F・14F)	交通機関	所要時間	目的地
JR 大阪駅	JR南口	徒歩約5分	立命館大学
阪急・阪神 梅田駅	阪急中央改札口/阪神東改札口	徒歩約5分/徒歩約3分	立命館大学
地下鉄御堂筋線 梅田駅	南改札口	徒歩約3分	立命館大学
地下鉄谷町線 東梅田駅	北東改札口	徒歩約1分	立命館大学

朱雀CAMPUS	交通機関	所要時間	目的地
JR・近鉄・地下鉄 京都駅	JRまたは地下鉄(烏丸御池乗換)	約10分	JR・地下鉄 二条駅 徒歩約2分
阪急 梅田駅	阪急	約40分	阪急 大宮駅 徒歩約10分

キャンパスを結ぶシャトルバスも運行中  
正課、また課外活動に参加する本学学生のために、衣笠キャンパス、びわこくさつキャンパス(BKC)、大阪いばらきキャンパス(OIC)を結ぶシャトルバスを運行しています。

# 立命館大学大学院に関する情報の入手方法

## イベント情報

立命館大学大学院への進学をお考えの方に向けて、各種イベントを実施しています。是非ご参加ください。

### ■研究科合同入試説明会

申込・参加費不要 / 過去問題閲覧可 / 個別相談可

- 本説明会は研究科合同のイベントとして、春季と秋季に各キャンパスにて開催します。
  - ◆全体説明会・大学院の概要や特徴、学費・奨学金、進路・就職、キャリア支援等の説明。
  - ◆研究科個別相談会・研究科紹介、研究指導体制、カリキュラム、入試等の説明。
- 直接研究科の教職員に相談ができる機会です。  
また、現役の大学院生と懇談できる場合もあります。  
(日程によって参加研究科および個別相談会の体制や実施方法は異なります。詳細はホームページで確認してください。)



### ■研究科別入試説明会

研究科主催で個別説明会を実施します。  
開催日程については、ホームページを確認してください。

### ■大学院ウィーク

各キャンパスにて「大学院」に関わる企画を集中した期間に実施します(大学院授業・施設見学、教員・修了生・大学院生との懇談や相談会、大学院に関わるセミナーなど)。低回生にも大学院のことを知ってもらう機会ですので、お気軽にご参加ください。日程や企画内容はホームページで確認してください。(一部の企画は学内生に限る場合があります。2017年度は11月に実施。)

## ホームページ

立命館大学大学院に関する情報について、「立命館大学大学院 入試情報サイト」から確認することができます。入学試験要項のダウンロードやインターネット出願サイト「Ritsu-Mate」へのリンクの他、イベント情報、過去問題、教員情報等についても掲載しています。

立命館大学 大学院 入試情報サイト

検索

URL : <http://www.ritsumei.ac.jp/gr/>

入学試験要項  
(出願書類)  
過去問題  
過去の入試結果

インターネット出願サイト  
「Ritsu-Mate」へのアクセス

研究科合同入試説明会  
研究科別説明会  
大学院ウィーク

研究科ホームページへのリンク

教員情報の検索

ホームページの情報・構成は変更されることがあります。  
○2019年4月入学の入学試験要項は2018年4月下旬公開予定です。  
○2019年9月入学の入学試験要項は2018年10月下旬公開予定です。